地質学雑誌　第118巻　第8号（通巻1403号）付録　平成24年8月15日発行（毎月1回15日発行）

日本地質学会第一一九年学術大会
（大阪大会）プログラム

会期　二〇一二年九月一五日（土）～一七日（月・祝）

日本地質学会 News

Vol.15 No.8 August 2012

地質情報展2012 おおさか

過去から学ぼう 大地のしくみ

2012年 9月

15(土) 16(日) 17(月・祝)

15日 13：00～17：00
16日 9：30～17：00
17日 9：30～16：00

入場無料

大阪市立自然史博物館・長居植物園へ入場される場合は、別途入場料が必要となります。

会場：大阪市東住吉区長居公園
大阪市立自然史博物館・花と緑と自然の情報センター

主催：一般社団法人日本地質学会・独立行政法人産業技術総合研究所地質調査総合センター・大阪市立自然史博物館
後援：大阪市教育委員会・堺市教育委員会・大阪府・NHK大阪局・毎日新聞社・朝日新聞社・一般社団法人全国地質調査業協会連合会・日本ジオパークネットワーク
（後援予定）大阪市、堺市、読売新聞大阪本社、関西地質調査業協会

大阪および周辺地域の地質をはじめとして、最新の地質学の成果や地震・津波・地盤災害の起こるしくみをわかりやすく体験的に“展示・解説”します。小学校入学前のお子様からお年寄りまで、皆さんに楽しみながら「地質」を学んでいただけるイベントです。

また、さまざまな“体験学習コーナー”を用意しており、実験や実演を通じて地質学をわかりやすく学ぶことができます。

ぜひ、「地質情報展2012おおさか」にご来場ください。

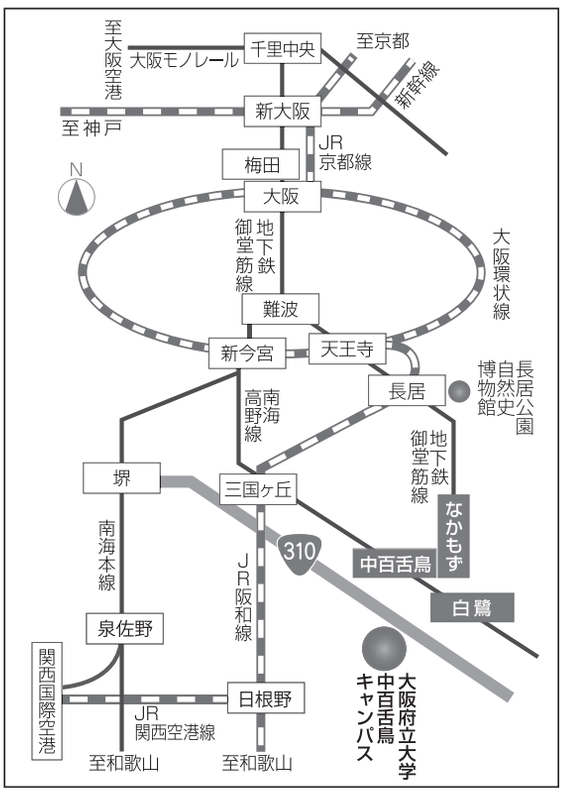
【問い合わせ】
独立行政法人 産業技術総合研究所 地質調査総合センター 地質情報展開催事務局
E-mail: johoten2012jimu-ml@aist.go.jp / TEL: 029-861-3836
URL: http://www.gsj.jp/HomePageJP.html

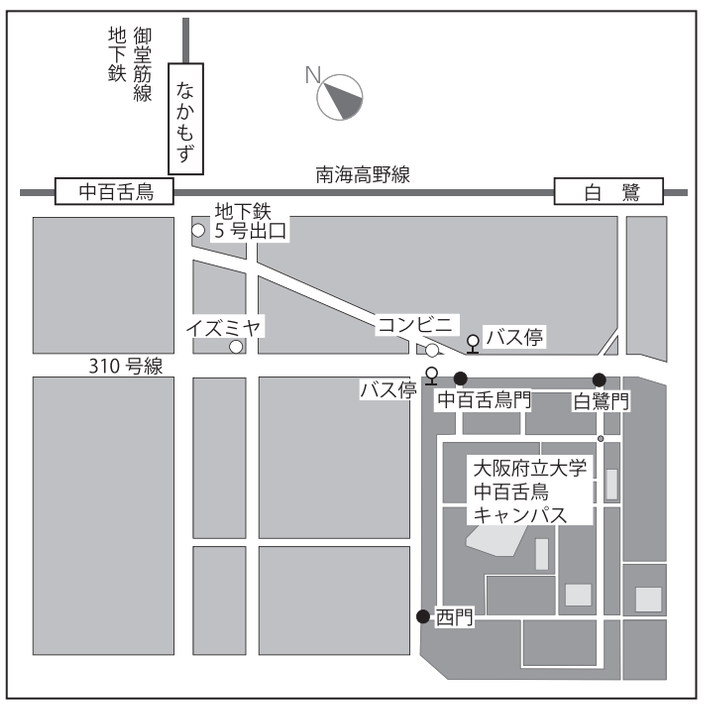
「地質情報展 2012 おおさか 過去から学ぼう 大地のしくみ」は、平成24年度科学研究費補助金研究成果公開促進費補助事業です。

日本地質学会第 119 年学術大会（2012 大阪）
プログラム

会期：2012 年 9 月 15 日（土）～ 17 日（月・祝）
会場：大阪府立大学中百舌鳥キャンパス
大阪市立自然史博物館・花と緑と自然の情報センター
共催：公立大学法人大阪府立大学

会場への交通機関のご案内





大阪府立大学中百舌鳥キャンパスへの行き方は以下の通りです.

<大阪府立大学中百舌鳥キャンパスの最寄り駅>

・南海高野線「中百舌鳥駅」，もしくは,地下鉄御堂筋線「なかもず駅」5号出口から南東へ約1,000 m.
・南海本線「堺駅」から南海バス（南口のりば，北野田駅前行31，32，32-1系統）で約24分，「府立大学前」下車.
・JR阪和線・南海高野線「三国ヶ丘駅」から南海バス（310号線沿いバス停，北野田駅前行31，32，32-1系統）で約14分，「府立大学前」下車.
・南海高野線「白鷺駅」から南西へ約500 m.

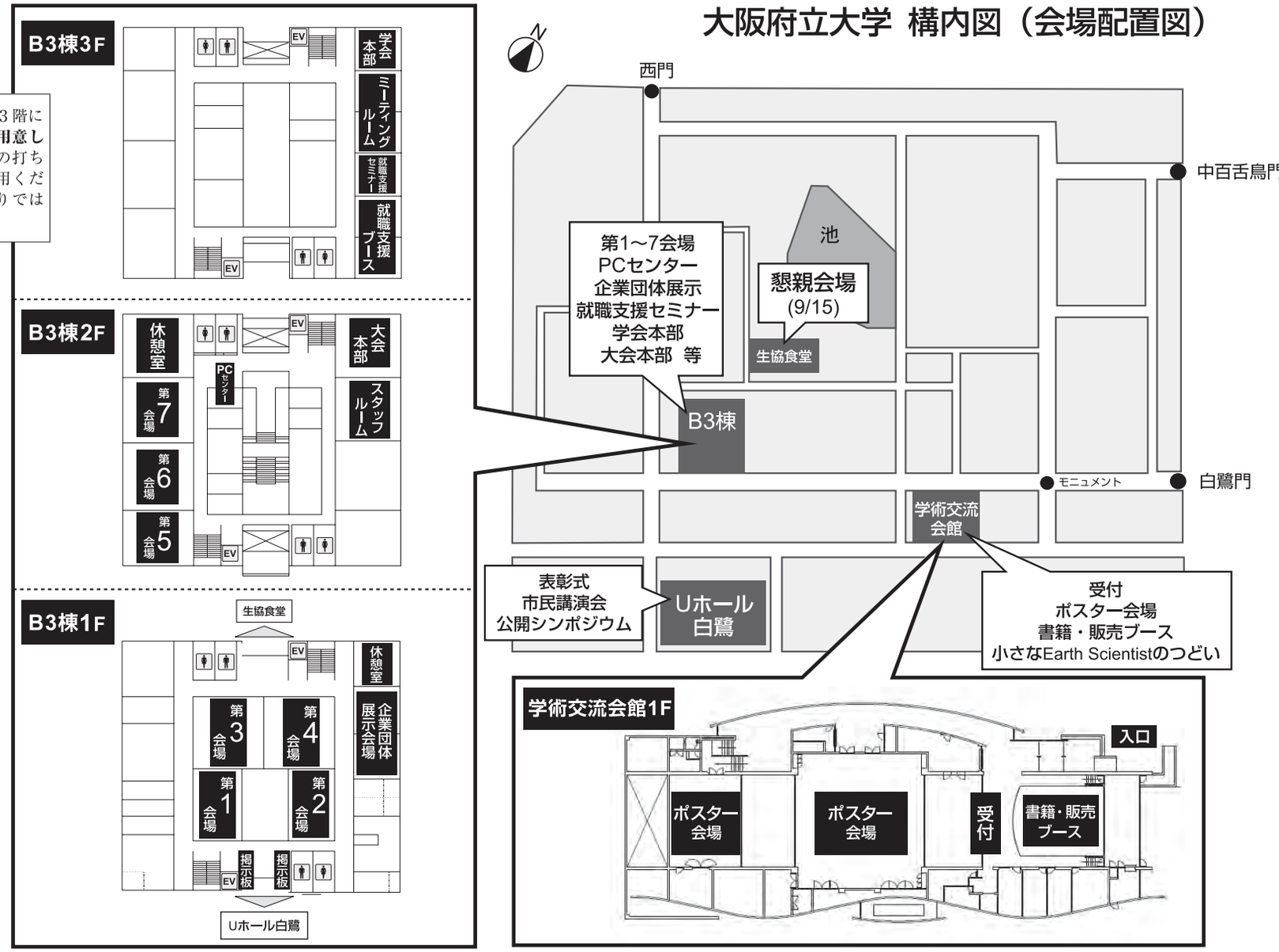
<JR新幹線新大阪駅，伊丹空港，関西空港からのアクセス>

・新大阪駅---<地下鉄御堂筋線>---なかもず駅
・伊丹空港---<大阪モノレール>---千里中央---<北大阪急行・地下鉄御堂筋線>---なかもず駅
・伊丹空港---<バス>---梅田駅（大阪駅）---<地下鉄御堂筋線>---なかもず駅
・伊丹空港---<バス>---なんば駅---<南海高野線>---中百舌鳥駅
・伊丹空港---<バス>---天王寺駅（あべの橋）---<地下鉄御堂筋線>---なかもず駅
・関西空港---<JR関西空港線・阪和線>---三国ヶ丘駅---<南海高野線>---中百舌鳥駅
・関西空港---<バス>---中百舌鳥駅
※大阪府立大学中百舌鳥キャンパスは駐車スペースが少ないため，乗用車でのご来訪は極力ご遠慮ください.

大阪市立自然史博物館・花と緑と自然の情報センターへの行き方は以下の通りです.

・地下鉄御堂筋線「長居駅」３号出口より東へ800 m
・JR阪和線「長居駅」東出口より東へ1000 m

※休憩室の他にＢ３棟３階に**ミーティングルームを用意しましたので**，少人数での打ち合わせ等に自由にご利用ください．ただし，貸し切りではありません．



※無線LANをご利用頂けます：休憩室とミーティングルーム，および，ポスター会場，Uホール白鷺エントランスホールでは，無線LANを各自のパソコンでご利用できます．無線LANのご利用方法については，休憩室等に掲示する予定です．

会員顕彰式・各賞表彰式・受賞記念講演

9月15日（土）15：30〜17：30　　会場：大阪府立大学Uホール白鷺

15：30 - 15：40　兪　剛民大韓地質学会会長ご挨拶
15：40 - 15：50　奥野武俊大阪府立大学学長ご挨拶
15：50 - 16：30　新名誉会員・50年会員顕彰式，各賞授与式
16：40 - 16：55　日本地質学会小澤儀明賞受賞スピーチ　山本伸次会員「とことんやってみる－変態科学と私－」
17：00 - 17：30　日本地質学会賞受賞講演　木村　学会員「地質学の自然観」

懇　親　会

9月15日（土）18：00〜20：00　　会場：大阪府立大学生協食堂

原則として予約制です（予約は８月 17 日 に締め切りました）．人数に余裕があれば当日参加の申込みも可能です．会場受付で確認し，当日参加の申込みをしてください．その場合の会費は，正会員･非会員（一般）6,000 円，名誉会員・50 年会員・院生割引会費適用正会員・学部割引適用正会員および会員の家族は 3,500 円です．非会員の会費は正会員に準じます．

当日の受付について

事前参加登録につきましては，８月17日に締め切りました．

入金済みの事前登録者には締切後，確認書２枚（本人控・受付提出用）と名札，懇親会とお弁当のクーポンを発送します．大会開催10日前には参加者の皆様のお手元に届くようお送り致します．**締切時点で入金確認が取れない場合は，未入金の旨記載された確認書のみ送付いたします**ので当日会場にて確認書をご提示いただき，入金の確認をして下さい．入金とクーポン発送が入れ違いの場合は，振込み時の控え等を会場にお持ちください．

当日確認書やクーポンを忘れた方は，専用の確認用紙に申込内容をご記入いただき，受け付けを済ませてください．確認がスムーズに行えますよう，ご協力をお願い致します．なお，別途領収書が必要な方は会場受付でその旨お申し出ください．当日のお支払いは，現金のみの取扱いとなります．クレジットカードはご利用いただけません．

■ 事前参加登録者

事前登録者用受付にて，**確認書に記載されている項目ごとに受付して下さい．**

受付にてネームカードホルダーをお渡ししますので『参加証（名札）』を入れ，大会期間中は身に付けてください．

1．確認書の提出（全員）→ネームカードホルダーの配布．要旨付きの場合は，要旨の配布
2．講演要旨追加購入（予約購入者のみ）→要旨の配布
3．懇親会→参加者は直接懇親会会場でクーポンを提示してください．
4．お弁当（予約者のみ）→お弁当の引き換え時にクーポンを提示してください．
5．巡検（参加者のみ）→名簿確認と参加最終確認

注：未入金者の方は，総合受付で入金確認した後，懇親会やお弁当のクーポンをお渡しします．

■事前登録をしていない方

1．当日は必ず参加登録をしてください．**参加登録費の有料・無料に関わらず備え付けの『参加登録票』に必要事項を記入し当日用受付へ**
2．当日参加登録費（講演要旨集付きです．要旨集が不要の場合でも割引はありません）
　正会員：9,500円
　院生割引会費適用正会員：6,500円
　学部学生割引適用正会員・名誉会員・50年会員・非会員招待講演者・学部学生（会員・非会員問わず）：無料（講演要旨は付きません）
　非会員（一般）：15,000円・
　非会員（院生）：9,500円
3．講演要旨当日販売
　会　員：4000円
　非会員：5500円
4．懇親会の当日参加費（ただし，人数に余裕がある場合に限る）
　正会員・非会員（一般）：6,000円
　名誉会員・50年会員・院生および学生割引適用正会員（家族および非会員院生・学生含）：3,500円

巡検および巡検案内書

巡検参加事前申込みは，８月17日に締め切りました．参加者への連絡などを大会ホームページに随時掲載いたします．

巡検案内書は，CD-ROM版を118巻８号（2012年８月号）に添付して会員に配布いたします．また，地質学雑誌の一部となっていますので，発行から３ヶ月目にはJ-STAGE<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja>にて公開をいたします．

なお，予告記事でもお知らせの通り，今大会の巡検では冊子体の案内書は作成いたしません．巡検参加者には，各班の巡検案内の複写を巡検当日に配布する予定です．

企業等団体展示/書籍販売

企業・団体・研究機関などによる展示を行います．会場は，大阪府立大学中百舌鳥キャンパスＢ３棟１Ｆ（106・107）を予定しています．７月27日現在，

株式会社蒜山地質年代学研究所，
ライカマイクロシステムズ株式会社，
石油資源開発株式会社，
メイジテクノ株式会社，
高知コアセンター，
NPO法人ジオプロジェクト新潟，
独立行政法人海洋研究開発機構，
東北大学グローバルCOEプログラム「変動地球惑星学の統合教育研究拠点」，
株式会社地球科学研究所，
ジーエスアイ株式会社，
カールツァイスマイクロスコピー株式会社，
山陰海岸ジオパーク推進協議会

から申し込みがありました．

また，学術交流会館サロンでは書籍・物品の展示販売コーナーを設けます．７月27日現在，

株式会社朝倉書店，
一般社団法人京都大学学術出版会，
株式会社テラハウス，
株式会社古今書院，
地学団体研究会，
関西地図センター，
株式会社ニチカ

からお申込みがありました．

※申込期限延長，追加募集等がある場合もあります．

随時大会ホームページをご覧ください．

お願い：堺市内の宿泊施設に宿泊される方へ

堺市内の宿泊施設への宿泊数に応じて，堺観光コンベンション協会より助成金が支給されることになっています．堺市内の宿泊施設へ宿泊される方は，会期当日，受付にて宿泊施設への提出書類をお渡しいたしますので，ご協力お願い申し上げます．

緊急展示

緊急かつホットなテーマについて議論する場を提供するために，会場内に，災害調査報告や速報性の高い新技術・成果紹介などの「緊急展示コーナー」を学術交流会館ポスター会場に設ける予定です．

問い合わせ先：行事委員会（main@geosociety.jp）
担当：石井和彦（大阪大会実行委員会）・須藤　宏（行事委員会）

大阪大会に関連したプレス発表

大阪大会での講演や行事について，９月上旬にプレス発表を行う予定です．例年多数のメディアに取り上げられ，会員の研究成果が大いに注目されています．社会への情報発信として特筆すべき成果は積極的に公表して行きたいと考えています．プレス内容は，発表後学会ホームページに掲載いたします．

大会期間中のお食事について

○**お弁当予約販売**（予約申込は締切りました）．予約弁当は，Ｂ３棟入り口（Uホール側）で配布します．引き換えのクーポンを忘れずにお持ち下さい．

○**生協食堂：**会期中の９月15日（土）～17日（月・祝）11：00～14：30（予定）に営業します．

注意：生協購買部は営業しませんので，中百舌鳥門前のコンビニエンスストア等をご利用ください．そのほか，中百舌鳥キャンパス周辺に飲食店があります．

事務局主催シニア昼食会のお誘い

大阪大会にご参加いただくシニア会員の方々と事務局職員の昼食会を今年も予定しています．

年会の合間のひと時，軽い昼食と近況談義などできれば，楽しいかと思います．ここでのシニアの定義は特にありません．我こそはシニア，私もシニア，シニアではない方も，どなたでもお気軽にお集まり下さい．

日　時　　2012年９月17日（月）大会最終日，12～14時
食事処　　未定
会　費　　未定（低額）
申　込　　９月16日（日）（会期の中日）まで受付ます
　　（担当　橋辺）
　地質学会事務局（電話　03-5823-1150）
　※会期中は会場内の学会本部の部屋（Ｂ３棟３Ｆ）

本大会の新しい試み

1）**午前の部の終了時間を11：45にします**．これにより，昼食およびランチョン（２日目，3日目）の時間確保をはかります．

2）**ポスター発表の使用可能面積を大幅に拡大**します（高さ210 cm，幅120 cm）．これにより，思い切ったポスターレイアウトが可能になります．また，スペースに余裕ができるため，隣のポスターとの干渉も少なくなります．

3）**新設のアウトリーチセッション**では，会員が市民に対して研究成果等を解説し，地質学のアウトリーチを推進します．今回，11題の発表申込がありました．

4）**ミーティングルームを用意します**（口頭発表会場：Ｂ３棟３階）．少人数での打ち合わせ等に自由にご利用ください（貸し切りではありません）．ミーティングルームでは，無線LANを各自のパソコンでご利用いただけます．

5）**広い無線ネット利用可能エリアを確保します**．口頭発表会場（Ｂ３棟）の休憩室とミーティングルーム，ポスター発表会場，Uホール白鷺エントランスホールでは，無線LANを各自のパソコンでご利用いただけます．無線LANのご利用方法については，休憩室等に掲示する予定です．

■　ランチョン　■

都合により急遽会場が変更になる場合もありますので，会期中の掲示にご注意下さい．

９月16日（日）12：00〜13：00

第１会場　地域地質部会・層序部会合同（世話人：内野隆之・岡田　誠）部会活動やセッションについての議論と情報交換．

第２会場　海洋地質部会（世話人：荒井晃作・芦　寿一郎・小原泰彦）海洋地質部会の活動に関する議論と情報交換．

第５会場　地質学雑誌編集委員会（世話人：山路　敦）地質学雑誌face-to-face編集委員会．

第６会場　応用地質部会（世話人：小嶋　智・須藤　宏）応用地質部会の進め方，地質技術者教育についてのディスカッション．

第７会場　堆積地質部会（世話人：片岡香子）堆積地質部会の活動報告および国内外の堆積学に関する情報交換を行う．

9月17日（月）12：00〜13：00

第１会場　古生物（世話人：平山　廉）古生物部会の定例会合．

第２会場　構造地質部会若手の研究発表会（世話人：大坪　誠・山田泰広・氏家恒太郎）構造地質部会若手の研究発表会をランチョンにおいて行います．１人20分程度で２名ほどを予定．

第３会場　岩石部会（世話人：水上知行）活動報告および協議．

■　夜間小集会　■

都合により急遽会場が変更になる場合もありますので，会期中の掲示にご注意下さい．

９月16日（日）18：00〜19：30

第１会場　南極地質研究委員会（世話人：本吉洋一・外田智千）53次隊の報告，南極地質将来計画について，その他．

第２会場　おおさかのジオアーケオロジー（世話人：渡邉正巳・松田順一郎・趙　哲済・井上智博・小倉徹也・別所秀高）大阪でのジオアーケオロジーの成果についての講演と，今後の課題について討論．<http://www.cons-ar.co.jp/geoarc12.htm>

第４会場　超深度海溝掘削（KANAME）（世話人：木村　学・金川久一・斎藤実篤）新学術領域研究「超深度海溝掘削（KANAME）」の進捗状況と今後の南海掘削に関する情報交換を行う．

第５会場　地質学史懇話会（世話人：会田信行・金　光男）地質学史に関する講演２題：1）八尾昭：“放散虫革命”と日本列島の地史（仮題），2）芝川明義：戦後からの大阪の地学教育の変遷と現状（仮題）．

第６会場　環境地質部会（世話人：田村嘉之・風岡　修）環境地質に関する講演，事務連絡など．

９月17日（月）18：00〜19：30

第１会場　地質技術者教育委員会（世話人：山本高司）中期・短期の具体的な活動を議論する．大学でのフィールド教育の現状，企業の地質出身者の採用状況を報告する．

第２会場　構造地質部会定例会（世話人：大坪　誠・山田泰広・氏家恒太郎）過去の活動報告会計報告，今後の活動計画など．

第５会場　学術大会の改革：オープンディスカッション（世話人：星　博幸）P.（34）参照．

第６会場　炭酸塩堆積学に関する懇談会（世話人：松田博貴）炭酸塩堆積学に関する最近の話題・トピックスについて討論するとともに，最新研究動向・情報について意見交換を行う．

発　表　者　へ

発表者は，本学会または共催学協会の会員に限ります（招待講演者を除く）．共同発表の場合は，この制限を代表発表者（講演要旨に下線を引いた著者）に適用します．やむを得ない事情により，あらかじめ連記された共同発表者内で発表者の変更を希望する場合は，必ず事前に行事委員会（会期前は学会事務局，会期中は学会本部）に連絡して下さい．この場合も，シンポジウムおよびアウトリーチセッション以外の場合は「会員に限り１人１題（発表負担金を支払った場合は２題）」の制限を守るものとします．代理人の代読，会場内での突然の発表者変更，発表順序の変更は認めません．**口頭発表者は発表時間を厳守して下さい**．発表に際しては座長の指示に従い，会場運営がスムーズに行われるようご協力下さい．

■口頭発表

・**１題15分（質疑応答３～５分を含む）**．ただしシンポジウムは除きます．

・口頭発表会場には液晶プロジェクターとWindowsパソコン（OS：Windows XP，Vistaおよび７対応，Microsoft Office PowerPoint 2003-2010対応）を用意します．なお，35 mmスライドプロジェクターの使用はできません．

【講演ファイルをUSBメディアでご持参の方】

口頭発表で使用するファイルのインストールは，PCセンター（試写室）【Ｂ３棟２階212番教室】にて事前に作業を行ってください．インストールは各セッション・各シンポジウム開始30分前までにＢ３棟２階（212）PCセンター（試写室）で受け付けます．なお，大会初日９月15日午前に発表される方についても，朝８：30までPCセンターにて受けます．混雑が予想されますので講演直前にならないよう，十分な時間的余裕を持って確実に行ってください（午前中のセッションであれば前日に，午後のセッションであれば午前中にインストールを完了してください）．ファイルは，PCセンターにおいて正常に作動することを事前に確認してください．特に，会場に設置するものと異なるバージョンで作成されたパワーポイントファイルは，レイアウトが崩れる事例が報告されていますのでご注意願います．なお，ファイル名には，発表番号と筆頭演者ご氏名をご使用ください．（例：S1-O-1大阪太郎，R1-O-1泉州次郎）また，**Uホール白鷺で開催されるプログラムにて口頭発表される方は，ホール内ステージ左手のPCオペレーター席までファイルをお持ち込みください**．

【ご自分のパソコンを使用して講演をされる方】

本年は会場の液晶プロジェクターにパソコンの切り替え器（ケーブル形状はD-SUB15ピン）を用意します．Macパソコンをお使いになる方，ソフトの互換性からレイアウトが崩れる可能性のある方，パワーポイント以外のプレゼンテーションソフトをご利用の方はご自分でパソコンをご用意ください．各会場のプロジェクターの解像度設定はXGA（1024×768）です．講演前に自身での出力調整の上接続してください．Macパソコン，その他タブレット機器をお使いになる方は，必ずD-SUB15ピンへのアダプターと電源アダプターをご持参ください．パソコンの接続については，発表者自身が責任を持って実施下さい．切り替えは会場スタッフにて行います．

■ポスター発表

・掲示する際のチェスピンは準備いたします．テープのご利用はできませんので，ご了承ください．

・展示時間は，９：00～18：00です．展示準備は早めにお願いします．撤収は，19：00までにお願いします．

・**コアタイムは，15日（土）が12：30～13：50，16日（日）・17日（月）が13：00～14：20です（アウトリーチセッションのみ16日（日）13：30～14：30および17：00～18：00）**．この時間は必ずポスターに立ち会い，説明して下さい．その他の時間は各自の都合により随時説明を行って下さい．

・ボード面積は，高さ210 cm，幅120 cmです．

・発表番号・発表題名・発表者名を必ず明記して下さい．

・コンピューターやビデオを使用される場合，機器の準備は各自で行ってください．電源は確保できませんので，予備バッテリーをご準備下さい．

・ポスター発表に対し，別記の要領にて優秀ポスター賞が授与されます．奮ってご準備下さい．

優秀ポスター賞について

今大会でも学術発表の優秀ポスターに対して「日本地質学会優秀ポスター賞」を授与します．毎日３～５件の予定です．受賞者には学会長から直接賞状を授与します（表彰と写真撮影）．受賞ポスターは，その栄誉をたたえ，大会期間中，別途設けるボードに掲示します．大会終了後，News誌（年会報告記事）に氏名，発表題目，受賞理由を掲載します．

【審査】

審査は各賞選考委員会が行い，学会長がこれを承認します．選考委員会は日替わりで，行事委員会委員５名，大会実行委員会代表１名および各賞選考委員会委員２名の合計８名により構成されます．選考委員氏名は大会終了後に公表します（News誌11月号を予定）．

【審査のポイント】

・（研究内容）オリジナリティ

・（プレゼンテーション）レイアウト・中心点の明示・わかりやすさ・美しさ・斬新さ

【審査結果の発表時間と方法】

発表は16：00以降に行います．表彰は決定後直ちにポスター会場で行います（ただし初日（15日）のみ表彰式会場にて行う予定）．審査結果は掲示板，廊下等，要所に貼り出します．受賞ポスターには受賞花をつけます．

発表方法	部屋番号	収容人数	1日目　9月15日(土)						2日目　9月16日(日)					3日目　9月17日(月)				
			AM [11] 9:00-11:45	12:30-13:50	PM [5] 14:00-15:15	15:30-16:30	16:40-17:30	18:00-20:00	AM [12] 8:45-11:45	ランチョン 12:00-13:00	13:00-14:20	PM [14] 14:30-18:00	夜間 18:00-19:30	AM [12] 8:45-11:45	ランチョン 12:00-13:00	13:00-14:20	PM [14] 14:30-18:00	夜間 18:00-19:30
口頭	Uホール	1000		ポスターコアタイム（学術交流会館）		表彰式（Uホール）	受賞記念講演会（Uホール）	懇親会（大学生協）	S1 上町断層 9:00-12:00 8		ポスターコアタイム（学術交流会館）	市民講演会 14:30-17:00 3		S2 海溝型地震と津波 9:00-12:00 7		ポスターコアタイム（学術交流会館）		
	第1 (119)	123	R5 地域地質 9:00-11:45 11/(16)		R5 地域地質 14:00-15:15 5/(16)					地域地質層序		R6 層序対比 14:30-16:30 8	南極	R15 古生物 10:00-11:45 7	古生物		T4 地球史イベント 14:30-17:45 13	技術者教育
	第2 (116)	123	R20 第四紀 9:00-11:45 11/(16)		R20 第四紀 14:00-15:15 5/(16)				R7 海洋地質 9:00-11:45 11	海洋地質		T10 ジュラ系＋ 16:00-17:45 7	ジオアーケオ	R12 破壊と変形 9:15-11:30 9	構造若手発表		R14 テクトニクス 14:30-18:00 14	構造
	第3 (118)	200	T2 収束境界の堆積盆 9:00-11:45 11						T11 地体構造論 9:00-11:45 11			W 国際ワークショップ 14:30-18:25 8		T3 地層処分 9:30-11:30 8	岩石		R4 変成岩 14:30-17:30 12	
	第4 (117)	200	T9 地殻流体 10:45-11:45 4/(9)		T9 地殻流体 14:00-15:15 5/(9)				T5 沈み込み帯 10:30-11:45 5/(18)			T5 沈み込み帯 14:30-18:00 13/(18)	KANAME	T7 ジルコン学 8:45-11:45 12			R1 深成岩・火山岩 14:30-18:00 14	
	第5 (208)	117	T6 生物多様性変化 9:00-11:45 11		R17 環境地質 14:00-15:00 4/(16)				T8 学習指導要領 10:00-11:45 7	地雑編集		R19 地学教育 15:30-17:45 9	地質学史懇話				T1 地質情報利活用 14:30-16:30 8	学術大会改革
	第6 (207)	129	R2 岩石鉱物鉱床 9:30-11:30 8		R3 噴火・火山 14:00-15:15 5				R18 応用地質 9:30-11:45 9	応用地質		R17 環境地質 14:45-17:45 12/(16)	環境地質				R9 炭酸塩岩 14:30-17:15 11	炭酸塩懇談
	第7 (206)	129	R13 付加体 10:00-11:45 7						R8 堆積物(岩) 8:45-10:45 8 / R11 石油石炭 11:00-11:45 3	堆積		R10 堆積相・堆積過程 14:30-18:00 14						
ポスター（学術交流会館）			震災復興発表　T2 収束境界の堆積盆　T6 生物多様性変化 T9 地殻流体　R2 岩石鉱物鉱床　R3 噴火・火山 R5 地域地質　R10 堆積相・堆積過程　R13 付加体 R17 環境地質　R20 第四紀						震災復興発表　小さなESのつどい　W 国際ワークショップ　T5 沈み込み帯 T10 ジュラ系＋　T11 地体構造論　R4 変成岩　R6 層序対比 R7 海洋地質　R8 堆積物(岩)　R10 堆積相・堆積過程　R17 環境地質 R18 応用地質　R19 地学教育					震災復興発表　T1 地質情報利活用　T3 地層処分 T4 地球史イベント　T7 ジルコン学　R1 深成岩・火山岩　R4 変成岩 R9 炭酸塩岩　R12 破壊と変形　R14 テクトニクス　R15 古生物 R16 情報地質				
その他			・理科・地学教科書展示解説(学術交流会館ポスター会場) ・地質情報展(13:00-17:00　大阪市立自然史博物館)						・国際ワークショップ「The Geology of Japan」(14:30-18:05　第3会場) ・市民講演会「地震・津波・地盤災害　～知ること，伝えること～」(14:30-17:00　Uホール) ・アウトリーチセッション コアタイム(13:30-14:30, 17:00-18:00　Uホール) ・就職支援プログラム(14:30-18:00　B3棟3F) ・小さなEarth Scientistのつどい(9:00-15:30　学術交流会館ポスター会場) ・理科・地学教科書展示解説(学術交流会館ポスター会場) ・地質情報展(9:30-17:00　大阪市立自然史博物館)						・理科・地学教科書展示解説(学術交流会館ポスター会場) ・地質情報展(9:30-16:00　大阪市立自然史博物館) ・地学教育巡検「大阪の津波碑と地盤沈下対策」(午後) ・日本地質学会学術大会の改革：オープンディスカッション(18:00-19:30　第5会場)				

■　シンポジウム・セッションほか世話人一覧　■

■シンポジウム（２件）※いずれも公開シンポジウム

S１．上町断層の地下構造と運動像―都市域伏在活断層の地質学―［近畿支部企画］

Subsurface structure and tectonics of Uemachi Fault Zone in central Japan: geology of active faults concealed in urban areas

竹村恵二*（京都大：takemura@bep.vgs.kyoto-u.ac.jp）・三田村宗樹（大阪市大）・末廣匡基（阪神コンサルタンツ）

S２．西日本の海溝型地震と津波を考える［執行理事会社会貢献部会・近畿支部合同企画］

Subduction zone earthquakes and tsunamis in western Japan

藤林紀枝*（新潟大：fujib@ed.niigata-u.ac.jp）・奥平敬元（大阪市立大）・星　博幸（愛知教育大）・藤本光一郎（東京学芸大）・中井　均（都留文科大）

■国際ワークショップ（１件）

WS. International Workshop on ‘The Geology of Japan’

ウォリス サイモン*（名大: simon.wallis@e.mbox.nagoya-u.ac.jp），石渡　明（東北大），平 朝彦（JAMSTEC），小島知子（熊本大）

■アウトリーチセッション（１件）※Uホールにて一般公開

OR. 日本地質学会アウトリーチセッション（ポスター発表のみ）

Outreach session

星　博幸*（愛知教育大：hoshi@auecc.aichi-edu.ac.jp）・須藤　斎（名古屋大）

■トピックセッション（11件）

T１．地質情報の利活用

Application of geological information

斎藤　眞*（産総研：saitomkt@ni.aist.go.jp）・野々垣　進（産総研）

T２．プレート収束境界の堆積盆形成：構造・堆積作用・テクトニクス

Tectono-sedimentary processes of basin formation on active plate margins

伊藤康人*（大阪府立大：itoh@p.s.osakafu-u.ac.jp）・高野　修（石油資源開発）

T３．地層処分と地球科学［共催：日本原子力学会バックエンド部会］

Geological disposal of radioactive waste in Earth Science

吉田英一*（名古屋大：dora@num.nagoya-u.ac.jp）・高橋正樹（日大）・梅田浩司（日本原子力研究開発機構）・渡部芳夫（産総研）

T４．地球史イベント大事件7：地層に残される地球史変動（宇宙，環境，テクトニクス，生物活動）

Geologic events in the Earth history VII: evolutional environmental record

清川昌一*（九州大：kiyokawa@geo.kyushu-u.ac.jp）・山口耕生（東邦大）・小宮　剛（東京大）・尾上哲治（鹿児島大）・黒田潤一郎（JAMSTEC）

T５．沈み込み帯地震発生帯研究の新たな進展

Recent progress in studies on seismogenic zones along subduction zones

橋本善孝*（高知大：hassy@kochi-u.ac.jp）・氏家恒太郎（筑波大）・金川久一（千葉大）・斎藤実篤（JAMSTEC）・芦　寿一郎（東大大気海洋研）・木村　学（東京大）

T６．顕生代の生物多様性変化：急激な増加／減少のパタンと要因

Phanerozoic biodiversity change: pattern and causes of rapid increase/decline

磯崎行雄*（東京大：isozaki@ea.c.u-tokyo.ac.jp）・小宮　剛（東京大）・川幡穂高（東大大気海洋研）

T７．ジルコン学

Zirconology

山本伸次*（東京大：syamamot@ea.c.u-tokyo.ac.jp）・青木一勝（東京大）・牧　賢志（京都大）・昆　慶明（産総研）

T８．新学習指導要領の実施で地学教育はどのように変わるか？

How with the enforcement of the new curriculum guidelines, does the earth science education change？

中井　均*（都留文大：hnakai@tsuru.ac.jp）・浅野俊雄・芝川明義（大阪府花園高）

Hitoshi Nakai*（Tsuru Univ.）・Toshio Asano・Akiyoshi Shibakawa（Hanazono Sinior High School）

T９．地殻流体のダイナミズム　その2

Dynamism of crustal fluids Part II

竹下　徹*（北大：torutake@mail.sci.hokudai.ac.jp）・岡本和明（埼玉大）

T10．ジュラ系＋（読み方：ジュラケイプラス）

The Jurassic +

松岡　篤*（新潟大：matsuoka@geo.sc.niigata-u.ac.jp）・小松俊文（熊本大）・近藤康生（高知大）・石田直人（新潟大）・中田健太郎（新潟大）

T11．西南日本地体構造論の現代的問題点（市川浩一郎追悼セッション）

Current topics on geotectonics of SW Japan（Memorial Session for late Prof. Koichiro Ichikawa）

磯崎行雄*（東京大：isozaki@ea.c.u-tokyo.ac.jp）・前島　渉（大阪市大）・堀　利栄（愛媛大）

■レギュラーセッション（20件）

R１．深成岩・火山岩とマグマプロセス（火山部会・岩石部会）

Plutonic rocks, volcanic rocks and magmatic processes

壷井基裕*（関西学院大：tsuboimot@kwansei.ac.jp）・道林克禎（静岡大）・長谷川健（茨城大）

R２．岩石・鉱物・鉱床学一般（岩石部会）

General studies from petrology, mineralogy and economic geology

野坂俊夫*（岡山大：nozaka@cc.okayama-u.ac.jp）・中野伸彦（九州大）

R３．噴火・火山発達史と噴出物（火山部会）

Eruption, volcanic evolution and volcanic products

和田穣隆*（奈良教育大：ywada@nara-edu.ac.jp）・三好雅也（福井大）・長井雅史（防災科研）

R 4．変成岩とテクトニクス（岩石部会）
Metamorphic rocks and related tectonics
外田智千*（極地研：hokada@nipr.ac.jp）・馬場壮太郎（琉球大）
R 5．地域地質・地域層序（地域地質部会・層序部会）
Areal geology/Stratigraphy
松原典孝*（兵庫県立大：matsubara-n@stork.u-hyogo.ac.jp）・内野隆之（産総研）・岡田　誠（茨城大）
R 6．地域間層序対比と年代層序スケール（層序部会）
Stratigraphy correlation/Chronostratigraphy
里口保文*（琵琶湖博物館：satoguti@lbm.go.jp）・岡田　誠（茨城大）
R 7．海洋地質（海洋地質部会）
Marine geology
荒井晃作*（産総研：ko-arai@aist.go.jp）・芦寿一郎（東大大気海洋研）・小原泰彦（海上保安庁）
R 8．堆積物（岩）の起源・組織・組成（堆積地質部会）
Origin, texture and composition of sediments
太田　亨*（早稲田大：tohta@toki.waseda.jp）・野田　篤（産総研）
R 9．炭酸塩岩の起源と地球環境（堆積地質部会）
Origin of carbonate rocks and related global environments
山田　努*（東北大：t-yamada@m.tohoku.ac.jp）・比嘉啓一郎（福岡大）
R10．堆積相・堆積過程（現行地質過程部会・堆積地質部会）
Sedimentary facies and processes
成瀬　元*（京都大：naruse@kueps.kyoto-u.ac.jp）・市原季彦（復建調査設計）・横川美和（大阪工業大）
R11．石油・石炭地質学と有機地球化学（石油・石炭関係・堆積地質部会）
Coal and petroleum geology/Geochemistry
金子信行*（産総研：nobu-kaneko@aist.go.jp）・河村知徳（石油資源開発）・三瓶良和（島根大）
R12．岩石・鉱物の破壊と変形（構造地質部会）
Rock failure and deformation
廣瀬丈洋*（JAMSTEC：hiroset@jamstec.go.jp）・丹羽正和（JAEA）・高橋美紀（産総研）
R13．付加体（構造地質部会）
Accretionary prism
坂口有人*（JAMSTEC：arito@jamstec.go.jp）・内野隆之（産総研）
R14．テクトニクス（構造地質部会）
Tectonics
加藤直子*（東大地震研：naoko@eri.u-tokyo.ac.jp）・大坪　誠（産総研）・藤内智士（産総研）
R15．古生物（古生物部会）
Paleontology
平山　廉（早稲田大）・北村晃寿（静岡大）・太田泰弘（北九州博）・三枝春生（兵庫県立人と自然の博）・須藤　斎*（名古屋大：suto.itsuki@a.mbox.nagoya-u.ac.jp）
R16．情報地質（情報地質部会）（ポスター発表のみ）
Geoinformatics
能美洋介*（岡山理大：y_noumi@big.ous.ac.jp）・野々垣進（産総研）
R17．環境地質（環境地質部会）
Environmental geology
難波謙二（福島大）・風岡　修（千葉環境研）・三田村宗樹（大阪市大）・田村嘉之*（千葉環境財団：y_tamtam3012@nifty.com）
R18．応用地質学一般およびノンテクトニック構造（応用地質部会）
Engineering geology and non-tectonic geolory
小嶋　智（岐阜大）・須藤　宏*（応用地質：sudou-hiroshi@oyonet.oyo.co.jp）
R19．地学教育・地学史（地学教育委員会）
Geoscience education/History
矢島道子*（東京医科歯科大：pxi02070@nifty.ne.jp）
R20．第四紀地質（第四紀地質部会）
Quaternary geology
公文富士夫*（信州大：shkumon@gipac.shinshu-u.ac.jp）・内山　高（山梨環境研）

会場での注意点

■拍手徹底
　1題の口頭発表はわずか15分で終了します（セッションの場合）．しかし，その発表の裏には，発表者の弛まぬ努力と，研究や発表準備に費やした多くの時間があるはずです．講演が終了したら，惜しみない拍手をお願いします．

■写真撮影・ビデオ撮影の制限
　口頭発表・ポスター発表を，発表者に無断で写真撮影・ビデオ撮影してはいけません．撮影には発表者の許可が必要です．

■軽装の勧め
　7月末現在，関西地区の電力供給は逼迫した状況ではないようですが，不測の事態で急な節電要求がある可能性も考えられます．残暑厳しい時期，大会参加の皆様には軽装をお勧めします．ご理解，ご協力をお願いします．

日本地質学会第 119 年学術大会（2012 大阪）講演プログラム（口頭）

■ 9 月 15 日（土）午前

会場	第 1 会場	第 2 会場	第 3 会場
	R5. 地域地質・地域層序	**R20. 第四紀地質**	**T2. プレート収束境界の堆積盆形成：構造・堆積作用・テクトニクス**
	座長：内野隆之（1-4），先山　徹（5-8），菅森義晃（9-11）	座長： 公文富士夫（1，5，11），内山　高（2-4），渡邉正巳（6-8），七山　太（9-10）	座長：伊藤康人（1-6），高野　修（7-11）
9：00	9：00 R5-O-1 古第三系・根室層群における渦鞭毛藻シスト化石層序と古一次生産史.　**林　圭一**・西　弘嗣・高嶋礼詩 9：15 R5-O-2 南部北上帯，下部ペルム系坂本沢層のフズリナ群集.　**上野勝美**・新谷友彦・田沢純一 9：30 R5-O-3 相馬地方相馬中村層群富沢層に胚胎する相馬珪砂鉱床の形成過程.　**松原義雄**・有馬　真 9：45 R5-O-4 日立古生層層序の再考と西堂平層の地史.　**田切美智雄**・堀江憲路・足立達朗・廣井美邦 10：00 R5-O-5 混濁流がつくるスランプもどき堆積物（スランプもどきタービダイト）とは何か？また、その形成メカニズムとは？　**徳橋秀一** 10：15 R5-O-6 神奈川県東部に分布する中新－鮮新統“鎌倉層群”の提唱.　**蟹江康光**・鈴木　進・柴田健一郎 10：30 R5-O-7 超巨大地震（*M* 9）の遠地誘発地震による長野県栄村の被害と浅部地下構造.　**宮田隆夫**・大塚　勉 10：45 R5-O-8 早月川上流地域に分布する飛騨変成岩類および深成岩類のSHRIMP U-Pb年代.　**高橋　浩**・Cho Deung-Lyong・毛　健仁 11：00 R5-O-9 滋賀県高島市饗庭野の傍示ヶ谷層の再検討と新旭層の提案.　**石田志朗**・服部　昇・三矢信昭・中島　健・里口保文 11：15 R5-O-10 山陰海岸ジオパーク地域の新第三紀北但層群における貫入岩類のK-Ar年代と層序の再検討.　**先山　徹**・松原典孝 11：30 R5-O-11 帝釈石灰岩産前期石炭紀および前期ペルム紀アンモノイド.　**永広昌之**・西川　功・西川　治	9：00 R20-O-1 富士山北斜面３D測量による土砂移動観測.　**内山　高**・中野隆志・安田泰輔・小林亜由美・笠井明穂・奥水達司・堀内太一 9：15 R20-O-2 八ヶ岳及び浅間山起源の火山灰土壌が有する汚染水浄化能特性の検討.　**太田萌美**・宮田昌幸・北瀬（村上）晶子・香村一夫 9：30 R20-O-3 最終間氷期における赤色土の生成上限－新潟県と青森県の事例から－.　**仲川隆夫** 9：45 R20-O-4 東北地方北部に分布する火山灰土壌が有する重金属吸着能の評価.　**野口周平**・香村一夫・栗原正憲 10：00 R20-O-5 山陰地方における完新世の植生変遷.　**渡邉正巳** 10：15 R20-O-6 下北沖コアの花粉記録を用いた過去12万年間の古気候変動復元（予報）.　**菅谷真奈美**・岡田　誠・奥田昌明 10：30 R20-O-7 上高地における微動アレー探査（空間自己相関法）により明らかとなった古梓川埋積谷地形と潜在活断層.　**原山　智**・松岡達郎・林　久夫・水落幸広・棚瀬充史・河合小百合 10：45 R20-O-8 吉野ボーリングコアから推定した完新世における大阪湾地域の海況変動.　**廣瀬孝太郎**・吉田広人・服部まやこ・入月俊明・三田村宗樹 11：00 R20-O-9 静岡平野・清水平野の完新統における津波堆積物.　**北村晃寿**・小林小夏・藤原　治 11：15 R20-O-10 北海道奥尻島の完新世段丘に認められた津波堆積物.　**川上源太郎**・平川一臣・田近　淳・廣瀬　亘・深見浩司・高橋　良 11：30 R20-O-11 北海道東部，風蓮湖バリアーシステムの地形発達史から読み解く過去5500年間の海面変動と地殻変動.　**七山　太**・重野聖之・石川　智・渡辺和明・池田保夫	9：00 T2-O-2 堆積盆形成過程の定量的理解のための地質断面復元法：国内炭化水素賦存堆積盆の例.　**江川浩輔**・高野　修・後藤秀作・鈴木清史・成田英夫 9：15 T2-O-1 ３次元地盤構造データに基づいたバランス法解析から推定した上町断層帯の地下深部形状.　**木村治夫**・堀川晴央・末廣匡基 9：30 T2-O-3 中国地方中新統の珪質微化石の続成変質と地史.　**竹村厚司**・西村年晴・竹村静夫・黒田明彦・小郷幸恵・上中智加・野崎誠二・三宅誠 9：45 T2-O-4 常磐沖堆積盆地における前期中新世の埋積過程：バリア島-ラグーンシステムの発達様式.　**荒戸裕之**・保柳康一・小林由季・関めぐみ・中村めぐみ 10：00 T2-O-5 東北日本弧の後期新生代テクトニックイベント：弧内堆積盆発達史からの復元.　**中嶋　健** 10：15 T2-O-6 三陸沖～道央～道北古第三系前弧～横ずれ堆積盆群の形成プロセス・形態変遷と堆積システム.　**高野　修**・伊藤康人・楠本成寿 10：30 T2-O-7 北海道中央部における中新世フォアランド堆積盆：層序と堆積盆テクトニクス.　**川上源太郎** 10：45 T2-O-8（招待） 断層が累進的に発生する構造帯における横ずれ断層端部での堆積盆地形成の数値モデリング.　**楠本成寿**・伊藤康人・高野修・玉置真知子 11：00 T2-O-9 中央構造線両端部の後期新生代同時堆積盆形成：横ずれ断層末端の構造形態.　**伊藤康人**・楠本成寿・竹村恵二 11：15 T2-O-10 軸方向の土砂供給と堆積中心の継続的移動をともなう堆積盆の発達条件について.　**野田　篤** 11：30 T2-O-11 後期新生代中央日本の島弧衝突帯における堆積盆の形成と進化をもたらした構造過程.　**竹内　章**

※講演番号は，シンポジウム（S），トピックセッション（T），レギュラーセッション（R），国際ワークショップ（W）のそれぞれに，口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています.
※講演要旨とプログラムとで発表題目や氏名が異なっている場合，講演要旨を正しいものとします.　　※太字は代表発表者です.

日本地質学会第 119 年学術大会（2012 大阪）講演プログラム（口頭）

■ 9 月 15 日（土）午前

会場	第 4 会場	第 5 会場	第 6 会場
	T9. 地殻流体のダイナミズム その 2	**T6. 顕生代の生物多様性変化 / 減少のパタンと要因**	**R2. 岩石・鉱物・鉱床学一般**
	座長：岡本和明（1-4）	座長：小宮　剛（1-2, 4-6），磯崎行雄（3, 7-11）	座長：石川　晃（1-4），山元正継（5-8）
9：00	10：45 T9-O-1 ザクロ石の成長と反応組織から読み取る高圧エクロジャイト（北パキスタンのカガンバレー）の変成過程.　**レーマン ハフィーズウル**・山本啓司・秦 圭治郎 11：00 T9-O-2 長石多結晶体への水の導入と塑性変形の促進.　**福田惇一**・武藤　潤・長濱裕幸 11：15 T9-O-3 中央構造線ボーリングコアにおける変質鉱物の産状及び分布—鉱物組成データに対する統計解析の結果より.　**田中伸明**・藤本光一郎・重松紀生 11：30 T9-O-4 断層帯における熱水変質作用の特徴.　**藤本光一郎**	9：00 T6-O-1 顕生代の生物多様性変遷史：絶滅と放散.　**磯崎行雄** 9：15 T6-O-2（招待） Triggers for the Cambrian explosion： hypotheses and problems.　**Zhang, X.L.**・Shu, D.G.・Han, J.・Zhang, Z.F.・Liu, J.N,・Fu, D.J. 9：30 T6-O-3 リン酸塩岩の成因と後生動物活動.　**小宮　剛** 9：45 T6-O-4 後期原生代のマンガン鉱床の成因.　**澤木佑介**・田畑美幸・小宮　剛・丸山茂徳・平田岳史 10：00 T6-O-5 南中国澄江地域におけるカンブリア紀最初期のリン酸塩岩堆積と初期硬骨格動物多様化.　**佐藤友彦**・磯崎行雄・小宮　剛・田畑美幸・吉田尚弘・可児智美・舒徳干 10：15 T6-O-6 放射光X線micro-CT分析を用いた初期カンブリア紀微化石の三次元構造解析：初期後生動物進化解読に向けて.　**中尾泰斗**・韓　健・岡田吉弘・佐藤友彦・上杉健太朗・星野真人・小宮　剛 10：30 T6-O-7 古生物の系統的多様度による形態的多様性の標準化.　**生形貴男** 10：45 T6-O-8 超海洋中央部におけるG-L（ペルム紀中期-後期）境界前後の生層序・化学層序（$^{87}Sr/^{86}Sr$, $\delta^{13}C_{carb}$）：赤坂石灰岩の例.　**小福田大輔**・磯崎行雄・可児智美・石村豊穂・猪郷久義 11：00 T6-O-9 南中国四川省峨辺地域の中・上部ペルム系の岩相層序およびSr同位体層序.　**蓋盛拓海**・磯崎行雄・姚　建新 11：15 T6-O-10 宮崎県高千穂町における海洋中央部礁石灰岩のSr層序.　**西田昂広**・磯崎行雄・可児智美 11：30 T6-O-11 地球生命の起源と進化を決定づけた初期条件.　**丸山茂徳**	9：30 R2-O-1 男鹿半島寒風火山に産する同源および異質苦鉄質捕獲岩.　**山元正継**・林　信太郎・近藤　梓・粟田顕行・緒方武幸・笹沼貴弘・三森俊亮 9：45 R2-O-2 オマーンオフィオライト北部の珪長質深成岩類のジルコンU-Pb年代について.　**土谷信高**・中村一史・武田朋代・谷　健一郎・足立達郎・中野伸彦・小山内康人・足立佳子・宮下純夫 10：00 R2-O-3 Carbonatite and calcite-bearing phlogopitite-pyroxenite intrusions along the lithospheric shear zone in the Proterozoic southern Madagascar： Geochemical and carbon/oxygen isotopic characteristics.　**Ranaivoson M. A.,** Arima, M., Nguyen, T. T. and Wada, H. 10：15 R2-O-4 みかぶ帯のMgに富む火山岩の成因について.　**市山祐司**・石渡　明・木村純一・仙田量子・宮本　毅 10：30 R2-O-5 秋吉帯石灰岩層群の基盤からのスーパープルーム型アルカリ安山岩の発見.　**木村光佑**・早坂康隆・山田千愛・勝部亜矢 10：45 R2-O-6 オントンジャワ海台下のリソスフェア形成－クラトン形成 におけるプルームモデルとの関連性について－.　**石川　晃**・Dale Christopher W.・Pearson Graham D. 11：00 R2-O-7 モホ不連続面の定義におけるいくつかの問題点.　**前田仁一郎** 11：15 R2-O-8 二種の衝突構造と海水衝突における炭素含有相の生成.　**三浦保範**

※講演番号は，シンポジウム（S），トピックセッション（T），レギュラーセッション（R），国際ワークショップ（W）のそれぞれに，口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています.
※講演要旨とプログラムとで発表題目や氏名が異なっている場合，講演要旨を正しいものとします.　※太字は代表発表者です.

■ 9 月 15 日（土）午前

会場	第 7 会場
	R13. 付加体
	座長：佐藤活志（1-3），川端訓代（4-7）
10：00	10：00 R13-O-1 熊野海盆直下の付加体の特徴－NanTroSEIZE,Exp.319ライザー掘削によるカッティングス試料を用いた解析. **川端訓代**・坂口有人・斎藤実篤 10：15 R13-O-2 深度２-４kmに沈み込んだ房総半島南部保田付加体の構造および付加関連断層. **山本由弦**・千代延　俊・濱田洋平・福山繭子・亀田　純・山口はるか 10：30 R13-O-3 古第三系牟婁付加体の注入砂岩脈. **鈴木博之** 10：45 R13-O-4 構造性メランジュ中の鉱物脈方位による古応力解析. **佐藤活志** 11：00 R13-O-5 赤石山地，秩父帯・四万十帯の続成－弱変成度－イライト結晶度による検討－. **狩野謙一**・伊藤圭太・高川朋子 11：15 R13-O-6 ジュラ紀付加体犬山シーケンス砂岩のジルコン年代. **久田健一郎**・Choi Taejin ・Lee Yong Il・大野佳緒里・折橋裕二 11：30 R13-O-7 尻屋崎地域に分布するジュラ紀付加体の砕屑物組成とその意義－特に砂岩について－. **木村　翔**

■ MEMO ■

■ MEMO ■

※講演番号は，シンポジウム（S），トピックセッション（T），レギュラーセッション（R），国際ワークショップ（W）のそれぞれに，口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています.
※講演要旨とプログラムとで発表題目や氏名が異なっている場合，講演要旨を正しいものとします.　※太字は代表発表者です.

日本地質学会第 119 年学術大会（2012 大阪）講演プログラム（口頭）

■ 9 月 15 日（土）午後

会場	第 1 会場	第 2 会場	第 4 会場
	R5. 地域地質・地域層序	**R20. 第四紀地質**	**T9. 地殻流体のダイナミズム その 2**
	座長：松原典孝（12-16）	座長：公文富士夫（12），趙　哲済（13-16）	座長：福田惇一（5-7），竹下　徹（8-9）
14：00	14：00 R5-O-12 徳島県，和泉層群中の衝上デュープレックスと伸張デュープレックス．　**村田明広** 14：15 R5-O-13 大分県秩父帯（小坂亜帯）下部白亜系の衝上ナップ．　**田中均**・高橋　努・内田暁雄・三宅由洋・島田駿祐・赤星征典・福本祥大 14：30 R5-O-14 熊本県八代山地に分布する物部川層群相当層と同時代の下部白亜系堆積物について．　三**宅由洋**・赤星征典・島田駿祐・高橋　努・田中　均 14：45 R5-O-15 薩摩半島南部，南九州市八瀬尾地域の蛇紋岩体と四万十帯白亜紀堆積岩類の高角境界．　**斎藤　眞**・中川　充 15：00 R5-O-16 アラブ首長国連邦アブダビ沖の前期アプチアン炭酸塩岩コア試料に記録された海洋無酸素事変（OAE1a）時におけるグローバル炭素循環と古海洋環境変遷．　山本和幸・石橋正敏・高柳栄子・浅原良浩・佐藤時幸・西　弘嗣・**井龍康文**	14：00 R20-O-12 大阪海岸低地,長柄砂州中部の地形と古環境の変遷．　**趙　哲済**・中条武司・辻本裕也 14：15 R20-O-13 中海における現生貝形虫の酸素同位体比と過去1700年間の古環境変遷．　**石田　桂**・増馬鉄朗・坂井三郎・瀬戸浩二 14：30 R20-O-14 北海道網走湖における過去350年間の堆積環境の変化．　**瀬戸浩二**・岡崎裕子・中島広海・香月興太・園田　武・川尻敏文・渡部貴聴 14：45 R20-O-15 中海における過去700年間の古環境変動と太陽活動による古気候変動．　**岡崎裕子**・瀬戸浩二 15：00 R20-O-16 20110311津波襲来後の気仙沼湾の海中環境．　**秋元和實**・滝川　清・矢北孝一・外村隆臣・吉永　徹・吉岡昌雄・坂本　泉・滝野義幸	14：00 T9-O-5 流体の影響を被る複数の異なる変形機構と流体の変形に及ぼす効果の厳密な検討：天然の観察と今後の展望．　**竹下　徹**・El-Fakharani Abdel-Hamid・渡部悠登・岡本あゆみ・中山貴仁・金子由実 14：15 T9-O-6 Extensive dissolution-precipitation during the exhumation of the Sanbagawa metamorphic belt. **Masaoki Uno**・Hikaru Iwamori・Hitomi Nakamura 14：30 T9-O-7 三波川帯白髪山蛇紋岩体の地質学および岩石学．　岡本和明・**福村成哉** 14：45 T9-O-8 東北沖沈み込みプレート境界断層における地殻応力問題：間隙圧の効果．　**清水以知子**・上原真一 15：00 T9-O-9（招待） 地震発生における地殻流体の役割－物理的 or 化学的？－．　**飯尾能久**

※講演番号は，シンポジウム（S），トピックセッション（T），レギュラーセッション（R），国際ワークショップ（W）のそれぞれに，口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています．
※講演要旨とプログラムとで発表題目や氏名が異なっている場合，講演要旨を正しいものとします．　※太字は代表発表者です．

■ 9 月 15 日（土）午後

会場	第 5 会場	第 6 会場
	R17. 環境地質	**R3. 噴火・火山発達史と噴出物**
	座長：風岡　修（1-4）	座長：長井雅史（1-3），和田穣隆（4-5）
14：00	14：00 R17-O-1 養老川中流域観測井の孔内地下水の温度－浅い観測井における深度方向の分布，2012年１月６日測定－．　**楠田　隆**・古野邦雄・吉田　剛・香川　淳・榊　敏和・風岡　修・酒井　豊・加藤晶子・山本真理 14：15 R17-O-2 地盤沈下・地下水位観測井における孔内地下水の深度方向の温度分布の測定．　**古野邦雄**・香川　淳・吉田　剛・風岡　修・楠田　隆・酒井　豊・加藤晶子・山本真理・風戸孝之 14：30 R17-O-3 長野県下伊那郡竜東丘陵における地下水資源と地質構造発達史との関係．　**富樫　均**・堀　順一 14：45 R17-O-4 応用地生態学は自然環境保全に貢献しているのか－滋賀県山門水源の森の事例－．　**笠原　茂**・藤本秀弘	14：00 R3-O-1 室生火砕流堆積物直下の凝灰岩および砂岩に含まれるガラス質岩片とその給源：1．記載岩石学的特徴．　**和田穣隆**・新正裕尚・矢野嗣典 14：15 R3-O-2 室生火砕流堆積物直下の凝灰岩および砂岩に含まれるガラス質岩片とその給源：2．岩石化学的特徴．　**新正裕尚**・和田穣隆・矢野嗣典・外西奈津美・折橋裕二 14：30 R3-O-3 南海トラフ海底堆積物コアのテフラ層からみた過去800万年間の爆発的火山噴火史．　**長橋良隆**・里口保文・IODP Exp. 333 乗船研究者 14：45 R3-O-4 静岡県三島市に分布するHk-T（pfl）の岩片種解析．　山下浩之・**笠間友博** 15：00 R3-O-5 北海道東部，屈斜路火山の最大規模カルデラ形成噴火（KpIV）の噴火推移とマグマプロセス．　**長谷川　健**・松本亜希子・中川光弘

■ MEMO ■

※講演番号は，シンポジウム（S），トピックセッション（T），レギュラーセッション（R），国際ワークショップ（W）のそれぞれに，口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています．
※講演要旨とプログラムとで発表題目や氏名が異なっている場合，講演要旨を正しいものとします．　※太字は代表発表者です．

日本地質学会第 119 年学術大会（2012 大阪）講演プログラム（口頭）

■9 月 16 日（日）午前

会場	U ホール	第 2 会場	第 3 会場
	S1. 上町断層の地下構造と運動像－都市域伏在活断層の地質学－	**R7. 海洋地質**	**T11. 西南日本地体構造論の現代的問題点（市川浩一郎追悼セッション）**
	座長：三田村宗樹（1-4），竹村恵二（5-8）	座長：池原　実（1-6），菅沼悠介（7-11）	座長：磯崎行雄（2-5，7），青木一勝（1，6，8-11）
9：00	9：00 はじめに．　竹村恵二・三田村宗樹・末廣匡基 9：05　S1-O-1 上町断層研究の歴史と課題．　**竹村恵二**・三田村宗樹・末廣匡基 9：20　S1-O-2 活構造からみた大阪堆積盆地における上町断層帯の性格．　**岡田篤正** 9：40　S1-O-3 上町断層周辺の地下構造（反射法探査から）．　**末廣匡基**・横田　裕 10：00　S1-O-4（招待） 重力異常からみた上町断層およびと大阪盆地の構造．　**井上直人**・中川康一・竹村恵二 10：20　S1-O-5 深層ボーリング資料からみた上町断層の活動性．　**三田村宗樹** 10：40　S1-O-6 ボーリングデータベースからみた上町断層変形帯と活動性． **北田奈緒子**・井上直人・竹村恵二・三田村宗樹 11：00　S1-O-7（招待） 個別要素法を用いた撓曲構造復元シミュレーション；上町断層南部地震探査断面にみられる撓曲構造解釈への応用．　**楠本成寿**・竹村恵二・伊藤康人・岩田知孝 11：20　S1-O-8（招待） 上町断層の活動による強震動．　**岩田知孝** 11：40 総合討論．　竹村恵二・三田村宗樹・末廣匡基	9：00　R7-O-1 反射法探査により見える鹿児島県・鬼界カルデラの陥没・崩壊構造．　**池上郁彦**・清川昌一・大岩根尚・中村恭之・亀尾桂・蓑輪雄人・倉富　隆 9：15　R7-O-2 沖縄島南西沖に発達する慶良間海裂の地質構造．　**荒井晃作**・佐藤智之・井上卓彦 9：30　R7-O-3 深海曳航式音波探査記録による海底熱水マウンド地下浅部構造の解明 －中部沖縄トラフ伊是名海穴の例－．　**多良賢二**・徳山英一・芦寿一郎・亀尾　桂・立田　学・KY11-E04乗船研究者一同 9：45　R7-O-4 IODP Expedition 331航海による掘削結果及び現場温度測定に基づく沖縄トラフ伊平屋北熱水域の水理構造．　**正木裕香**・高井研・Mike Mottle・Hilairy Hartnett・木下正高 10：00　R7-O-5 Brunhes-Matuyama境界年代値：問題点と今後の展望．　**菅沼悠介** 10：15　R7-O-6 日本海溝よりピストンコアで採取された東北地方太平洋沖地震のイベント層の岩石磁気からみた特徴．　**金松敏也**・池原研・新井和乃・佐藤智之・笠谷貴史 10：30　R7-O-7 JAMSTECコアデータサイトの紹介と展望．　**佐藤悠介**・富山隆將・市山祐司・華房康憲 10：45　R7-O-8 東地中海沈み込み帯に発達する泥火山の噴出物供給源深度． **喜岡　新**・芦寿一郎・村岡　論・坂口有人・佐藤時幸・徳山英一 11：00　R7-O-9 北大西洋IODP Site U1304に発達する珪藻軟泥と浮遊性有孔虫化石からみた第四紀後期の亜極循環の成立過程．　**山崎　誠**・嶋田智恵子・佐藤時幸・池原　実 11：15　R7-O-10 鮮新世温暖期から完新世に至るベーリング海での成層化の強化：IODP U1341とU1343の窒素・炭素同位体比変動．　**池原実**・高仁　環 11：30　R7-O-11 IODP-CRISPプロジェクトによりコスタリカ沖東太平洋から採取された掘削コアの古海洋学研究．　**大串健一**・大音香織・岩永朋子・Vannucchi Paola・氏家恒太郎・IODP Expedition 334 Scientific Party	9：00　T11-O-1 日本の構造発達史における新視点．　**磯崎行雄** 9：15　T11-O-2（招待） 第2大陸：マントル対流の起源．　**河合研志**・市川浩樹・丸山茂徳 9：30　T11-O-3 太平洋型造山運動の新展開：付加体論，造山運動論，構造浸食、島弧の沈み込み，第2大陸，及びマントルダイナミクス．**丸山茂徳** 9：45　T11-O-4 古生代前期深成岩－変成岩類の年代学的再検討．　**宮下　敦**・辻森　樹 10：00　T11-O-5 砕屑性ジルコン・モナザイトの年代学によって明らかになった三郡-中国帯の地体構造とテクトニクス．　**早坂康隆**・勝部亜矢・藤井正博・伏木　治 10：15　T11-O-6 砕屑性ザクロ石とジルコンから見た西南日本外帯秩父累帯の地体構造．　**池内瑠美**・宮本隆實・早坂康隆・勝部亜矢・大川真弘 10：30　T11-O-7 花崗岩バソリス形成による造山帯内の砕屑物質供給パタンの変化：白亜紀日本の例．　**青木一勝**・磯崎行雄・小福田大輔・山本純之・牧　賢志・横山隆臣・平田岳史 10：45　T11-O-8 紀伊半島東部の秩父累帯．　**柏木健司** 11：00　T11-O-9 北米西岸海岸山脈フランシスカン帯砂質片岩のジルコン年代． **寺林　優**・池田篤史・村上剛史・青木一勝・磯崎行雄 11：15　T11-O-10 西ウェールズ，アングルシー島およびスリン半島におけるエディアカラ紀-カンブリア紀付加テクトニクス：海洋プレート層序（OPS）の復元と砕屑性ジルコン年代分析．　**岡田吉弘**・山本伸次・Windley Brian F.・藤崎　渉・斉藤拓也・青木一勝・平田岳史・丸山茂徳 11：30　T11-O-11 西南日本に学ぶ：スコットランドCaledonia造山帯における太平洋型造山運動．　**鈴木和恵**・青木一勝・山本伸次・牧賢志・平田岳史・Windley Brian. F・丸山茂徳

※講演番号は，シンポジウム（S），トピックセッション（T），レギュラーセッション（R），国際ワークショップ（W）のそれぞれに，口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています．
※講演要旨とプログラムとで発表題目や氏名が異なっている場合，講演要旨を正しいものとします．　※太字は代表発表者です．

日本地質学会第 119 年学術大会（2012 大阪）講演プログラム（口頭）

■ 9 月 16 日（日）午前

会場

第 4 会場

T5. 沈み込み帯地震発生帯研究の新たな進展

座長：橋本善孝（1-5）

10：30 T5-O-1
現世－過去地震津波発生断層比較研究. **木村　学**・山口飛鳥・斎藤実篤・浜橋真理・福地里菜・亀田　純・濱田洋平・藤本光一郎・橋本善孝・比名祥子・栄田美緒・北村有迅・水落幸広・長谷和則・明石孝行

10：45 T5-O-2（招待）
沈み込み帯プレート境界における続成・脱水作用と地震発生. **亀田　純**・山口飛鳥・濱田洋平・木村　学

11：00 T5-O-3
沈み込み前堆積物に発達する圧密阻害層とその不均質性が決定する断層の位置. **北村有迅**・金松敏也・山本由弦・川村喜一郎・Novak Beth・小田啓邦・Wu Huaichun・山本朋弘・Zhao Xixi

11：15 T5-O-4
南海トラフ付加体浅部泥質堆積物の摩擦特性. 高橋美紀・東修平・上原真一・**金川久一**・井上厚行

11：30 T5-O-5
付加体スラスト物質の摩擦速度依存性と超低周波地震. **斎藤翼**・氏家恒太郎・堤　昭人・亀田　純・芝崎文一郎

第 5 会場

T8. 新学習指導要領の実施で地学教育はどのように変わるか？

座長：芝川明義（1-4），浅野俊雄（5-7）

10：00 T8-O-1
高等学校地学教員採用の状況. **中井　均**

10：15 T8-O-2
「地学」新課程と旧課程の比較. **浅野俊雄**

10：30 T8-O-3
高等学校における地学領域の授業の全国的な開設状況. **三次徳二**

10：45 T8-O-4
高校の地学履修者は増える（埼玉県内の高校における新教育課程アンケート調査）. **小幡喜一**

11：00 T8-O-5
大阪における地学教育の現状. **芝川明義**

11：15 T8-O-6
東日本大震災被災地における中学校理科新学習指導要領の実施への対応. **川村寿郎**・八柳善隆

11：30 T8-O-7
2011年東北地方太平洋沖地震前後の教員および高校生の地学教育に関する意識の変化：地震領域の場合. **川村教一**

第 6 会場

R18. 応用地質学一般およびノンテクトニック構造

座長：榊原正幸（1-5），西山賢一（6-9）

9：30 R18-O-1
三重県熊野市のツエノ峰周辺の地質と地すべり地形・山体重力変形地形. **小嶋　智**・永田秀尚・大谷具幸

9：45 R18-O-2
和歌山県那智川流域における斜面崩壊の発生頻度. **西山賢一**・若月　強

10：00 R18-O-3
2011年長野県北部地震による栄村中条川上流での岩盤崩壊. **永田秀尚**・保柳康一・村越直美・卜部厚志・太田勝一

10：15 R18-O-4
断層数の関係式から予想される深層崩壊の場所. **吉村辰朗**

10：30 R18-O-5
北海道日高沿岸三石地域の地形と内陸地震の関係に関する予察的検討（その１．既存文献による検討）. **大津　直**・田村慎・鈴木隆広

10：45 R18-O-6
東日本大震災における仙台平野稲作地の津波被害の分布と塩害・土壌汚染に関する検討. **宗田和希**・香村一夫・栗原正憲

11：00 R18-O-7
石垣島サンゴ礁津波石の粘性残留磁化による回転史. 佐藤哲郎・**中村教博**・箕浦幸治

11：15 R18-O-8
四万十累層群に含まれる黄鉄鉱の形態によるヒ素含有量の違い：フランボイダル型と塊状型. **須藤　宏**・宮口新治・肝付秀隆・細田　宏・黒木瑞昭・大山洋一・島田允堯

11：30 R18-O-9
セレン汚染された建設発生土浸出水のカヤツリグサ科マツバイによるファイトレメディエーション. **榊原正幸**・蔵本　翔・岡崎健治・伊東佳彦・大日向昭彦・竹花大介

※講演番号は，シンポジウム（S），トピックセッション（T），レギュラーセッション（R），国際ワークショップ（W）のそれぞれに，口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています.
※講演要旨とプログラムとで発表題目や氏名が異なっている場合，講演要旨を正しいものとします.　※太字は代表発表者です.

■ 9 月 16 日（日）午前

会場	第 7 会場
	R8. 堆積物（岩）の起源・組織・組成
	座長：吉田孝紀（1-4），堀内　悠（5-8）
8：45	8：45 R8-O-1 米国の白亜系～古第三系ベントナイト層の産状・性質とその成因.　**堀内　悠**・高木哲一・昆　慶明 9：00 R8-O-2 南東太平洋ODP1237地点における漸新世以降の陸源砕屑物供給パターンおよび海洋環境の変遷.　**野間恵理子**・入野智久・ShaariHasrizal・山本正伸 9：15 R8-O-3 リフト-非活動的大陸縁辺で形成されたレッサーヒマラヤの前期原生代カリガンダキ累層群.　**酒井治孝**・岩野英樹・檀原徹・折橋裕二・瀧上　豊 9：30 R8-O-4 北海道中の川層群、広尾コンプレックスに含まれる礫の岩石学.　金子聡子・**志村俊昭**・七山　太・Kemp Anthony I. S. 9：45 R8-O-5 陶土層の化学組成－岐阜県恵那市，瀬戸層群原層の例－.　**吉田孝紀**・入江志織・志賀由佳・葉田野希・足立佳子 10：00 R8-O-6 古土壌相解析による陸域環境の復元：前期始新世赤崎河川システムの古景観.　**草場　敬**・佐野弘好 10：15 R8-O-7 紀伊半島四万十帯牟婁付加シーケンス（牟婁層群）砂岩の重鉱物組成と砕屑性ザクロ石組成（予報）.　**別所孝範** 10：30 R8-O-8 北海道沙流川における河川水中懸濁粒子と河口域海底堆積物の鉱物・主要元素組成.　**入野智久**・山下洋平・関宰・池原研・長尾誠也
	R11. 石油・石炭地質と有機地球化学
	座長：金子信行（1-3）
11：00	11：00 R11-O-1 北海道勇払油ガス田における地震探査とその解釈.　**河村知徳** 11：15 R11-O-2 山形県余目油田の放散虫化石層序.　小布施明子・**加藤　進**・本山　功 11：30 R11-O-3 四万十帯と秩父帯のシェールガスポテンシャル.　**鈴木德行**

■ MEMO ■

■ MEMO ■

※講演番号は，シンポジウム（S），トピックセッション（T），レギュラーセッション（R），国際ワークショップ（W）のそれぞれに，口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています.
※講演要旨とプログラムとで発表題目や氏名が異なっている場合，講演要旨を正しいものとします.　※太字は代表発表者です.

日本地質学会第 119 年学術大会（2012 大阪）講演プログラム（口頭）

■ 9 月 16 日（日）午後

会場	第 1 会場	第 2 会場	第 3 会場
	R6. 地域間層序対比と年代層序スケール	**T10. ジュラ系＋**	**W. 国際ワークショップ「Geology of Japan」**
	座長：里口保文（1-8）	座長：松岡　篤（1-3），石田直人（4-7）	座長：ウォリス　サイモン（1-3），奥平敬元（4-6），石渡明（7-8）
14：30	14：30 R6-O-1 日本とフランスにおける白亜系Albian/Cenomanian境界の対比.　**高嶋礼詩**・西　弘嗣・山中寿朗・井龍康文・高柳栄子・林　圭一・小安浩理・小川草平 14：45 R6-O-2 東赤道太平洋IODP Site U1338における中期中新世～更新世の浮遊性有孔虫生層序.　**林　広樹**・出光恭子・出原祐樹・Wade Bridget・木元克典・西　弘嗣・松井浩紀 15：00 R6-O-3 房総半島南端に分布する鮮新-更新統千倉層群の複合層序と古海洋学的研究.　**岡田　誠**・所　佳実・畠山晃寿・田村糸子 15：15 R6-O-4 三浦半島，三浦-上総層群における新第三紀と第四紀の境界.　**宇都宮正志**・楠　稚枝・中村章子・間嶋隆一・田中裕一郎・岡田　誠 15：30 R6-O-5 香川県西部の三豊層群の古地磁気層序.　**植木岳雪** 15：45 R6-O-6 琵琶湖南東岸，烏丸地区深層ボーリング試料の磁気層序.　**林田　明**・森田祐也・里口保文 16：00 R6-O-7 古琵琶湖層群雄琴仰木火山灰層と上総層群Ks7.03の対比.　**中里裕臣**・七山　太 16：15 R6-O-8 テフラの同定・対比における苦鉄質鉱物の主成分化学組成の有効性の検証.　**竹下欣宏**・小滝篤夫・三宅康幸・津金達郎	16：00 T10-O-1（招待） 宇宙プランクトン活動の経緯と成果について.　**岸本直子** 16：15 T10-O-2 マイクロCT技術のジュラ紀放散虫化石への応用例.　**石田直人**・岸本直子・松岡　篤・栗原敏之・木元克典・吉野　隆・松浦　執 16：30 T10-O-3 足尾帯葛生地域から産出したマンガン小球体包含層の形態分類と放散虫群集.　**荒川竜一**・相田吉昭 16：45 T10-O-4 中生代の巨大火成岩区の噴火と古環境変動.　**黒田潤一郎**・堀　利栄・鈴木勝彦・大河内直彦 17：00 T10-O-5 三畳紀中期赤色チャートの古地磁気学的研究：初生磁化の赤道域古緯度と広域的な二次磁化.　**宇野康司**・尾上哲治・濱田和優・濱見紗希 17：15 T10-O-6 石川県白山市の下部白亜系手取層群赤岩層より産出した植物化石群集の変遷過程.　**酒井佑輔**・関戸信次・松岡　篤 17：30 T10-O-7 トピックセッション「ジュラ系＋」10年間の歩み.　**松岡　篤**	14：30 Introduction. Wallis S. 14：35 Invited Lecture U-Pb ages of detrital zircons from Korean fold-thrust belts：Implications for the Pre-Mesozoic linkage between Japan and Korea. **Moonsup Cho**, Wonseok Cheong, Keewook Yi 14：55 W-O-1 Geotectonic evolution of Japan. **Isozaki Y**. 15：15 W-O-2 Time-space distribution and genetic diversity of ophiolites, accreted greenstones and alpine peridotites in Japan. **Ishiwatari A**. 15：35 W-O-3 Basement rocks of the South Kitakami and Kurosegawa belts, Japan. **Ehiro M**. 15：55 Break 16：05 W-O-4（招待） Deep seismic structure beneath the Japanese Islands. **Nakajima J**., Hasegawa A. 16：25 W-O-5 Cretaceous metamorphic rocks in Kyushu. **Miyazaki K**., Ikeda T., Maki K., Fukuyama M., Arima K. 16：45 W-O-6 Granitoid intrusive rocks of Japanese Islands：　their temporal and spatial distributions and isotopic characteristics. **Nakajima T**., Takahashi M., Imaoka T., Shimura T. 17：05 Break 17：15 W-O-7 Paired metamorphism in SW Japan：　tectonic models for the Sanbagawa and Ryoke belts. **Wallis S**., Okudaira T. 17：35 W-O-8 Expected new research progresses of the Shimanto Belt. **Kimura G**. 17：55 Discussion 18：25 End

※講演番号は，シンポジウム（S），トピックセッション（T），レギュラーセッション（R），国際ワークショップ（W）のそれぞれに，口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています.
※講演要旨とプログラムとで発表題目や氏名が異なっている場合，講演要旨を正しいものとします.　※太字は代表発表者です.

日本地質学会第 119 年学術大会（2012 大阪）講演プログラム（口頭）

■9 月 16 日（日）午後

第 4 会場

T5. 沈み込み帯地震発生帯研究の新たな進展

座長：亀田純（6-10），氏家恒太郎（11-14），金川久一（15-18）

14：30

14：30 T5-O-6（招待）
Japan Trench Fast Drilling Project（JFAST）：2011年東北地震の巨大滑りを理解するための掘削調査. **Mori James**・Chester Frederick・江口暢久・Toczko Sean・Brodsky Emily・小平秀一・Expedition 343scientists

14：45 T5-O-7
IODP第343次研究航海（JFAST）で実施された掘削同時検層の予察的成果. **斎藤実篤**・木戸ゆかり・真田佳典・Anderson Louise・Conin Marianne・Jeppson Tamara・林　為人・Moore Casey・Wolfson Monica・Mori Jim・Chester Frederick・江口暢久・Toczko Sean・前田玲奈・Expedition 343乗船研究者一同

15：00 T5-O-8
Horizontal stress orientations in hole C0019B drilled during IODP Expedition 343. **林　為人**・Moore J. Casey・Nakamura Yasuyuki ・Conin Marianne・Anderson Louise ・Mori James・Chester Frederick ・Eguchi Nobuhisa・Teczko Sean ・Maeda Lena ・Expedition 343 Scientists

15：15 T5-O-9
IODP第343次研究航海東北地方太平洋沖地震調査掘削（JFAST）で明らかになったプレート境界断層の特徴. **氏家恒太郎**・Mori James・Chester Frederick・江口暢久・Toczko Sean・Expedition 343scientists

15：30 T5-O-10
東日本巨大地震前後の発震機構の相違が明かす太平洋スラブのプレートダイナミクス. **新妻信明**

15：45
休憩

16：00 T5-O-11
熊野沖の巨大分岐断層による浅部変形構造. **芦　寿一郎**

16：15 T5-O-12
物性境界における弾性波速度およびAVOパラメータの検討：四国白亜系四万十帯. **橋本善孝**・土居範昭・坂本　駿

16：30 T5-O-13
変質海洋地殻の脱水と付加体深部流体の起源・挙動. **山口飛鳥**・亀田　純・北村有迅・斎藤実篤・木村　学

16：45 T5-O-14
Costa Rica浸食型沈み込み境界における応力場の時空間変化：IODP Expedition 334. **山本由弦**・林　為人・臼井洋一・金松敏也・斎藤実篤・Zhao Xixi・氏家恒太郎・Paola Vannucchi・Expedition 334乗船研究者

17：00 T5-O-15
IODP Exp334, コスタリカ沖地震発生帯掘削で採取されたココスプレート上軟泥堆積物の摩擦特性. **堤　昭人**・亀田　純・氏家恒太郎

17：15 T5-O-16
地震断層運動に伴う摩擦発熱の検出：ビトリナイト断層温度計の開発をめざして. **北村真奈美**・向吉秀樹・廣瀬丈洋

17：30 T5-O-17
スメクタイト－石英混合ガウジを用いた大変位・広速度領域摩擦実験. **大橋聖和**・廣瀬丈洋

17：45 T5-O-18
地震断層水素ガスと地下生命圏のリンケージ. **廣瀬丈洋**・川口慎介・鈴木勝彦

第 5 会場

R19. 地学教育・地学史

座長：矢島道子（1-5），松田義章（6-9）

15：30 R19-O-1
地域から時空システムを学ぶ地学の学習の試み（1）. **松田義章**・佐藤　誠

15：45 R19-O-2
地域から時空システムを学ぶ地学の学習の試み（2）. **佐藤誠**・松田義章

16：00 R19-O-3
学校現場における防災教育の重要性. **尾崎充雄**

16：15 R19-O-4
教科書「火成岩の分類」に見る地学教育の変遷. **浅野俊雄**

16：30 R19-O-5
地学部の指導から考える新教育課程. **川勝和哉**

16：45 R19-O-6
神奈川県西部地域の自然多様性を考慮した自然災害教育. **平田大二**・中村俊文・谷 圭司・加藤裕之・田代吉宏・尾崎幸哉・杉原英和・五島政一

17：00 R19-O-7
児童生徒が描く成層火山断面図～実験実践から学齢による変化を探る～. **笠間友博**

17：15 R19-O-8
ヴェーゲナー（1880-1930）とナウマン（1854-1927）. **矢島道子**

17：30 R19-O-9
市川新松の再興. **宮島　宏**・川崎雅之

第 6 会場

R17. 環境地質

座長：田村嘉之（5-8），川辺孝幸（9-12），香川　淳（13-16）

14：45 R17-O-5
平成23年台風12号によって紀伊半島で発生した地盤災害にみられた地質との関連性. **林　慶一**

15：00 R17-O-6
「地盤液状化スクリーニング調査」による不動産の取得検討時に可能な液状化発生リスクの顕在化. **横山芳春**・中村裕昭

15：15 R17-O-7
千葉県で観測されたやや長周期地震動に関する検討－2011東北地方太平洋沖地震の地震動観測結果から－. **酒井　豊**・加藤晶子・楠田　隆

15：30 R17-O-8
新潟地震と東北地方太平洋沖地震にともなう沈降現象について. **仲川隆夫**

15：45 R17-O-9
2011年東北地方太平洋沖地震による関東地下水盆南東部における地下水位変動. **香川　淳**・古野邦雄・岡部隆男

16：00 R17-O-10
2011年東北地方太平洋沖地震による人工地盤の変状（その２）－沖合海底から浚渫された埋立シルト層の意味について－. **岩本広志**・東　将士・樋口茂生・稲田　晃・伊藤彰秀・上加世田聡・川崎健一・楠恵子・佐藤伸司・品田正一・末永和幸・渡邉拓美

16：15 R17-O-11
オールコアボーリングによる液状化層の堆積学的検討. **稲崎富士**

16：30 R17-O-12
2011年東北地方太平洋沖地震およびその余震での液状化－流動化現象による被害分布と地質環境－東京湾岸埋立地の千葉市美浜区南東部の被害と稲毛海浜公園内での液状化－流動化層準－. **風岡　修**・古野邦雄・香川　淳・楠田　隆・酒井　豊・吉田剛・加藤晶子・山本真理・堀井義久・麻生　等・佐藤光男・高梨祐司・楡井　久

16：45 R17-O-13
東日本大震災の津波堆積物を用いた津波堆積物の地球化学的判別方法の開発. **土屋範芳**・山崎慎一・山田亮一・平野伸夫・岡本　敦・小川康正・渡邊隆広

17：00 R17-O-14
ChIbarakiTo Plume（S字型分布）とFukuToGun Plume（変転L字型分布）について. **木村和也**・中臺大幾・楡井　久

17：15 R17-O-15
地質汚染調査に基づいた放射線量単元調査. **上砂正一**・愛甲義昭・香川　淳・木村和也・楠田　隆・佐藤恭一・布施太郎・古野邦雄・増田俊壽・楡井　久

17：30 R17-O-16
自然の階層性と地質学的法則に従う放射性物質（Cs134 Cs137）の挙動. **楡井　久**・木村和也・中台大幾

※講演番号は，シンポジウム（S），トピックセッション（T），レギュラーセッション（R），国際ワークショップ（W）のそれぞれに，口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています.
※講演要旨とプログラムとで発表題目や氏名が異なっている場合，講演要旨を正しいものとします.　　※太字は代表発表者です.

■ 9 月 16 日（日）午後

会場	第 7 会場
	R10. 堆積相・堆積過程
	座長：西田尚央（1-5），石原与四郎（6-9），片岡香子（10-14）
14：30	14：30 R10-O-1 三日月型砂丘列内の相対位置に関する一考察. **遠藤徳孝**・谷口圭輔・村上貴志・竹原幸生・東　良慶 14：45 R10-O-2 開水路に軽量物質で形成されるベッドフォームの安定領域. **横川美和**・辻彬仁・岸本和晃・溝上優次・室川武範・村岡奨・成瀬　元 15：00 R10-O-3 火山性決壊洪水堆積物中に認められる大規模な内部構造：地中レーダ探査の火山砕屑物への応用. **片岡香子**・ゴメス　クリストファー 15：15 R10-O-4 十和田八戸イグニンブライト直上にみられるチャネル埋積型ラハール堆積相. **鎌田耕太郎** 15：30 R10-O-5 九十九里海岸一宮川河口の変遷と洪水イベントとの関係. **七山　太**・目代邦康・高橋尚志・大井信三 15：45 R10-O-6 地中レーダによる河川網状州（安倍川）の３次元内部構造. **岡崎浩子**・郭　栄珠・田村　亨 16：00 R10-O-7 阿武隈川流域における放射性セシウムの動態に関する堆積学的研究. **箕浦幸治**・山田　努・平野信一・杉原真司 16：15 R10-O-8 背弧拡大期における前弧域堆積作用：下部−中部中新統三崎層群の例. **奈良正和** 16：30 R10-O-9 北西中国ジュンガル盆のジュラ紀末〜白亜紀前期気候変動の堆積記録. **坂井　卓**・平野弘道・太田　亮・Li Gang・伏木一泰・田中　聡・松田周太 16：45 R10-O-10 地中海流出水の開始，進化，およびその効果：Cádiz湾におけるIODP航海339“Mediterranean Outflow”の概要. **高清水康博**・Hernández-Molina Francisco Javier ・Stow Dorrik A.V.・Alvarez-Zarikian Carlos・風呂田郷史・Jimenez-Espejo Francisco・黒田潤一郎・七山　太・西田尚央・Exp. 339 乗船研究者 17：00 R10-O-11 コンターライト堆積相の特徴とその時空的変化：北大西洋スペイン-ポルトガル沖. **西田尚央**・Hernández-Molina Javier, F.・Stow Dorrik, A. V.・Alvarez-Zarikian Carlos・風呂田郷史・Jimenez-Espejo Francisco, J.・黒田潤一郎・七山　太・高清水康博・IODP Exp. 339 乗船研究者 17：15 R10-O-12 シーケンス境界の形成時期－IODP Exp.317ニュージーランド南島東方沖陸棚斜面掘削コアの分析結果から－. **保柳康一**・村越直美・古藤　尚・小林由季・上端智幸・河潟俊吾 17：30 R10-O-13 2011年台風12号の降雨により奈良県十津川流域の小原谷に発生した岩屑なだれの特徴. **中屋志郎** 17：45 R10-O-14 海底土石流堆積物に発達する渦構造の分布と削剥痕跡. **中屋志郎**

■ MEMO ■

■ MEMO ■

※講演番号は，シンポジウム（S），トピックセッション（T），レギュラーセッション（R），国際ワークショップ（W）のそれぞれに，口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています.
※講演要旨とプログラムとで発表題目や氏名が異なっている場合，講演要旨を正しいものとします.　※太字は代表発表者です.

日本地質学会第 119 年学術大会（2012 大阪）講演プログラム（口頭）

■ 9 月 17 日（月）午前

会場	U ホール	第 1 会場	第 2 会場
	S2. 西日本の海溝型地震と津波を考える	**R15. 古生物**	**R12. 岩石・鉱物の破壊と変形**
	座長：倉本真一（1-7）	座長：石田　桂（1-4），金　光男（5-7）	座長：高橋美紀（1-4），廣瀬丈洋（5-9）
9：00	9：00 会長あいさつ．石渡　明 9：02　S2-O-1 南海トラフ沿岸湖沼からの警告．**岡村　眞**・松岡裕美 9：25　S2-O-2（招待） 河内平野の震度分布と大坂の津波到達点に見る，安政南海地震（1854）と宝永地震（1707）の差．**都司嘉宣** 9：48　S2-O-3 南海トラフの海底活断層調査と地震発生帯掘削．**芦　寿一郎** 10：10　S2-O-4 海溝軸への地震破壊伝播は南海トラフでも．**坂口有人** 10：25 休憩 10：30　S2-O-5 自然放射線とは．**今井　登** 10：53　S2-O-6（招待） 放射能と放射線教育．**和澄利男** 11：16　S2-O-7 メディアから見た地学教育の重要性．**笹沢教一** 11：39　全体質疑・討論	10：00　R15-O-1 海底面の保存を指示する新種の生痕化石．　**金　光男** 10：15　R15-O-2 伊豆半島の中新統湯ヶ島層群桜田層から産出した造礁サンゴ群集．　**門田真人**・冨田 進 10：30　R15-O-3 モンゴル産恐竜化石の盗掘実態と地球化学的手法を用いた学術的標本価値の再生（予報）．　**実吉玄貴**・西戸裕嗣・Khishigjav Tsogtbaatar・Tsogtbaatar Chinzorig 10：45　R15-O-4 岩手県久慈市の上部白亜系久慈層群玉川層より発見された陸生脊椎動物群．　**平山　廉**・薗田哲平・佐々木和久・小林快次・滝沢利夫・楠橋　直・安藤寿男・三宅優佳・大倉正敏・大石雅之・真鍋　真・對比地孝亘 11：00　R15-O-5 パンサラッサ海起源のペルム紀・三畳紀境界遠洋性珪質岩層の岩相・化石層序の比較．　**佐野弘好**・桑原希世子・八尾昭・上松佐知子 11：15　R15-O-6 北九州市小倉南区高津尾に分布する平板状の石灰岩礫中に産するフズリナについて（予察的研究）．　**太田泰弘**・石山沙耶 11：30　R15-O-7 東北日本の上部ペルム系産腕足類フォーナ：種構成，時代，古生物地理．　**田沢純一**	9：15　R12-O-1 岩石内部の応力状態を見る．　**坂口有人**・阪口　秀・柳澤和道 9：30　R12-O-2 弾性歪エネルギーの散逸機構の再検討．　**滝沢　茂**・酒井亨・角田裕一・小澤佳奈 9：45　R12-O-3 平面ひずみ圧縮された粘土のせん断帯の幾何特性．　**佐野郁雄** 10：00　R12-O-4 粘弾性構成則と分数階微分の幾何学．　**長濱裕幸**・谷島尚宏 10：15　R12-O-5 接触変成帯におけるチャート中の石英の粒径変化から見積った粒界拡散係数．　**奥平敬元**・坂東　光・吉田健太 10：30　R12-O-6 延岡衝上断層掘削コアの岩石物性と変形様式．　**浜橋真理**・斎藤実篤・木村　学・山口飛鳥・福地里菜・亀田　純・濱田洋平・藤本光一郎・橋本善孝・栄田美緒・北村有迅・水落幸広・比名祥子・長谷和則・明石考行 10：45　R12-O-7 瑞浪超深地層研究所周辺に分布する断層の形成・発達過程．**窪島光志**・笹尾英嗣 11：00　R12-O-8 有馬－高槻構造線六甲断層近傍の花崗岩中に発達する黒色脈状断層岩．　**田中　誠**・堤　昭人 11：15　R12-O-9 Pulverized rockの微細構造と粒径分布：サンアンドレアス断層と有馬高槻構造線．　**中谷　剣**・武藤　潤・西川　治・長濱裕幸・大槻憲四郎

※講演番号は，シンポジウム（S），トピックセッション（T），レギュラーセッション（R），国際ワークショップ（W）のそれぞれに，口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています．
※講演要旨とプログラムとで発表題目や氏名が異なっている場合，講演要旨を正しいものとします．　※太字は代表発表者です．

■ 9 月 17 日（月）午前

会場	第 3 会場	第 4 会場
	T3. 地層処分と地球科学	**T7. ジルコン学**
	座長：吉田英一（1-4），渡部芳夫（5-8）	座長：青木一勝（1-3），昆 慶明（4-6），牧 賢志（7-9），山本伸次（10-12）
8：45	9：30 T3-O-1 希ガス同位体を用いた活断層の調査手法の開発．　**梅田浩司**・草野友宏・浅森浩一 9：45 T3-O-2 地層処分の観点から見た泥火山と異常間隙水圧．　**関　陽児**・高橋正明・風早康平・伊藤一誠・渡部芳夫 10：00 T3-O-3 最終間氷期の旧汀線間の高度関係から知られる隆起速度の変化．　**荒井　融** 10：15 T3-O-4 地層処分地選定のための地質環境調査技術の実証研究－沿岸域堆積軟岩地点の課題・成果と今後の展望－．　**近藤浩文**・木方建造・長谷川琢磨・濱田崇臣・鈴木浩一・吉村公孝 10：30 T3-O-5 超長期を考慮した自然現象の確率論的評価手法の検討．　**後藤淳一**・西尾　光・吉村公孝 10：45 T3-O-6 長期の安全評価における地震・断層活動が起因する影響の連関とそれに伴う不確実性について．　**大坪　誠**・宮川歩夢・伊藤一誠 11：00 T3-O-7 既存地質要件（データ）に基づいたサイト選定に関する検討．**吉田英一**・千木良雅弘・高橋正樹 11：15 T3-O-8 地質環境長期安定性と第四紀後期日本列島の超長期地殻安定区の提案．　**高橋正樹**・吉田英一	8：45 T7-O-1 ジルコンのカソードルミネッセンスと年代測定への応用．　土屋裕太・**鹿山雅裕**・西戸裕嗣・能美洋介 9：00 T7-O-2 第四紀ジルコンのU-Pb年代測定における放射非平衡の影響の見積もりと補正．　**坂田周平**・岩野英樹・服部健太郎・檀原徹・平田岳史 9：15 T7-O-3 ジルコン結晶形とU-Pb年代．　**安間　了**・折橋裕二 9：30 T7-O-4 ジルコンU-Pb年代頻度分布法に基づく，花崗岩分類法の再検討．　**鈴木和恵**・山本伸次・昆　慶明・牧　賢志・平田岳史・丸山茂徳 9：45 T7-O-5 SHRIMPジルコンU-Pb年代測定による関東山地寄居地域から産するひすい輝石石英岩の起源．　**福山繭子**・小笠原正継・堀江憲路 10：00 T7-O-6 希土類資源としてのジルコンの研究：カナダNechalacho鉱床を例として．　**星野美保子**・渡辺　寧・村上浩康・昆　慶明 10：15 T7-O-7 ルオブサオフィオライトに産するポディフォーム・クロミタイトから得られたリサイクルジルコン：ジルコンから読み取るマントル内プロセス．　**山本伸次**・小宮　剛・昆　慶明・平田岳史・丸山茂徳・Yang Jing-Sui・Robinson Paul 10：30 T7-O-8 広域の低角度造山帯境界断層：西南日本における石垣-玖珂構造線と砕屑性ジルコン年代頻度分布の対比．　**青木一勝**・磯崎行雄・佐藤友彦・牧　賢志・横山隆臣・平田岳史 10：45 T7-O-9 川砂ジルコンの鉛，ハフニウム，酸素同位体組成から探るアフリカ大陸地殻進化．　**飯塚　毅**・キャンベル イアン・アレン シャーロット・丸山茂徳 11：00 T7-O-10（招待） 二次イオン質量分析計（SIMS）を用いたジルコンのリチウム濃度・同位体比組成の探求．　**牛久保孝行**・バレー ジョン 11：15 T7-O-11 カナダ・ラブラドル地域（3.8 Ga）の地質とジルコン年代．**下條将徳**・山本伸次・牧賢志・坂田周平・澤木祐介・青木一勝・石川晃・岡田吉弘・平田岳史・小宮　剛 11：30 T7-O-12 冥王代研究：太古代最初期の地質体の再検討と冥王代ジルコン年代・地質分布に基づく初期大陸成長．　**小宮　剛**

■ MEMO ■

※講演番号は，シンポジウム（S），トピックセッション（T），レギュラーセッション（R），国際ワークショップ（W）のそれぞれに，口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています．
※講演要旨とプログラムとで発表題目や氏名が異なっている場合，講演要旨を正しいものとします．　※太字は代表発表者です．

日本地質学会第 119 年学術大会（2012 大阪）講演プログラム（口頭）

■9 月 17 日（月）午後

第 1 会場

T4. 地球史イベント大事件７

座長：黒田潤一郎（1-4），山口耕生（5-8），小宮　剛（9-11），清川昌一（12-13）

14：30

14：30 T4-O-1
リンの存在形態別分析から明らかにする約45～50Maの北極海の環境変動と生物地球化学循環（IODP Exp 302）．　**橋本俊太**・山口耕生・高橋孝三

14：45 T4-O-2
K/Pg境界衝突起源衝撃変成石英の平面変形構造（PDFs）分析によるクレーター近傍のイジェクタ飛散過程の解明．　**常　昱**・田近英一・後藤和久・関根康人

15：00 T4-O-3
美濃帯層状チャートのOs同位体組成から復元された三畳紀後期天体衝突イベント．　**佐藤峰南**・尾上哲治・野崎達生・鈴木勝彦

15：15 T4-O-4
三宝山付加コンプレックスの塊状玄武岩におけるかんらん石仮像中に産するフィラメント状微生物生体化石．　**菅原久誠**・榊原正幸・池原　実

15：30 T4-O-5
地球史を通した堆積性マンガン鉱床の変遷．　**伊藤　孝**

15：45 T4-O-6
鉄マンガンクラストのOs同位体比層序： 成長ハイエタス仮説の検証に向けて．　**後藤孝介**・野崎達生・鈴木勝彦・得丸絢加・臼井朗・常青・木村純一・浦辺徹郎・NT09-02及びKY11-02航海乗船者一同

16：00 T4-O-7
ブラジル・バイーア州の新原生代スロンボライトの年代と生物活動．　**狩野彰宏**・古山精史朗・高島千鶴・白石史人

16：15 T4-O-8（招待）
Structural control and age of the high-grade iron ores：The case of the Quadrilátero Ferrífero, Brazil.　**Rosière Carlos Alberto**

16：30 T4-O-9
太古代の31億年前のクリバービル縞状鉄鉱層の層序：DXCL2の掘削成果．　**清川昌一**・伊藤　孝・池原　実・山口耕生・尾上哲治・菅沼悠介・堀江憲治・坂本　亮・寺司周平・竹原真美・相原悠平

16：45 T4-O-10
南アフリカ・バーバートン帯・マペペ層の 32億年前の海洋底堆積物の堆積環境．　**寺司周平**・清川昌一・伊藤孝・池原実・山口耕生

17：00 T4-O-11
生命 vs. 非生命？　地球史初期の堆積岩の鉄同位体記録．　**山口耕生**

17：15 T4-O-12
カナダアカスタ片麻岩体に存在する初期太古代角閃岩の産状と岩石学的特徴．　**越田渓子**・小宮　剛

17：30 T4-O-13
初期太古代Labrador地域Nulliak表成岩中の縞状鉄鉱層，炭酸塩岩，チャートの産状と地球化学的研究．　**青木翔吾**・石川晃・下條将徳・澤木祐介・平田岳史・小宮　剛

第 2 会場

R14. テクトニクス

座長：丹羽正和（1-4），大坪　誠（5-9），加藤直子（10-14）

14：30 R14-O-1
本州中部の中新世回転運動に対する新たな制約．　**星　博幸**・佐野正和

14：45 R14-O-2
大陸衝突型造山帯のグラニュライト中に産出する珪長質火山岩様包有物：そのテクトニクスにおける重要性．　**廣井美邦**・柳 綾彦・加藤睦実・小林記之・B. プレーム・石川正弘・M. サティッシュ - クマール・外田智千・本吉洋一・白石和行

15：00 R14-O-3
和泉堆積盆の熱テクトニクス．　**清家一馬**

15：15 R14-O-4
和泉層群の傾動と褶曲形成：層面滑り断層による制約．　**小山俊之**・山路　敦・佐藤活志

15：30 R14-O-5
ホットスポットと太平洋プレートの運動：最近の知見．　**星博幸**・山崎俊嗣

15：45 R14-O-6
日本海溝沈み込み帯のプレート境界近傍の花崗岩と蛇紋岩．　**石川正弘**

16：00 R14-O-7
層理面方位の記号表記システムについて －産総研地質図幅記号システム批判－．　**山北　聡**

16：15 R14-O-8
反射法地震探査による高田平野東縁の地質構造．　**加藤直子**・石山達也・佐藤比呂志・蔵下英司・越谷　信・戸田　茂・豊島剛志・斉藤秀雄

16：30 R14-O-9
赤石山脈を走る中央構造線の右横ずれ運動を示す姿．　**坂本正夫**

16：45 R14-O-10
警固断層に伴う左横ずれ堆積盆の堆積作用と構造運動．　**木村克己**・康　義英・花島裕樹

17：00 R14-O-11
2011年4月11日福島県浜通りの地震で地表に現れた断層ガウジと元素移動の関係．　**大谷具幸**・山下光将・小嶋　智・若居勝二・各務和彦

17：15 R14-O-12
阿寺断層系下呂断層と湯ヶ峰断層の並走部における破砕帯の特徴．　**丹羽正和**・水落幸弘・棚瀬充史

17：30 R14-O-13
青森県白神岳花崗岩質岩体にみられるマイロナイトの形成過程と変形微細構造．　**酒井　亨**・西川　治・藤本幸雄

17：45 R14-O-14
断層帯の階層的フラクタル幾可の普遍則：地震の多様を支配する鍵．　**大槻憲四郎**

第 3 会場

R4. 変成岩とテクトニクス

座長：河上哲生（1-4），青矢睦月（5-8），岡本敦（9-12）

14：30 R4-O-1
南インドダルワール地塊，チトラドゥルガ剪断帯の構造発達とパンアフリカ造山運動．　**Chemnad Razak Abdulla Nasheeth**・Takamoto Okudaira・Tomokazu Hokada・Kenji Horie・M. Satish-Kumar・Yuichiro Ueno・Kaoru Mishima

14：45 R4-O-2
Variation of garnet zoning pattern in the pelitic gneisses and it's implications to thermal history of Tseel terrane, SW Mongolia.　**Ulziiburen Burenjargal**・Atsushi Okamoto・Noriyoshi Tsuchiya

15：00 R4-O-3
東南極，中央部-東部ドロンイングモードランドにおける変形史と左ずれトランスプレッション，引張テクトニクス．　**豊島剛志**・小山内康人・馬場壮太郎・外田智千・中野伸彦・足立達朗・大坪　誠・野木義史

15：15 R4-O-4
北海道神居古潭帯，幌加内－江丹別地域に産出する蛇紋岩メランジェ中の角閃岩ブロックの温度－圧力履歴．　**岡本あゆみ**・竹下　徹

15：30 R4-O-5
沈み込み帯における蛇紋岩メランジの形成過程の一考察：小笠原弧大町海山と北海道神居古潭帯の比較から．　**植田勇人**

15：45 R4-O-6
スピニフェックス様組織を示す変成カンラン岩から見た肥後変成岩と日立変成岩の比較論．　**西山忠男**・恵口　響・潮崎大・田切美智雄

16：00 R4-O-7
鉱物包有物の形成過程：ざくろ石斑状変晶中の石英の例．　**岡本　敦**・福田惇一・武藤　潤

16：15 R4-O-8
下部地殻深度での部分溶融：長崎変成岩類の例．　**宮崎一博**・福山繭子・池田剛・有馬和宏・牧　賢志

16：30 R4-O-9
久万高原地域，ひわだ峠層中の結晶片岩礫のK-Ar年代．　**高木秀雄**・向坂陽二郎

16：45 R4-O-10
三波川帯における超苦鉄質岩類の分布パターンとその起源，及び白亜紀三波川沈み込み帯における大陸地殻の厚さ．　**青矢睦月**・遠藤俊祐・水上知行・ウォリスサイモン

17：00 R4-O-11
変成交代作用における不安定界面成長と随 伴境界不安定．　**鳥海光弘**・福山繭子

17：15 R4-O-12
Channel flow model 検証の問題点．　**林　大五郎**

※講演番号は，シンポジウム（S），トピックセッション（T），レギュラーセッション（R），国際ワークショップ（W）のそれぞれに，口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています．
※講演要旨とプログラムとで発表題目や氏名が異なっている場合，講演要旨を正しいものとします．　※太字は代表発表者です．

日本地質学会第 119 年学術大会（2012 大阪）講演プログラム（口頭）

■9 月 17 日（月）午後

会場	第 4 会場	第 5 会場	第 6 会場
	R1. 深成岩・火山岩とマグマプロセス	**T1. 地質情報の利活用**	**R9. 炭酸塩岩の起源と地球環境**
	座長： 壷井基裕（1-4），湯口貴史（5-7），越後拓也（8-10），足立佳子（11-14）	座長：斎藤　眞（1-4），野々垣進（5-8）	座長：松田博貴（1-4），山田　努（5-7），足立奈津子（8-11）
14：30	14：30 R1-O-1 北上山地における前期白亜紀の火成活動：特に遠野複合深成岩体の形成について．　**御子柴真澄**・蟹澤聰史 14：45 R1-O-2 島弧地殻の部分溶融による太古代中期トーナル岩・トロニエム岩・花崗閃緑岩 （TTG）の生成：マダガスカル東部地域の例．**市來孝志**・石川正弘・小山内康人・中野伸彦・足立達朗・木村純一・仙田量子 15：00 R1-O-3 山口県後期白亜紀防府バソリスの三次元形態：地質・岩石と重力異常からの推定．　**今岡照喜**・小室裕明・山脇恵理香・金折裕司・大川侑里・金田孝典・山本明彦 15：15 R1-O-4 土岐花崗岩体のストロンチウム同位体比初生値の空間分布から推定する花崗岩体の貫入・定置過程および冷却固化過程．　**湯口貴史**・鶴田忠彦・國丸貴紀・西山忠男 15：30 R1-O-5 世界一若い地表露出花崗岩の生成年代とその意義－北アルプス，黒部川花崗岩のU-Pb年代とテクトニクス－．　**伊藤久敏**・山田隆二・田村明弘・森下知晃・荒井章司 15：45 R1-O-6 香川県小豆島における領家火成岩類中の同時性苦鉄質岩脈の形成過程．　**小泉奈緒子** 16：00 R1-O-7 三宅島産灰長石巨晶に産するAl/Si完全無秩序型灰長石．　**越後拓也**・星野美保子・木股三善・清水雅浩・松井智彰・西田憲正 16：15 R1-O-8 冠高原デイサイト中に産するブロンザイト質斜方輝岩の岩石学的研究．　**藤林紀枝**・木村健太・山田綾実 16：30 R1-O-9 IODP Hole 1256Dの斜長石の組成累帯構造に記録されたシート状岩脈群基底部での部分溶融と同化作用．　**宮下純夫**・足立佳子・山崎秀策 16：45 R1-O-10 Hole 1256Dのシート状岩脈群基底部での部分溶融と同化作用：全岩化学組成からの検討．　**足立佳子**・宮下純夫・Exp. 335乗船研究者 17：00 R1-O-11 マリアナ海溝蛇紋岩海山から産出したカンラン岩の構造岩石学的特徴．　**近藤洋裕**・藤井彩乃・道林克禎・石井輝秋・Fryer Patricia・前川寛和 17：15 R1-O-12 京都大学総合博物館に収蔵されたロンダかんらん岩コレクション：その歴史的・現代的意義．　**小畑正明** 17：30 R1-O-13 北海道北西沖後志海山の玄武岩～安山岩溶岩に包有されるかんらん岩捕獲岩．　**市山祐司**・森下知晃・田村明弘・荒井章司 17：45 R1-O-14 北部フォッサマグナ，荒倉山層火山岩類の岩石学的研究．　**業田顕行**・山元正継	14：30 T1-O-1 北海道新得町丸山，ワッカタリベツ川石灰華群．　**廣瀬　亘**・八幡正弘 14：45 T1-O-2 震災後の海域における環境調査と海洋GISによる解析．　**笠谷貴史**・山北剛久・山本啓之・北里洋 15：00 T1-O-3 国際標準を活用した地質情報の公開について．　**川畑大作**・西岡芳晴・根本達也・北尾　馨・野々垣　進 15：15 T1-O-4 地質図幅情報の配信と利用機能提供に向けての取り組み．　**内藤一樹** 15：30 T1-O-5 地質情報発信におけるKMLの活用－シームレス地質図での火山表示－．　**西岡芳晴**・中野　俊・長津樹理・野々垣（眞坂）淑恵 15：45 T1-O-6 シームレス地質図等の地質情報の災害脆弱性評価への活用．**小荒井　衛**・神谷　泉・乙井康成・中埜貴元・齋藤眞・宝田晋治・西岡芳晴 16：00 T1-O-7 国土の基盤情報としてのボーリングデータ利活用のすすめ．**木村克己**・大井昌弘・石原与四郎・根本達也 16：15 T1-O-8 地質図に関連したJIS A 0204/0205の改正とその要点．　**鹿野和彦**・斎藤　眞・尾崎正紀	14：30 R9-O-1 南中国のカンブリア紀前期最後期生物礁 －古杯類礁消滅から微生物礁への変遷－．　**足立奈津子**・江崎洋一・劉　建波 14：45 R9-O-2 揚子地塊における礁構築様式のレジーム転換前の条件－カンブリア紀中・後期の地球生物環境－．　**江崎洋一**・劉建波・足立奈津子 15：00 R9-O-3 秋吉石灰岩下部ペルム系Artinskianにおける微生物岩の多産と干潟堆積物の発達．　**中澤　努**・上野勝美・野々村奈美・藤川将之 15：15 R9-O-4 ボリビア産白亜紀ストロマトライトの成因および堆積環境の地球化学的分析．　**山梨純平**・中森　亨・山田　努・山根広大・池原　実 15：30 R9-O-5 白亜紀ストロマトライトの成長モデル．　**中森　亨**・山梨純平 15：45 R9-O-6 インドネシア東ジャワ・カンゲアン島の新生代炭酸塩堆積システムについて．　**八木正彦**・島津　崇・一丸裕二・江森良太郎・松丸国照・Janson Xavier 16：00 R9-O-7 鹿児島県トカラ列島小宝島東方沖陸棚上の礁岩の堆積学的特徴とその年代．　**松田博貴**・荒井晃作・井上卓彦・町山栄章・佐々木圭一・井龍康文・佐藤時幸・山崎　誠 16：15 R9-O-8 久慈市内間木洞の石筍炭素同位体比変動と土壌堆積物中の花粉・植物ケイ酸体から推定される植生変化との関連．　**加藤大和**・山田　努・岡本　透・林原小都音・富塚昌宏・菊地敏雄・松田博貴・栗崎弘輔・吉村和久 16：30 R9-O-9 非石灰岩地域における石灰岩カルスト地形の発見－千葉県，上総層群分布域からの報告．　浦田健作・加藤久佳・**兼子尚知** 16：45 R9-O-10 トラバーチン堆積場での脱ガス誘導型沈殿を再現する新たな速度則．　**奥村知世**・狩野彰宏 17：00 R9-O-11 石筍の炭素・酸素同位体組成と滴下水の同位体組成との定量的関係：鹿児島県沖永良部島水連洞におけるケーススタディー．**山田　努**・松田博貴

※講演番号は，シンポジウム（S），トピックセッション（T），レギュラーセッション（R），国際ワークショップ（W）のそれぞれに，口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています．
※講演要旨とプログラムとで発表題目や氏名が異なっている場合，講演要旨を正しいものとします．　※太字は代表発表者です．

日本地質学会第119年学術大会（2012大阪）講演プログラム（ポスター）

■９月15日（土）　コアタイム 12：30-13：50　学術交流会館

T2. プレート収束境界の堆積盆形成：構造・堆積作用・テクトニクス

T2-P-1
岩手県西和賀町周辺奥羽脊梁山脈の前期～中期中新世テクトニクス.　**細井　淳**・岡田　誠・天野一男

T2-P-2
東海沖における第四紀堆積盆発達過程.　**玉置真知子**・古川稔子

T6. 顕生代の生物多様性変化 / 減少のパタンと要因

T6-P-1
２億年前の深海堆積物から地球外起源物質を探る.　**藤崎渉**・山本伸次・斉藤拓也・岡田吉弘・鈴木和恵・磯崎行雄・丸山茂徳

T9. 地殻流体のダイナミズム その２

T9-P-1
微小剪断帯における炭質物の挙動.　**中村佳博**・豊島剛志・Madhusoodhan Satish Kumar・赤井純治

R2. 岩石・鉱物・鉱床学一般

R2-P-1
傾いた岩脈の両側面における冷却過程と母岩の残留磁化のリセット.　**兵藤博信**・中村教博

R2-P-2
宮城・岩手県境の中期中新世の石越安山岩に含まれるエデン閃石斑晶と金雲母.　**佐藤　景**・石渡　明

R2-P-3
Luttzow-Holm岩体に産する高カリウム苦鉄質岩岩脈の産状～岩石・鉱物組成から考察する貫入状況～.　**宮本知治**・角替敏昭・Dunkley Daniel J.・加藤睦実

R2-P-4
東南極ナピア岩体のサフィリン＋石英共生を含む超高温変成岩の変成相解析からみた温度圧力履歴.　**角替敏昭**・清水恒子

R2-P-5
環伊豆地塊蛇紋岩帯に産する深成岩類のバリエーション.　**高橋直樹**・荒井章司

R2-P-6
スラブ物質とマントル物質の物理化学相互作用の痕跡：三波川帯泥質片岩へ多角的なアプローチ.　**水上知行**・岡崎　友・荒井章司・針金由美子・道林克禎・榎並正樹・Wallis Simon

R2-P-7
マリアナ前弧蛇紋岩海山の岩石学：ツインピークス海山と雷神海山から回収されたかんらん岩類に含まれる鉄に富むかんらん石.　**村田恵子**・吉田尚悟・前川寛和

R2-P-8
夜久野オフィオライトかんらん岩における高温変質作用.　石川貴之・**野坂俊夫**

R3. 噴火・火山発達史と噴出物

R3-P-1
奈良，石仏凝灰岩層の層序と対比.　**佐藤隆春**・鈴木桂子・中条武司・和田穣隆

R3-P-2
島根県東部伯太における花崗岩の深い窪地に形成された第四紀玄武岩溶岩湖.　**沢田順弘**

R3-P-3
鳥海火山北麓～北斜面における象潟岩屑なだれ以降のラハール堆積物.　**南　裕介**・大場　司・林　信太郎・片岡香子

R3-P-4
富士火山，小御岳火山，先小御岳火山の活動年代の検討.　**吉本充宏**・中野　俊・松本哲一・藤井敏嗣

R3-P-5
インドネシア，テンガー火山地域における第二次（サンドシー）カルデラ噴火の発生時期の決定.　**土志田　潔**・竹内晋吾・高田　亮・Heriwaseso Anjar・Mulyana Rosgandika・Nursurim Asep

R5. 地域地質・地域層序

R5-P-1
500万分の１アジア国際地質図－日本の貢献.　**脇田浩二**・荒井晃作・宝田晋治・加藤　敏

R5-P-2
早池峰山北方における南部北上帯／根田茂帯境界の左横ずれテクトニクス.　**内野隆之**・川村信人

R5-P-3
秋田県阿仁合地域の地質.　**鹿野和彦**・大口健志・石川洋平・矢内桂三・藤本幸雄・植村和彦・小笠原憲四郎

R5-P-4
山形城巽櫓遺構の石垣石材産地と栗石の礫種組成.　**大友幸子**・奥山遥香

R5-P-5
関東山地東部，秩父市浦山地域の秩父累帯.　**加藤　潔**・安井万奈・山崎淳司

R5-P-6
房総半島南端部に分布する鮮新統／更新統千倉層群の浮遊性有孔虫化石層序と表層海洋環境変遷.　**濱田早苗**・亀尾浩司・林広樹・岡田　誠

R5-P-7
温泉井の岩石記載に基づく長野県松本市街地の地下地質.　**向井理史**・原山　智・小坂共栄・柿原仁志

R5-P-8
富山市の中心市街地における呉羽山断層帯の反射法地震探査結果と地表トレースについて.　村尾英彦・**竹内　章**

R5-P-9
岐阜県，美濃帯の玄武岩質火山岩にみられる亀裂と変形構造.　**田中姿郎**・久野春彦・小早川博亮

R5-P-10
5万分の1「京都東南部」図幅地域の地質.　脇田浩二・**竹内圭史**・水野清秀・小松原琢・中野聰志・竹村恵二・田口雄作

R5-P-11
京都府京丹後市丹後町袖志のAT火山灰層と古環境.　**小滝篤夫**・加藤茂弘・河合小百合・石田志朗

R5-P-12
山陰海岸ジオパーク香住海岸における中新世ペペライトの産状と形成過程.　**松原典孝**・先山　徹

R5-P-13
兵庫県但東地域の“古生層”から産出した放散虫化石とその年代.　**菅森義晃**

R5-P-14
海進期の波食面痕跡（ラビーンメント面）から地盤の昇降傾向を推定する試み：大阪平野の表層地質情報での例.　**櫻井皆生**・増田富士雄・伊藤有加

R5-P-15
大阪平野南部，泉北丘陵の大阪層群下部火山灰層序－光明池Ⅲ火山灰層下位の結晶質火山灰層－.　**石井陽子**

R5-P-16
三重県北部，養老山地西南部の美濃帯付加コンプレックスに貫入する苦鉄質岩体の特徴と全岩K-Ar年代.　**貴治康夫**

R5-P-17
徳島県北部島田島に分布する和泉層群板東谷層の地質と堆積環境.　**菊地一輝**・小竹信宏

R5-P-18
徳島県木頭地域の寒谷層より産出した後期三畳紀アンモノイド *Sirenites*.　**辻野泰之**・重田康成・前田晴良

R5-P-19
香川県伊吹島に分布する瀬戸内火山岩の産状.　**川畑　博**

R5-P-20
愛媛県久万高原町と内子町に分布する“下坂場峠礫岩層”の層序学的位置.　**越智真人**・楠橋　直

R5-P-21
砕屑性ジルコンのU-Pb年齢から見た奄美大島の中生代付加体の後背地の変遷.　**木林和美**・早坂康隆・宮本隆実・勝部亜矢・木村光佑

R5-P-22
ネパールヒマラヤのジオパーク計画.　**吉田　勝**・ウプレティ B. N.・ネパールK.

R5-P-23
タイ王国東南部クレン（Klaeng）地域に見出された中部～上部デボン系珪質堆積物の層序とその地質学的帰属.　**鎌田祥仁**・加藤京都・上野勝美・宮東　照・Surdsud, A.,（DMR）・Charoentitirat, T.

R5-P-24
タイ王国北部インタノン帯に見いだされた下部ペルム系チャート－泥質岩シーケンスの岩相・層序.　**後藤和樹**・鎌田祥仁・上野勝美・宮東　照

R10. 堆積相・堆積過程

R10-P-1
茨城県南部花室川低地における最終氷期河川システム.　**中島礼**・安藤寿男・吉田明弘・百原　新・大井信三・国府田良

※講演番号は，トピックセッション（T），レギュラーセッション（R），国際ワークショップ（W），アウトリーチセッション（OR）のそれぞれに，ポスター（P）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています.
※講演要旨とプログラムとで発表題目や氏名が異なっている場合，講演要旨を正しいものとします.　※太字は代表発表者です.

■９月15日（土）　コアタイム 12：30-13：50　学術交流会館

樹・工藤雄一郎・西本豊弘

R10-P-2
山口県下関市の梶栗浜遺跡消滅とイベント堆積物.　**市原季彦**・岡崎裕子・下山正一・濱崎真二

R10-P-3
1959年宮古島台風の高潮時によってもたらされたウォッシュオーバー堆積物の堆積構造の記載と堆積過程の復元.　**重野聖之**・石井正之・七山　太

R10-P-4
前進するファンデルタシステムによる陸棚斜面の埋積過程－長野県北部高府向斜の中新統・鮮新統－.　**関　めぐみ**・保柳康一・中嶋貴紀

R10-P-5
静岡県西部，鮮新－更新統掛川層群中部の反転タービダイトを利用した堆積盆の形状変化の解読.　**北堀建太**・酒井哲弥

R10-P-6
福山累層の堆積相および堆積環境の復元.　**塩飽悠馬**・鈴木茂之

R10-P-7
露頭データと地震探査断面の統合：房総半島更新統上総層群上部に発達するクリノフォームの実態解明.　**伊藤　慎**・中村圭助・高岡進一・布施雅也・浅尾一巳・伊藤谷生

R13. 付加体

R13-P-1
イライト結晶度における変成度からみた秩父帯と黒瀬川帯の関係.　**村上　周**・鎌田祥仁

R13-P-2
徳島県阿南市蒜石海岸に分布する秩父累帯南縁メランジュの地質構造.　**山下真司**・石田啓祐・鈴木茂之

R13-P-3
四国東部秩父累帯南帯付加体の微細変形構造.　**鈴木茂之**・石田啓祐・山下真司

R13-P-4
九州東部四万十付加体に記録された沈み込み・付加プロセス.
広瀬鉄平・斎藤　翼・氏家恒太郎

R17. 環境地質

R17-P-1
吸引濾過器と金属顕微鏡を用いた効果的な球状炭化粒子（化石燃料燃焼粒子）分析法.　**井上　淳**

R17-P-2
東アジア地域工業都市域の堆積物中のSCPｓ（化石燃料起源粒子）元素組成.　**百瀬あずさ**・井上　淳・北瀬（村上）晶子・奥平敬元・吉川周作

R17-P-3
東京都世田谷区～杉並区におけるボーリング柱状図を利用した地質モデルと地下水流動の検討.　**船引彩子**・竹村貴人・濱本昌一郎・小松登志子

R20. 第四紀地質

R20-P-1
北アルプスの高山帯における深成岩類の風化特性.　**内記慧**・原山　智

R20-P-2
濃尾平野臨海部鍋田における沖積層下部のテフラ分析（2）.
牧野内　猛・檀原　徹・堀　和明・野々垣　徹

R20-P-3
北海道東部の厚岸湾沿岸の厚岸コア（沖積層）の珪藻解析.
嵯峨山　積・重野聖之・七山　太・安藤寿男・内田康人

R20-P-4
過去2万年間の沖縄トラフ-南西諸島周辺の堆積速度変化.　**天野敦子**・板木拓也

R20-P-5
上町断層帯の最新活動と地形環境の変化.　**杉戸信彦**・近藤久雄

R20-P-6
周防灘豊前沖における完新世の海洋環境の変化.　**佐古恵美**・入月俊明・瀬戸浩二・岡田直之・廣瀬孝太郎

R20-P-7
新潟県三島郡出雲崎町に分布する更新統灰爪層・西山層における古環境.　**代永佑輔**・中澤理久・石田　桂

R20-P-8
群馬県北東部の丸沼湖底堆積物からみた過去約80年間の洪水記録.　**行木勝彦**・井内美郎・岩本直哉

R20-P-9
湖沼底質土壌中の球状炭化粒子から見た 東アジア地域の越境汚染史の検討.　**村井辰太朗**・佐藤亮介・北瀬（村上）晶子・香村一夫・吉川周作・山崎秀夫

R20-P-10
霞ヶ浦を構成する2湖沼（西浦・北浦）における過去500年間の環境変遷比較.　**畑中雄太**・納谷友規・天野一男

R20-P-11
ため池底質土壌に含まれる重金属元素と球状炭化粒子の分析からみた京葉臨海地域の大気汚染の履歴.　**吉野友美**・谷沢利典・香村一夫・山崎秀夫

R20-P-12
野尻湖湖水位変動史から推定される近未来の水収支と人間生活への影響.　**井内美郎**・中村祐貴・公文富士夫・井上卓彦・近藤洋一

R20-P-13
琵琶湖高島沖ボーリング試料中の生物源シリカ含有率から推定される過去約12万年間の高分解能古気候変動.　**根上裕成**・中西俊貴・喜岡新・井内美郎

R20-P-14
OSL法による活断層年代測定.　**神原悠里**・鴈沢好博

R20-P-15
琵琶湖高島沖コアの生物源シリカ濃度から見た過去約12～25万年における気候変動.　**村越貴之**・根上裕成・井内美郎

R20-P-16
石英のLM-OSL年代測定と装置開発.　**高橋智佳史**・鴈沢好博

R20-P-17
琵琶湖愛知川河口沖の表層堆積物.　**里口保文**・芳賀裕樹

R20-P-18
石英単粒子によるテフラのRTL年代測定.　**三浦知督**・鴈澤好博

※講演番号は，トピックセッション（T），レギュラーセッション（R），国際ワークショップ（W），アウトリーチセッション（OR）のそれぞれに，ポスター（P）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています.
※講演要旨とプログラムとで発表題目や氏名が異なっている場合，講演要旨を正しいものとします.　※太字は代表発表者です.

日本地質学会第119年学術大会（2012大阪）講演プログラム（ポスター）

■９月16日（日） コアタイム 13：00-14：20 学術交流会館（注意：アウトリーチセッションのみ，コアタイム・会場が異なります）

W. 国際ワークショップ「Geology of Japan」

W-P-1
Global tectonics and metallogeny of Japan. **Watanabe Y.**
W-P-2
Older accretionary units in Honshu and Shikoku islands, Japan. **Kojima S.**, Hayasaka Y., Hiroi Y., Matsuoka A., Sano H., Suzuki N., Takemura S., Tsujimori T., Uchino T.

T5. 沈み込み帯地震発生帯研究の新たな進展

T5-P-1
IODP Site C0019周辺における高分解能反射法地震探査と掘削データとの対比. **中村恭之**・Cook Becky・Conin Marianne・三浦誠一・高橋成実・小平秀一・Mori James・Chester Frederick・江口暢久・Toczko Sean・第343次航海乗船研究者一同
T5-P-2
IODP第343次研究航海（JFAST）で採取された間隙水試料の地球化学分析－予察的結果. **石川剛志**・Sample James・高井研・Mori James・Chester Frederick・江口暢久・Toczko Sean・Expedition 343乗船研究者一同
T5-P-3
東北沖日本海溝に沈み込む遠洋性粘土質堆積物の地震性高速すべり挙動. **澤井みち代**・廣瀬丈洋
T5-P-4
高速摩擦を考慮した東北地方太平洋沖地震発生サイクルモデルによる余効すべりの再現. **芝崎文一郎**・堤　昭人・氏家恒太郎・嶋本利彦
T5-P-5
付加体泥岩物質の中・高すべり速度における摩擦の過渡的なすべり強化現象について. **沖田正明**・堤　昭人
T5-P-6
沈み込み地震発生帯における断層すべりパラメータの推定とその系統化. **濱田洋平**・山口飛鳥・亀田　純・木村　学
T5-P-7
沈み込みプレート境界における堆積物のP波速度と間隙率の関係：熊野沖南海トラフの例. **山口実華**・橋本善孝
T5-P-8
陸上付加体にみる異なる変形構造についての応力・有効摩擦係数・流体圧の推定：四国四万十帯の例. **栄田美緒**・橋本善孝・山口実華
T5-P-9
台湾集集地震断層における小断層逆解析による応力と有効摩擦係数. **戸部航太**・橋本善孝・中屋太一・葉恩肇
T5-P-10
四万十付加体中の延岡衝上断層を貫くボーリングコアを用いたイライト結晶化度の解析. **福地里菜**・藤本光一郎・浜橋真理・山口飛鳥・木村　学・亀田　純・濱田洋平・橋本善孝・栄田美緒・比名祥子・北村有迅・齊藤実篤・水落幸広・長谷和則・明石孝行

T10. ジュラ系＋

T10-P-1
長野県塩尻南方地域に分布する美濃帯藪原層および奈良井層の地質. **内山雅貴**・松岡　篤
T10-P-2
富山県南部の中－上部ジュラ系手取層群桐谷層から産出した生痕化石*Teredolites*および*Thalassinoides* について. **平澤　聡**
T10-P-3
西南日本付加体に含まれる上部古生界放散虫チャートの年代分布. **伊藤　剛**・Feng Qinglai・松岡　篤

T11. 西南日本地体構造論の現代的問題点（市川浩一郎追悼セッション）

T11-P-1
中生界含放散虫層状チャート研究の展望. **堀　利栄**

R4. 変成岩とテクトニクス

R4-P-1
東南極リュツォ・ホルム岩体西部、アウストホブデ及びインホブデ地域の変成温度圧力経路の比較. **齋藤陽介**・角替敏昭
R4-P-2
Neoproterozoic orogens amalgamating East Gondwana：Did they cross each other？. **Satish-Kumar M.**・Hokada Tomokazu・Osanai Yasuhito・Owada Masaaki・Shiraishi Kazuyuki
R4-P-3
東南極セールロンダーネ山地ブラトニーパネ地域における反時計回りの温度圧力経路. **馬場壮太郎**・小山内康人・中野伸彦・大和田正明・堀江憲路・外田智千・足立達朗・豊島剛志
R4-P-4
Late-Tonian to early-Cryogenian apparent depositional ages for metacarbonate rocks from the Sør Rondane Mountains, East Antarctica. **Otsuji Naho**・Satish-Kumar M.・Atsushi Kamei・Noriyoshi Tsuchiya・Tetsuo Kawakami・Masahiro Ishikawa・Geoff Grantham
R4-P-5
東南極セールロンダーネ山地の南部～東部におけるジルコンのLA-ICP-MS U-Pb年代. **北野一平**・小山内康人・足立達朗・中野伸彦
R4-P-6
東南極 レイナー岩体におけるチャーノカイトの成因論. **半田玲奈**・加々島慎一
R4-P-7
東南極ナピア岩体バント島に産出するサフィリングラニュライトの温度圧力履歴. **清水恒子**・角替敏昭
R4-P-8
Metamorphic process recorded in pelitic gneisses in the Hanhohiyn Mountains, western part of Mongolia. **足立達朗**・小山内康人・中野伸彦・大和田正明・Satish-Kumar Madhusoodhan・Jargalan Sereenen・Boldbaatar Chimedtseye・米村和紘・吉本　紋
R4-P-9
ベトナム・ラオスの変成岩類に記憶されたSilurian-Ordovicianイベント. **中野伸彦**・小山内康人・足立達朗・Charushiri Punya・大和田正明
R4-P-10
タイ中・南部の花崗岩類および変成岩類のLA-ICP-MS U-Pbジルコン年代. **河上哲生**・東野文子・柚原雅樹・小山内康人・中野伸彦・米村和紘・CharusuriPunya・上久保寛・牧　賢志・平田岳史
R4-P-11
スリランカ中央部に産する“arrested”チャーノッカイトの内部組織. **山崎由貴子**・池田　剛・本吉洋一・廣井美邦・プレーム　バーナード
R4-P-12
太古代ダールワール岩体の片麻岩基盤に挟在される片岩帯の層序区分の再検討：SHRIMPジルコン年代による制約. **外田智千**・堀江憲路・Satish-Kumar M.・上野雄一郎・三島　郁・Nasheeth Abdulla・奥平敬元・白石和行

R6. 地域間層序対比と年代層序スケール

R6-P-1
中新統瑞浪層群と師崎層群に含まれる軽石のガラス組成. **古川邦之**・金丸龍夫
R6-P-2
関東平野中央部の地下更新統に挟在する海成層の対比－海洋酸素同位体ステージとの対応の検討－. **納谷友規**・植木岳雪・本郷美佐緒・水野清秀

R7. 海洋地質

R7-P-1
北部伊豆・小笠原弧ベヨネーズ海丘から採集された火山岩類の多様性. **吉田尊智**・岡村　聡・坂本　泉・足立佳子
R7-P-2
マリアナ南端部海域での海底地形・地質・岩石・熱水活動・鉱化作用調査－R/V T.トンプソン号TN273研究航海速報－. **石井輝秋**・Fernando Martinez・R. Stern・加藤泰浩・小原泰彦・Katherine Kelley他19名の乗船研究者
R7-P-3
鹿児島県薩摩硫黄島長浜湾の熱水活動に伴う，水酸化鉄チムニーについて. **倉冨　隆**・清川昌一・池原　実・後藤秀作・蓑和雄人・池上郁彦
R7-P-4
鹿児島県薩摩硫黄島長浜湾の鉄沈殿物の希土類元素組成：沈殿物と海水の比較. **蓑和雄人**・清川昌一・後藤秀作・伊藤孝・池原実・山口耕生・上芝卓也・池上郁彦・赤木右
R7-P-5
IODP Exp. 323 ベーリング海から掘削した海底堆積物に記録されたJaramillo正磁極亜期付近の古地磁気変動. 後閑友裕・**岡田　誠**・Steve Lund
R7-P-6
日本海盆東縁部におけるコンターライトの可能性. **片山**

※講演番号は，トピックセッション（T），レギュラーセッション（R），国際ワークショップ（W），アウトリーチセッション（OR）のそれぞれに，ポスター（P）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています.
※講演要旨とプログラムとで発表題目や氏名が異なっている場合，講演要旨を正しいものとします.　※太字は代表発表者です.

■９月16日（日）　コアタイム 13：00-14：20　学術交流会館（注意：アウトリーチセッションのみ，コアタイム・会場が異なります）

肇・井内美郎

R7-P-7
湖山池の水門開放（速報）：低塩分湖水の劇的高塩分化に伴った先駆的有孔虫の出現と湖水の動態．　**野村律夫**・池田翔太・辻本彰・森　明寛・九鬼貴弘・初田亜希子

R8．堆積物（岩）の起源・組織・組成

R8-P-1
北海道天塩中川地域，蝦夷層群における上部白亜系砕屑性重鉱物の化学組成．　西尾真由子・**吉田孝紀**

R8-P-2
神奈川県中央部，鮮新－更新統中津層群の砂岩礫のモード組成．　**河尻清和**

R8-P-3
南部北上帯と飛騨帯のジュラ系～下部白亜系砕屑岩の化学組成からみたアジア大陸東縁の後背地変動．　**志賀由佳**・足立佳子・吉田孝紀

R8-P-4
地球化学的にみたパレオテチス沈み込み帯における砂岩の後背地：タイ北部の例．　**國井美幸**・原英俊・足立佳子・久田健一郎・チャルシリパンヤ

R10．堆積相・堆積過程

R10-P-8
長崎県西海市に分布する漸新統七釜砂岩層に認められる石灰藻球砂岩の堆積環境．　**石原与四郎**・境宏樹・藤川将之・吉村和久・山下幸一

R10-P-9
貝化石密集層の形成と堆積シーケンス－掛川層群上部層を例に－．　**柴　正博**・石川智美・横山謙二・田辺積

R10-P-10
和歌山県四万十帯サラシ首層の層序と構造　－泥火山の可能性－．　**潮崎翔一**・宮田雄一郎

R10-P-11
縞状珪藻土層にみられた11年周期　－大分県更新統野上層－．
宮田雄一郎・須崎精一郎

R10-P-12
海洋起源有機物の安定炭素同位体比曲線を利用した年代決定および岩相の対比－IODPニュージーランド沖陸棚斜面上のU1352Bコアを例にして－．　**小林由季**・古藤　尚・保柳康一

R10-P-13
偽礫の定置様式からみたタービダイトに伴うデブライトの起源．　**蟹井猛宏**・宮田雄一郎

R10-P-14
セディメントウェーブ上を流れる重力流の堆積過程：宮崎層群青島層の例．　**瀧井喜和子**・石原与四郎

R10-P-15
京都南部，木津川の高水敷にできた砂床ベッドフォーム群の配列．　**坂本隆彦**・谷口圭輔・伊藤有加・増田富士雄

R10-P-16
礫浜海岸地形の形成実験：その内部構造と粒度ギャップ．　**仁井谷　覚**・増田富士雄

R10-P-17
反砂堆の形態の多様性－特に波高：波長比について－．　**前島　渉**・小川尚真

R17．環境地質

R17-P-4
東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴い放出された放射性物質の土壌中深度方向の分布状況に関する調査研究．　**青木和弘**・佐藤治夫・新里忠史・天野健治・田中真悟・阿部寛信・中司　昇

R17-P-5
福島県除染推進活動に関する平成23年度の専門家活動について－仮置場の設置に係る原子力機構の支援対応－．　**阿部寛信**・池田幸喜・見掛信一郎・永崎靖志・新里忠史・浅妻新一郎，ほか 福島環境安全センター除染推進専門家チーム15名

R17-P-6
平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震に伴う温泉湧出異常と誘発地震の地質学的意義．　**川辺孝幸**・中野啓二

R17-P-7
2011年東北地方太平洋沖地震後の千葉県九十九里浜におけるCH_4湧出範囲および砂浜地形の変化．　**吉田　剛**・風岡　修・楠田　隆・香川　淳・古野邦雄・酒井　豊・木村満男

R18．応用地質学一般およびノンテクトニック構造

R18-P-1
干渉SAR解析と斜面ベクトル解析による広域ハザードモニタリングの可能性について．　**中村貴子**・六川修一

R18-P-2
三浦半島に分布する下部更新統斜面堆積物（上総層群野島層）における海底地すべり構造．　**野崎　篤**・楠　稚枝・間嶋隆一

R18-P-3
瀬戸内火山帯の火山岩のγ線量率．　**上島昌晃**

R18-P-4
コンクリートの風化作用を伴うゲル状物質の生成　－アルカリシリカゲルと非アルカリシリカゲルの共存－．　**米島真由子**・加藤孝幸・佐々木克久

R18-P-5
二重管式固定軸サンプリング法について．　**村田誠一**・東邦地下工機株式会社

R19．地学教育・地学史

R19-P-1
高校生による「丹沢たんけんマップ」作り　－SPPを活用した学校設定科目（夏期集中講座）実践報告－．　**小尾　靖**・桑島隼・門田真人・蛯子貞二・矢島道子・南里翔平

R19-P-2
学校の石材が語る地域地質および地域産業－九州地方の例－．
大木淳一

R19-P-3
地学教養教育としての放射線測定．　**田中　剛**・竹内　誠・片岡達也

R19-P-4
地学教科書における続成作用の記述と砂岩の続成作用を教えるための氷塊を使った実験．　**廣木義久**

R19-P-5
能力のある高校生に対して行う宇宙地球科学セミナーの実践報告．　**川村教一**

R19-P-6
1877（明治10）年８月B.S.Lyman宛感謝状．　**金　光男**

R19-P-7
第三紀ハンマー：歴史と再生．　**辻野　匠**・柳沢幸夫・徳橋秀一

OR．アウトリーチセッション

コアタイム　13：30-14：30, 17：00-18：00
会場　Ｕホールエントランスロビー

OR-P-1
堆積平野の基盤構造．　**高橋雅紀**

OR-P-2
日本列島の成り立ちから見た関東平野の基盤構造．　**高橋雅紀**

OR-P-3
松葉ガニと但馬牛－山陰海岸ジオパークの地質的背景が生み出した食の名品．　**先山　徹**・松原典孝

OR-P-4
二上山の岩石は1500万年前の火山活動によってできた：年代と古地磁気の測定から．　**星　博幸**

OR-P-5
Androidを利用した海洋コア試料のデジタルイメージングサービス．　**久光敏夫**・山際伸一

OR-P-6
2011年度地質の日企画「パシュクル沼に潜む巨大津波痕跡と化石カキ礁の秘密」の企画と実践．　**重野聖之**・石井正之・七山太・小久保慶一・山代淳一・近藤康生・松島義章・横山芳春・上原　亮・安藤寿男

OR-P-7
鹿児島大学総合研究博物館による特別展「錦江湾奥の自然と人とのかかわり」に向けて．　**内村公大**・鹿野和彦・福元しげ子・大木公彦

OR-P-8
東日本大震災における震災復興・日本再生支援事業（熊本大学・国立大学協会共催）の紹介．　**秋元和實**・滝川　清・谷口　功

OR-P-9
地学を楽しく学ぶ：日本地質学会e-bookの発行．　**吉田　勝**・天野一男・中井　均

OR-P-10
ヒマラヤの地学巡検とガイドブック．　**吉田　勝**・ウプレティ B.N.・ライ S.M.

OR-P-11
学生・教員・企業新人対象のヒマラヤ野外実習プログラム．**酒井哲弥**・吉田　勝・在田一則

※講演番号は，トピックセッション（T），レギュラーセッション（R），国際ワークショップ（W），アウトリーチセッション（OR）のそれぞれに，ポスター（P）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています．
※講演要旨とプログラムとで発表題目や氏名が異なっている場合，講演要旨を正しいものとします．　※太字は代表発表者です．

日本地質学会第119年学術大会（2012大阪）講演プログラム（ポスター）

■９月17日（月）　コアタイム 13：00-14：20　学術交流会館

T1. 地質情報の利活用

T1-P-1
地質観光情報の開発と地域振興への活用の試み.　**澤畑優理恵**・池戸熙邦・石川なつみ・菊田亮太・伊佐幸文・小畑大樹・土屋沙亜武・畑中雄太・古川陽平・細井　淳

T1-P-2
インターネット配信に適した地質用語解説の作成.　**井川敏恵**・西岡芳晴・吉川敏之

T3. 地層処分と地球科学

T3-P-1
北海道幌延地域に分布する堆積軟岩における坑道掘削に伴う割れ目の特徴.　**常盤哲也**・津坂仁和・松原　誠・石川泰己・小川大介

T3-P-2
山口県岩国断層の地球化学的特徴.　**亀井淳志**・渡邊慎吾・岩田智加・宮下由香里・間中光雄・伊藤順一・福士圭介・小林健太・渡部芳夫

T4. 地球史イベント大事件７

T4-P-1
32億年前デキソンアイランド層における黒色チャート脈の分布とその方向性.　**相原悠平**・坂本亮・清川昌一

T4-P-2
太古代縞状鉄鉱層のバンドの厚さの不規則性とその成因.
勝田長貴・清水以知子・高野雅夫・川上紳一・Helmstaedt H. H.・熊澤峰夫

T7. ジルコン学

T7-P-1
U-Pb年代測定に適したジルコン部位.　**竹原真美**・堀江憲路・外田智千・海田博司・清川昌一

T7-P-2
ジルコンのU-Pb年代を用いた阿武隈花崗岩類の新期-古期貫入関係の再検討.　**昆　慶明**・高木哲一

T7-P-3
天草陶石鉱床の熱水変質作用とジルコンの放射年代.　**大平寛人**・三浦千佳・田村明弘・荒井章司・武内浩一・田口幸洋

T7-P-4
ジルコンから読み取る沈み込み帯深部の部分融解過程.　**荒川　幸**・岡本和明・Yi Keewook・寺林　優

T7-P-5
吉備高原アルカリ玄武岩中の捕獲岩から推定される西南日本下部地殻の構造と発達過程.　**井形瑛梨**・岩森　光

T7-P-6
英国ウェールズ州スリン半島のマリノアン全球凍結に関連した深海堆積物の報告.　**岡田吉弘**・山本伸次・Windley Brian F.・下条政徳・斉藤拓也・藤崎　渉・牧　賢志・平田岳史・丸山茂徳

R1. 深成岩・火山岩とマグマプロセス

R1-P-1
キンバーライトかんらん岩捕獲岩の構造岩石学的特徴.　**木野雅史**・道林克禎・片山郁夫・小宮　剛

R1-P-2
白亜紀後期大雨見山層群（岐阜県飛騨地域）中の苦鉄質火山岩の岩石学的性質.　**池田知也**・原山　智

R1-P-3
北部フォッサマグナ，聖山火山岩類の地質・岩石学的特徴.
笹沼貴弘・山元正継

R1-P-4
羽越地域北部に分布する中粒角閃石黒雲母花崗閃緑岩の記載岩石学的多様性とマグマプロセス.　**加藤涼介**・加々島慎一

R1-P-5
岐阜県南部，白川町新津北方に分布する濃飛流紋岩中の鉱物組み合わせと本質レンズの多様性.　**天藤寛子**・原山　智

R1-P-6
西南北海道奥尻島，米岡層火砕岩の岩石学的特徴.　**久谷航平**・山元正継

R1-P-7
山陰帯島根県奥出雲地域に分布する阿毘縁花崗閃緑岩の火成活動と結晶分化作用.　**岩田智加**・亀井淳志・岩田克彦・柴田知之

R1-P-8
北部九州東部に分布する添田花崗閃緑岩のRb-Sr全岩-鉱物アイソクロン年代.　**柚原雅樹**・亀井淳志・岡野　修・川野良信・加々美寛雄

R1-P-9
シート状岩脈群・上部ガブロに貫入される超苦鉄質岩体：オマーンオフィオライト北部における新知見.　**金子　龍**・足立佳子・宮下純夫

R1-P-10
カソードルミネッセンスを用いたジルコンの柱面における結晶成長観察.　**土屋裕太**・能美洋介・鹿山雅裕・西戸裕嗣

R1-P-11
紀伊半島に分布する中期中新世凝灰岩類の全岩化学組成による比較.　**原川朋矢**・壷井基裕・古川邦之・金丸龍夫

R1-P-12
西南日本金剛山地に分布するアダカイト質花崗岩の地球化学的特徴.　**竹村建人**・壷井基裕

R1-P-13
オマーンオフィオライト北部スヘイラ地域における斜長花崗岩の研究.　**吉田開祐**・宮下純夫

R1-P-14
笠ヶ岳コールドロン北縁地域に産する鉄カンラン石について.
小池祐貴・原山　智

R1-P-15
日高変成帯，37Maの火成活動の起源マグマ：音調津深成岩類のSr・Nd同位体比組成.　**小島　萌**・大橋美由希・志村俊昭

R1-P-16
熊野酸性岩類の希土類元素パターンとFe_2O_3/FeO比.　**角　拓也**・壷井基裕・古川邦之・金丸龍夫

R1-P-17
沼沢火山BC3400沼沢湖噴火で噴出した４種類の本質軽石：カルデラ形成噴火を起こしたデイサイト質マグマ溜り内部の不均質性.　**増渕佳子**・石崎泰男

R1-P-18
日本海に産する中新世背弧海盆玄武岩のHf同位体比組成.　**平原由香**・仙田量子・常青・宮崎隆・高橋俊郎・木村純一

R4. 変成岩とテクトニクス

R4-P-13
East Pilbara, Mt Edger花崗岩複合岩体周辺に産するメタチャート中の電気石を用いた古差応力解析.　**松村太郎次郎**・木村希生・岡本　敦・増田俊明

R4-P-14
非変形olivineのCPO形成メカニズム　～antigorite→olivine反応におけるtopotaxy～.　**永冶方敬**・ウォリス　サイモン・小林広明・道林克禎・水上知行

R4-P-15
アンチゴライト蛇紋岩のLPO.　**曽田祐介**・森下知晃・Wenk Hans-Rudolf

R4-P-16
マイクロブーディン解析による主応力軸方向の検証.　**西脇伸**・大森康智・木村希生・岡本　敦・佐津川貴子・道林克禎・増田俊明

R4-P-17
スピニフェックス様組織を示すカンラン岩の多様性とその形成条件.　**恵口　響**・潮崎　大・西山忠男

R4-P-18
西彼杵変成岩類におけるクロリトイドの産出とその意義.　**森部陽介**・西山忠男

R4-P-19
八幡浜大島に分布する大島変成岩類の年代論.　**小山内康人**・中野伸彦・足立達朗・北野一平・米村和紘・吉本　紋・小松正幸

R4-P-20
四国別子地域三波川帯のエクロジャイトユニット境界：銅山川沿いの変泥質岩中のざくろ石の特徴の変化.　**纐纈佑衣**・榎並正樹・東野外志男

R4-P-21
四国中央部三波川変成帯の温度構造の再検討　－汗見川流域の例－.　**梅田隼人**・田口知樹・榎並正樹

R4-P-22
三波川帯・西五良津岩体の変成かんらん石斜方輝岩：高温沈み込み帯のスラブ-ウェッジマントル境界岩相.　**遠藤俊祐**

R4-P-23
関東山地三波川帯のユニット境界構造と年代値：埼玉県長瀞町本野上露頭の解析.　**新井宏嘉**・宮下　敦・高木秀雄・八木公史・板谷徹丸

R4-P-24
鹿塩マイロナイトの放散虫化石とその地質学的意味.　**小野　晃**

※講演番号は，トピックセッション（T），レギュラーセッション（R），国際ワークショップ（W），アウトリーチセッション（OR）のそれぞれに，ポスター（P）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています.
※講演要旨とプログラムとで発表題目や氏名が異なっている場合，講演要旨を正しいものとします.　※太字は代表発表者です.

■９月17日（月）　コアタイム 13：00-14：20　学術交流会館

R4-P-25
室戸岬斑れい岩体の貫入熱モデリング．　**森　宏**・ウォリス サイモン・森　なつみ・カリッキ ルーカ・アナン カトリーナ
R4-P-26
炭質物の石墨化におけるタイムスケールの検証．　**森　なつみ**・Wallis Simon・森　宏
R4-P-27
連続反応によるコロナ構造形成の定性的モデル．　**池田　剛**

R9. 炭酸塩岩の起源と地球環境

R9-P-1
北中国山東省の中部カンブリア系微生物炭酸塩岩（スロンボライト）の諸特性．　**小谷綾香**・江崎洋一・足立奈津子・劉　建波
R9-P-2
秋吉帯石炭－ペルム紀石灰石鉱床におけるリンの偏在．　**坂田健太郎**・中澤　努・岡井貴司・上野勝美
R9-P-3
中国湖北省崇陽地域におけるペルム紀末生物大量絶滅事変直後の微生物岩の組織変化と海洋環境の変動．　**淺田雄哉**・江崎洋一・足立奈津子・劉　建波
R9-P-4
タイ国北部，三畳系Doi Long層（Lampang層群）の有孔虫年代と堆積環境．　**宮東　照**・上野勝美・Charoentitirat Thasinee・鎌田祥仁
R9-P-5
高知県大月町の造礁サンゴの形態と生産．　**会田美佳**・中森　亨

R12. 岩石・鉱物の破壊と変形

R12-P-1
沈み込み直前の堆積物と玄武岩の高圧下熱伝導率測定．　**多田井　修**・林　為人・廣瀬丈洋・谷川　亘・松林　修・向吉秀樹
R12-P-2
ドレライトガウジの非晶質化と摩擦特性に対する影響．　**和田純一**・野田博之・岡崎啓史・安東淳一・金川久一・井上厚行・廣瀬丈洋・片山郁夫
R12-P-3
変形速度変化に応じた摩擦強度の遷移挙動にみる摩擦と流動変形の混在．　**高橋美紀**

R14. テクトニクス

R14-P-1
アナログモデル実験を用いた地質発達モデルによる隆起量の定量的推定の試み－北海道北部幌延地域の事例－．　**松崎達二**・常盤哲也・中務真志・山田泰広・赤嶺辰之介・天野健治・新里忠史
R14-P-2
長野県北部地震の地殻変動と栄・津南-松之山地域の地震テクトニクス．　**伊藤優花**・竹内　章
R14-P-3
九州北半部三郡変成岩類の原岩年代の拘束と2回の褶曲形成．**高地吉一**・大藤　茂・小原北士・藤本辰弥・折橋裕二・春田泰宏・山本鋼志
R14-P-4
東北日本及び西南日本内・外帯の砕屑性ジルコン年代分布の比較検討（予報）．　**大藤　茂**・大川泰幸・川越雄太・横川実和・森田祥子・小原北士・高地吉一・藤本辰弥・金光玄樹・下條将徳・折橋裕二
R14-P-5
秋吉帯・舞鶴帯・周防帯・丹波帯からのジルコン年代データ．**小原北士**・大藤　茂・高地吉一・藤本辰弥・折橋裕二
R14-P-6
南部フォッサマグナ，糸静線-富士川河口断層帯間断層群の断層岩解析に基づく運動センス解明．　**野崎謙治**・狩野謙一・池田安隆・加藤　潔・山北　聡・大橋聖和・伊藤谷生
R14-P-7
走査型電子顕微鏡（SEM）を用いた断層破砕帯の定方位試料の微細組織観察．　**亀高正男**・島田耕史・中山一彦・瀬下和芳・田中義浩・林　俊夫・下釜耕太・岡崎和彦
R14-P-8
二次元バランス断面から歪み楕円を推定．　**山路　敦**
R14-P-9
Paleostress Analysis by Fault-Slip and Calcite Twin Data in the East Walanae Fault Zone, South Sulawesi, Indonesia.　**Asri Jaya**・Osamu Nishikawa
R14-P-10
徳之島西部秋利神地域の泥質・砂質変成岩中のシュードタキライト様貫入岩．　**上田脩郎**・山本啓司・寺林　優

R15. 古生物

R15-P-1
島根県松江市中部中新統布志名層から産出したヒゲクジラ化石および共産する化石群集．　**松浦康隆**・入月俊明・河野重範
R15-P-2
モンゴルゴビ砂漠産タルボサウルスの趾骨に残された成長線とその鉱物学的特徴（予報）．　庄司雄騎・渡部真人・**実吉玄貴**・西戸裕嗣・Tsogtbaatar Khishigjav
R15-P-3
北海道各地域に分布する上部白亜系上部蝦夷層群の炭素同位体比曲線とイノセラムス化石帯．　**本田豊也**・平野弘道
R15-P-4
伊豆半島今井浜の白浜層群産軟体動物化石群集．　**田口公則**・冨田　進・井上恵介・門田真人
R15-P-5
楕円フーリエ解析を用いた現生および化石*Ruditapes*属の形態解析と進化的変遷の予察的考察．　**有馬達也**・林　誠司
R15-P-6
非造礁性六射サンゴにおける出芽による無性増殖様式と群体形成．　**千徳明日香**・江崎洋一・後藤慎介・徳田悠希
R15-P-7
黒瀬川帯横倉山地域中畑層におけるInaniguttidae科放散虫化石．　**栗原敏之**・遠藤龍馬
R15-P-8
紀伊半島の四万十累帯上部白亜系，美山層の放散虫化石群集．**山本俊哉**
R15-P-9
南大西洋の中期始新世-前期中新世にみられる石灰質ナンノ化石の変化と表層古環境変遷．　**上ノ山晴貴**・亀尾浩司
R15-P-10
東部赤道太平洋海域，IODP site U1338における中期中新世から更新世の底生有孔虫群集．　**辻本　彰**・野村律夫・高田裕行・木元克典
R15-P-11
新潟県西山層，灰爪層中にみられる貝形虫化石の殻サイズについて．　**田中清明**・石田　桂
R15-P-12
ニュージーランドカンタベリー堆積盆地における鮮新－更新統の貝形虫化石群集を用いた古水深変動の復元．　**中村めぐみ**・楠　慧子・石田　桂・保柳康一
R15-P-13
三次元幾何形態解析による浮遊性有孔虫室房形態の定量的比較．　**伊藤　光**・佐々木　理・長濱裕幸

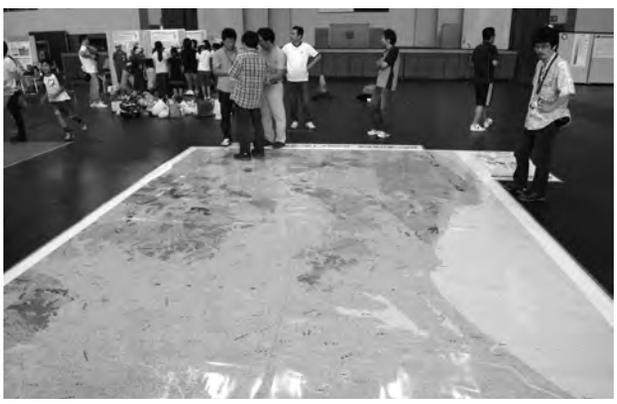
R16. 情報地質

R16-P-1
地層名検索データベースの最新版．　**巌谷敏光**・鹿野和彦・斎藤　眞
R16-P-2
シームレス地質図3Dの開発．　**西岡芳晴**
R16-P-3
スレッド並列を用いた地質データ補間システムの開発．　**野々垣　進**・根本達也・升本眞二
R16-P-4
マルコフ確率場を用いた地質情報抽出：観測画像からの不連続構造推定．　**桑谷　立**・永田賢二・岡田真人・鳥海光弘
R16-P-5
地質環境調査における意思決定過程と論理構造の表出化．　**新里忠史**・大澤英昭・石丸恒存・道家涼介・中安昭夫
R16-P-6
宮崎県大崩山花崗岩体のジルコン結晶形の数値記載．　**能美洋介**・北川龍志

※講演番号は，トピックセッション（T），レギュラーセッション（R），国際ワークショップ（W），アウトリーチセッション（OR）のそれぞれに，ポスター（P）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています．
※講演要旨とプログラムとで発表題目や氏名が異なっている場合，講演要旨を正しいものとします．　※太字は代表発表者です．

■ 関 連 行 事 ■

地質情報展 2012 おおさか
過去から学ぼう大地のしくみ



日程：**2012年 9 月15日（土）～17日（月）**
　　9 月15日（土）　13：00～17：00
　　9 月16日（日）　 9 ：30～17：00
　　9 月17日（月）　 9 ：30～16：00

会場：大阪市立自然史博物館・花と緑と自然の情報センター
　入場無料．ただし自然史博物館（常設展・特別展）・長居植物園へ入場される場合は，別途入場料が必要となります．

主催：一般社団法人日本地質学会・産業技術総合研究所地質調査総合センター・大阪市立自然史博物館

後援：大阪市教育委員会，堺市教育委員会，大阪府，大阪市，堺市，NHK大阪放送局，毎日新聞社，朝日新聞社，読売新聞大阪本社，一般社団法人全国地質調査業協会連合会，関西地質調査業協会，日本ジオパークネットワーク

内容：大阪大会に合わせ，地質調査総合センターが有する各種地質情報から，大阪府及び周辺の地質現象や地震・津波・地盤災害の起こるしくみについて展示パネルや映像を使って紹介します．また，小さなお子さんにも楽しく地学を学んでもらうために石割や化石レプリカなどの体験学習コーナーを用意します．

展示テーマ：大阪の地質，地震と津波，復興支援，再生可能エネルギー，ジオパークほか．

体験コーナー：液状化実験，津波発生実験，地盤の違いによる地震の揺れ実験，石割体験，化石レプリカ作り，鳴り砂ほか．

地質学会関連の展示

・地学オリンピック
・惑星地球フォトコンテンスト入賞作品

　第３回惑星地球フォトコンテストの入賞作品を展示します．地質の視点で切り取った地球のすばらしい姿を，この機会に是非ご堪能ください．

詳しくは，
　http://www.gsj.jp/event/2012fy-event/osaka2012/index.html

問合せ先：産業技術総合研究所地質調査総合センター
　渡辺真人・今西和俊　TEL：029-861-3836
　e-mail：johoten2012.jimu-ml@m.aist.go.jp

市民講演会「地震・津波・地盤災害
～知ること，伝えること～」

大阪府立大学創基130年記念事業

後援：大阪市教育委員会，堺市教育委員会，大阪府，大阪市，堺市，NHK大阪放送局，毎日新聞社，朝日新聞社，読売新聞大阪本社，一般社団法人全国地質調査業協会連合会，関西地質調査業協会

日時　**2012年 9 月16日（日）**　14：30～17：00　入場無料
会場　大阪府立大学中百舌鳥キャンパスUホール白鷺

　昨年３月の東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）は甚大な被害をもたらすとともに，防災対策の早急な見直しを迫るなど，社会的にも大きな影響を及ぼしています．本講演会では，東日本大震災以後の状況をふまえ，西南日本とくに近畿地方を中心に海溝型地震と津波，内陸地震，および地盤災害について，以下の３名の講師の方々に最新の科学的知見を含めて分かりやすく解説していただきます．

　金田義行「将来の地震津波災害にどう備えるか　～過去の巨大地震大津波からの教訓～」
　飯尾能久「内陸地震はどうして起こるのか？」
　三田村宗樹「近畿の地盤特性と地震時の挙動」

詳しくは，
　http://www.osakafu-u.ac.jp/event/2012/ 20120916.html
問い合わせ先；石井和彦
　（tel；072-254-9729，email；ishii@p.s.osakafu-u.ac.jp）

【訂正】市民講演会問い合わせ電話番号

すでに配布済みの大阪大会市民講演会のポスター・チラシの問い合わせ先（電話番号）が間違っておりました．正しくは下記の通りですので，よろしくお願い申し上げます．関係者の皆様に多大なご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます．

（正）Tel　072-254-9729

小さな Earth Scientist のつどい～第 10 回 小，中，高校生徒「地学研究」発表会～

後援：大阪市教育委員会，堺市教育委員会，大阪府，大阪市，堺市，NHK大阪放送局，毎日新聞社，朝日新聞社，読売新聞大阪本社，一般社団法人全国地質調査業協会連合会，関西地質調査業協会

日本地質学会地学教育委員会では，地学普及行事の一環として，地学教育の普及と振興を図ることを目的として，学校における地学研究を紹介する「地学研究」発表会をおこなっています．大阪大会でも，小・中・高等学校の地学クラブの活動，および授業の中で児童・生徒が行った研究の発表を募集いたします．大阪府内，また関西地方の学校，さらには全国の学校の参加をお待ちしています．会場は研究者も発表するポスター会場内に，特設コーナーを用意いたします．同時並行で研究者の発表も行われますので，児童・生徒同士のみならず，研究者との交流もできます．この会を通じて生徒，研究者，市民の交流が進み，地質学，地球科学への理解が深まって，未来を担う生徒たちの学習意欲への良い刺激と励みになることを願っております．

日時　**2012年 9 月16日（日）** 9：00～15：30
場所　大阪大会ポスター会場（大阪府立大学学術交流会館）
参加予定校（7 月18日現在，12校，15件）
高校（10校）
・兵庫県立加古川東高等学校地学部（3 件）
・（香川県）高松第一高等学校
・滋賀県立彦根東高等学校
・大阪府立岸和田高等学校天体部（2 件）
・大阪府立清水谷高等学校自然科学部
・大阪府立港高等学校パソコン同好会理科班
・大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎
・大阪府立堺東高校地学部
・城星学園高等学校理科部
・私立水戸葵陵高等学校
・早稲田大学高等学院理科部地学班
中学（2 校）
・大阪市立新北島中学校科学部
・栃木県那須烏山市立下江川中学校特設科学部

問い合わせ・申し込み先：
日本地質学会地学教育委員会（担当　三次）
TEL：03-5823-1150　　FAX：03-5823-1156
e-mail：main@geosociety.jp

就職支援プログラム

日本地質学会第119年学術大会開催期間中の 9 月16日に表記「就職支援プログラム」を開催することになりました．

本プログラムは，学会に参加される学生・院生および大学教員の会員，ならびに大阪府立大学等の学生・院生・関係者らを対象に，本会賛助会員をはじめとする関連業界との情報交換を行う場を提供しようというものです．つきましては，ぜひご参加いただきますようご案内をいたします．

日程：**2012年 9 月16日（日）** 14：30～18：00
場所：大阪府立大学B 3 棟 3 F　301～303
主催：一般社団法人日本地質学会
内容：主催者等　挨拶・紹介，参加各社による数分のプレゼンテーション，参加各社の個別説明会（パネル，配布資料等をご用意ください）
対象：大阪大会に参加する学生・院生および大学教員等の会員・大阪府立大学等の学生・院生および教員等
参加費　無料

出展予定企業（敬称略：8 月 9 日現在）
・石油資源開発株式会社
・川崎地質株式会社
・太平洋セメント株式会社
・株式会社ダイヤコンサルタント
・ジーエスアイ株式会社
・株式会社地圏総合コンサルタント

問い合わせ先：
日本地質学会　理事　山本高司/事務局　堀内昭子
電話：03-5823-1150　　FAX：03-5823-1156
e-mail：main@geosociety.jp

国際ワークショップ：The Geology of Japan

日本列島の地質をテーマとした書籍はこれまで多数出版されていますが，それらの多くは日本語で書かれています．海外への情報発信のためには最新研究成果を含む英語版書籍の出版が必要不可欠ですが，この20年間出版されていない状況です．この空白域を埋めるために，このたびイギリス地質学会が出版する「The Geology of Japan」と題する書籍に日本地質学会が執筆やワークショップ開催等を通じて協力する運びとなりました．これは，日本列島を地域あるいは地質帯で区分し，それぞれの地質概説と形成モデルを簡潔にまとめるとともに，主要露頭や日本の地質を紹介する巡検コース案内から構成される予定です．出版計画の主旨を会員に理解していただくとともに，会員からのコメントを参考にして書籍に収録する内容を充実させるために，大阪大会において学会主催の国際ワークショップを開催します．海外研究者の出席も予定しているため，本ワークショップの使用言語は英語となります．また，本大会来賓の大韓地質学会副会長による特別講演も予定しています．

【世話人】ウォリス サイモン（名大），石渡 明（東北大），平 朝彦（JAMSTEC），小島知子（熊本大）
【開催日時】**2012年 9 月16日（日）**14：30～18：25
【会場】B 3 棟 1 階，第 3 会場

※発表の詳細は，プログラムをご参照ください．

理科・地学教科書展示解説

みなさん，地学の教科書が変わったことをご存知ですか？：新旧の地学教科書・理科教科書を展示します

学習指導要領の改訂（小学校・中学校は2008年，高等学校は2009年）をうけて，小学校の理科教科書は2011年，中学校・高等学校の理科教科書は本年度（2012年）から新しくなりました．このような動きに合わせ，今年の大阪大会ではトピックセッション「新学習指導要領の実施で地学教育はどのように変わるか？」が行われます．このトピックセッション企画に連動して，小・中学校の新旧の理科教科書，高等学校の新旧の地学教科書や実習帳を展示します．日頃，このような教科書・実習帳を見る機会は少ないと思いますので，ぜひご覧いただければと存じます．

展示期間：**2012年 9 月15日（土）～17日（月）**
場所：大阪大会ポスター会場（大阪府立大学学術交流会館）
展示資料：
・小学校の新旧理科教科書（数社）
・中学校の新旧理科教科書（数社）
・高等学校の新課程「地学基礎」の教科書（全社）
・高等学校の旧課程「地学Ⅰ」・「地学Ⅱ」の教科書（数社）
・高等学校の地学実習帳（埼玉・大阪など）

日本地質学会地学教育委員会

学術大会の改革：オープンディスカッション

日時：**2012年９月17日（月）**18：00～19：30
会場：Ｂ３教育棟２階，第５会場

大阪大会の発表申込件数は岡山大会（2009年），富山大会（2010年）とほぼ同程度ですが（2011年水戸大会は日本鉱物科学会との共催），発表者実数は減少しています（昨年大会から発表負担金を支払うことによりセッションで2件発表可能になっているため）．学会員数の漸減傾向が続いていることが発表者数の減少の理由として大きいと推察していますが，それ以外の理由もあるかもしれません．例えば，レギュラー・トピック合わせて例年30以上のセッションを用意していますが，それらは現代の地質学を十分にカバーしているでしょうか？魅力的でしょうか？

より多くの会員に「日本地質学会の会員として，学術大会に参加したい，発表したい」と思われる学術大会にしたいと行事委員会は考えています．それが会員の研究活動の活性化につながり，ひいては本学会の活性化と地質学のますますの発展につながるはずと考えます．セッション構成，参加費，院生・ポスドク等の若手やシニアの活躍・交流の場の創設など，さまざまな観点から検討する必要があると考えています．

行事委員会は，今年度中に学術大会の改革案（ブループリント）を作成する予定です．それにむけて，会員の皆様からアイディアや他学協会等の情報を頂き，自由闊達な意見交換をしたいと考え，どなたでも参加できるオープンディスカッションの機会を設けます．

行事委員長が考える「目指したい方向性」は３つあります．

１）「地質学会の学術大会で面白い（または重要な）セッションをやっている，参加したい，あそこで発表したい，参加者と交流したい」と思われるようなセッションを複数立てたい．
２）入会した院生やポスドクが企業等に就職した後も「参加したい」と思うような学術大会にしたい．
３）職場をリタイアしたが「後続のために，市民のために，学会のために，地質学の発展のために何かしたい」と思っているベテランが活躍できる場をつくりたい．シニアも参加しやすい大会にしたい．

大会最終日の夜間ですが，本学会を愛する皆様の積極的なご参加をお待ちしております．

＜問い合わせ先＞
日本地質学会行事委員長　星　博幸
（TEL：0566-26-2656，hoshi@auecc.aichi-edu.ac.jp）

東日本大震災復旧復興にかかわる調査・研究事業報告

日時：**2012年９月15日（土）～17日（月）**
場所：大阪大会ポスター会場（大阪府立大学学術交流会館）

一般社団法人日本地質学会は社会貢献事業の一環として，2011年３月11日に発生した東日本大震災に関する学術的な復旧・復興事業を会員から公募し，2011年度に下記の６件が採択され，調査・研究が実施されました．すでにニュース誌で標本レスキュー関係の報告記事が掲載されていますが，大阪大会では，ポスター会場でその成果を毎日２件ずつ発表しますので，ぜひ訪れてください．なお，この復旧復興事業プランの公募は，2012年度も規模を縮小して継続しており，７月末段階で，２件の応募が届いています．

2011年度に採択された下の６件の調査・研究成果を，２件ずつ３日に分けて展示します．

９月15日（土）（除染関係）
・放射性セシウムに汚染された水田土壌のカヤツリグサ科マツバイによるファイトレメディエーション．榊原正幸・佐野　栄（本誌p. 12掲載）
・福島第一原子力発電所周辺の放射線量の測定方法と地質学的除染方法の検討．上砂正一（本誌p.８掲載）

９月16日（日）（標本レスキュー関係）
・歌津魚竜館大型標本レスキュー事業．永広昌之（News誌2012年３月号掲載）
・陸前高田市立博物館地質標本救済事業．大石雅之（News誌2012年５月号掲載）

９月17日（月）（応用地質学・環境地質学的視点からの液状化，除染関係）
・関東平野内陸部の住宅地での盛土材質の相違による液状化要因の解明．卜部厚志
・微生物による放射性物質の除洗の実証実験．高橋正則

日本地質学会理事会
東日本大震災復旧復興事業プランWG

※写真上：陸前高田市立博物館．下：歌津魚竜館の被災状況（標本レスキュー事業報告より）

日本地質学会*News*

Vol.15 No.8 August 2012

The Geological Society of Japan *News*
一般社団法人日本地質学会
〒101－0032　東京都千代田区岩本町２－８－15　井桁ビル ６F
編集委員長　内藤一樹
TEL　03－5823－1150　FAX　03－5823－1156
main@geosociety.jp（庶務一般）
journal@geosociety.jp（編集）
http://www.geosociety.jp

Contents

巻頭　日本地質学会第119年学術大会（2012大阪）プログラム ……（1）－（34）

ご案内 ……2
極域科学シンポジウム特別セッションのご案内/建設コンサルタンツ協会第４回 建コンフォト大賞募集/地球にわくわく小・中学生自由研究コンテスト/第2回学生のヒマラヤ野外実習ツアー参加者募集

公募 ……3
金沢大学理工研究域自然システム学系教員（テニュアトラック助教）公募/京都大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻地質学鉱物学教室教員（准教授）公募/山口大学大学院理工学研究科自然科学基盤系学域（地球科学分野）教員公募/広島大学大学院理学研究科地球惑星システム学専攻准教授選公募

各賞・研究助成 ……4
平成25年度笹川科学研究助成

紹介 ……5
『物質科学を学ぶための量子力学，解析力学，統計力学，電磁気学の基礎事項』シリーズ講義録　川邊岩夫著（田中　剛）/「おくのほそ道」を科学する　蟹澤聰史著（石渡　明）

CALENDAR ……7

復旧復興にかかる調査・研究事業報告 ……8
福島第一原発周辺の放射線量の測定方法と放射能地質汚染の研究（楡井　久・上砂正一ほか）
放射性セシウムに汚染された水田土壌のカヤツリグサ科マツバイによるファイトレメディエーション（榊原正幸･佐野　栄）

2011年度Island Arc編集委員会報告 ……15

支部コーナー ……16
関東支部：銚子巡検のお知らせ

会員特別割引販売：日本の地質構造100選

出版物在庫案内

表紙紹介：大地震両川口津波記

大阪市浪速区大正橋東詰.
大阪大会巡検J班「大阪の津波碑と地盤沈下対策」見学ポイント.

事務局営業カレンダー　お休み　＊印は振替休日

8月 August

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

9月 September

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23/30	24	25	26	27	28	29

印刷・製本：日本印刷株式会社　東京都文京区湯島３－20－12

ご案内

本会以外の学会および研究会・委員会からのご案内を掲載します．

極域科学シンポジウム特別セッションのご案内

「海・陸・氷床から探る後期新生代の南極寒冷圏環境変動」―第三回極域科学シンポジウム横断セッション―

国立極地研究所では，11月に開催の極域科学シンポジウムにおきまして，下記の特別セッションを企画しております．つきましては，関係する幅広い研究分野から参加・発表を募りますので，ご検討頂けますよう宜しくお願いします．

概要

地球システム変動において重要な役割を果たしている南極寒冷圏の環境変動，特に南極周極流・Gyreの発達と南極氷床変動の相互作用に関連する気候・氷床モデル，古環境学，海洋学など幅広い研究分野から発表を募ります．そして，これまでの研究成果を総括し，将来の掘削計画等を含む今後の研究の方向性を探ることを目的とします．

会期：平成24年11月26日（月）～27日（火）
会場：国立極地研究所および国立国語研究所
共催：JAMSTEC
発表申込および講演予稿集の原稿投稿期限：
9月28日（金）

※講演予稿集を含む本セッションの使用言語は全て英語となります．

問合せ先
菅沼悠介
国立極地研究所　地圏研究グループ
〒190-8518　東京都立川市緑町10-3
WEB：http://polaris.nipr.ac.jp/~daiyonkigroup/PolarScienceSympo_special/index.html

建設コンサルタンツ協会 第４回 建コンフォト大賞募集

募集テーマ「あなたのお気に入りの“土木施設”」

私たちが普段使っている道路や橋，鉄道，公園．移動で立ち寄る空港や港．上下水道電気，ガスなどライフライン．災害から私たちの命を守るためのダムや堤防，防波堤など．これらは全て“土木技術”が係わる施設です．私たちの身の回りで，目に見えるところ，そして見えないところから暮らしを支え，時には命を守っています．今回は，「あなたのお気に入りの“土木施設”」をテーマに，皆さんからの素敵な一枚を募集します．日常の風景に当たり前のように溶け込んでしまっている土木施設．この機会に，皆さんのお気入りの土木施設をぜひご紹介ください．ご応募をお待ちしています．

募集締切：平成24年９月30日（日）（当日消印有効）

応募方法

応募はひとり１点限りです．サイズは「四つ切サイズ（たて254 mm×よこ305 mm）」，または「ワイド四つ切サイズ（たて254 mm×よこ365 mm）」とします．応募票に必要事項を記入のうえ，応募作品の裏面に貼付して郵送してください．応募票はホームページからダウンロードできます．

応募先・お問い合わせ先
一般社団法人 建設コンサルタンツ協会
第４回 建コンフォト大賞係
〒102-0075　東京都千代田区三番町１番地
KY三番町ビル８階
TEL：03-3239-7992
http://www.jcca.or.jp/achievement/photo_contest/photocon/h24photo.html

地球にわくわく小・中学生自由研究コンテスト

地学オリンピックは中学生から参加できます．これから地学オリンピックに参加してみようと考えている小中学生のみなさん，自由研究で宇宙や地球，そして身の周りの環境を調べてみませんか．

主催：NPO法人地学オリンピック日本委員会
共催：公益社団法人日本地球惑星科学連合・公益財団法人つくば科学万博記念財団
募集期間：**2012年８月１日（水）～10月31日（水）**
応募資格・部門：小学生２部門（３・４年，５・６年），中学生１部門
研究テーマ：地球や宇宙，環境に関する自由研究（例：天気調べ，流星群の観察，河原の石くらべなど）
応募方法：Ａ４サイズの用紙10枚以内で作成し，表紙PDF版・ワード（doc）版（ここからダウンロードしてください）を添付して，下記地学オリンピック事務局に郵送
参加料：無料
郵送先：〒113-0032　東京都文京区弥生２-４-16　学会センタービル内
NPO法人地学オリンピック日本委員会事務局　宛
審査方法：小学校教員・中学校教員・高校教員ほかによる一次審査と最終審査により優秀賞・最優秀賞を選出する
最終審査委員
的川 泰宣（独立行政法人宇宙航空研究開発機構 名誉教授・NPO法人子ども・宇宙・未来の会（KU-MA）会長）
利光 誠一（独立行政法人産業技術総合研究所 地質標本館 館長）
横山 一己（独立行政法人国立科学博物館 地学研究部長）
奥村 政佳（RAG FAIR・気象予報士）
木村　学（公益財団法人日本地球惑星科学連合 前会長）
木阪 崇司（公益財団法人つくば科学万博記念財団 理事長）
濱野 洋三（NPO法人地学オリンピック日本委員会 理事長）
結果発表：2013年３月１日WEBサイトに掲載
問い合わせ先：wakuwaku@jeso.jp

第２回学生のヒマラヤ野外実習ツアー参加者募集

地学団体研究会・國際ゴンドワナ研究連合・ネパール地質学会・日本地質学会・日本応用地質学会推薦

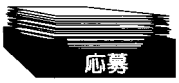
ヒマラヤを研究してきた日本全国の大学教員，元教員や技術者ら32人がボランティアで，日本の学生に素晴らしいヒマラヤの地学と自然環境を実地で実習指導します．航空運賃，宿泊費，食費，現地ガイドやポーター等の必要経費一切込みで参加費学生１人20万円以内を目指す，実施主体の利益なし完全ボランティアのプログラムです．詳細は別紙「第２回学生のヒマラヤ野外実習ツアー概要」をご覧下さい．島根大学や山形大学など，いくつかの教室・学科では参加学生に対して実習単位の付与が可能になり，或いはその方向を検討中です．なお，本プロジェクトには関係分野企業の新人社員もご参加頂けます．本実習ツアーの第１回目は1012年３月に実施されました．実施報告は全国の関係学科／教室にお届けしております．また，日本地質学会NEWS（15巻５号）や下記でもご覧頂けます．
http://www.geocities.jp/gondwanainst/geotours/Studentfieldex_index.htm

＜参加申込締切＞　**2012年10月末日**
＜実習実施時期＞　2013年３月上旬，出国から帰国まで14日間．
＜参加費用＞　学生・大学院生：約20万円以内，その他の個人参加者：約25万円以内，大学・企業などの組織派遣教員／社員：約30万円以内
＜実施のための最小参加人数＞　10人（１チーム），
＜最大参加可能人数＞20人（１チーム）

お問合せ
ゴンドワナ地質環境研究所　吉田勝
E-mail：gondwana@gaia.eonet.ne.jp

Tel：0736-36-7789
北大総合博物館　在田一則
E-mail：arita@museum.hokudai.ac.jp
Tel：011-706-2724
島根大学総合理工学部　酒井哲弥
E-mail：sake@riko.shimane-u.ac.jp
Tel：0852-32-6464

公募　教官公募等の求人ニュース原稿につきましては，採用結果をお知らせいただけますようお願い致します．



金沢大学理工研究域自然システム学系教員（テニュアトラック助教）公募

募集人員：助教１名

勤務形態：任期付きの助教，任期：５年
任期満了後の審査を伴う再任・昇任制度：研究業績に係る学内審査の結果に応じて，テニュア准教授への昇任あるいはテニュア助教への異動可．テニュア審査において，テニュアトラック期間を延長することが認められた場合（最長３年間）は，延長後の期間の最終年次に再度審査を実施する．

研究費：スタートアップ経費として文部科学省「テニュアトラック普及・定着事業」より着任年度1,000万円，次年度500万円を支給予定

テニュア付与基準の概略
(1) 国内外で，当該分野における研究成果が優れていると認められること (2) 競争的資金等を獲得し，研究を遂行していること (3) 適正に計画された研究計画が達成されていること (4) 学類の方針に従って，適正な教育を実施していること

所属：金沢大学理工研究域自然システム学系
（地球学コース担当）

専門分野等：地質学，古環境学，古生物学

仕事内容：共通教育，自然システム学類，特に地球学コースの構成員と協力して教育・研究および大学運営等にあたり，自然システム学類，大学院自然科学研究科自然システム学専攻の専門分野の演習・実習（地質調査等，野外での実習を含む）・講義・研究指導を行う．また，安定同位体比質量分析装置，電子顕微鏡などを利用した教育・研究ができることが望ましい．

応募資格：(1) 応募締切日において，博士号取得後10年以内の研究者又は同等程度の研究経歴を有すること．また，40歳未満の若手研究者であること (2) 旧科学技術振興調整費「若手研究者の自立的研究環境整備促進」事業による教員等として採用され，当該補助金により人件費又は研究費を補助された経験を有しないこと (3) 国籍は問わないが，日常的に日本語を使えること

着任時期：平成24年12月１日以降のできる限り早い時期（平成24年度内に着任）

応募書類：以下の項目について原則Ａ４用紙に記載すること．
(1) 履歴書（写真貼付，電子メールアドレスも記入のこと）(2) 研究業績目録（査読付き原著論文，査読無し原著論文，著書，総説・解説，国際会議録・国際学会発表，受賞歴，特許，その他を項目分けすること）(3) 主要論文別刷５編以内（コピー可）(4) これまでの研究概要（Ａ４用紙２枚以内 1000字程度）(5) 今後の研究計画と研究・教育に対する抱負（Ａ４用紙３枚以内 1000字程度;図表の添付可）(6) 応募者についてご意見をいただける方２名の氏名・所属・連絡先（電話番号，電子メールアドレスを含むこと）

応募締切：平成24年９月24日（月）（必着）

問い合わせ先：
〒920-1192　石川県金沢市角間町
金沢大学理工学研究域自然システム学系地球学コース
コース長・海野　進
TEL：076-264-6522
E-mail：sesumin@staff.kanazawa-u.ac.jp
事務室：TEL：076-264-6513
FAX：076-264-6545
http://natsys.w3.kanazawa-u.ac.jp/research/staff.html

京都大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻地質学鉱物学教室教員（准教授）公募

１）採用職名：准教授１名
２）所属分科：地球物質科学分科
３）期待する教育・研究分野：岩石学
専攻内の他の教員とも連携して教育・研究を推進できる方．学部・大学院教育では，岩石学関連の授業・偏光顕微鏡実習・野外調査実習を，全学共通教育では，地学関連の授業・実験を担当できる方．
４）応募資格：博士の学位を取得されている方
５）採用予定：平成25年４月１日以降のできるだけ早い時期
６）必要書類
①履歴書
②業績目録（査読付き原著論文，紀要・報告など査読のない原著論文，総説，書籍などに分ける）
③主要論文５編の別刷り（コピー）各１部
各論文の内容について和文の解説（約400字）をつけること
④これまでの研究経過と研究成果の概要（約1000字）
⑤教育実績の概要（1000字以内）
⑥着任後の研究計画（約1000字）と教育についての抱負（約1000字）
⑦最近10年間の競争的研究資金受領歴

なお，適任者を推薦下さる場合は被推薦者の氏名，所属，連絡先を８月30日（木）までに，文書にて教室主任までお知らせ下さい．その場合，上記の必要書類は不要です．当方で被推薦者に応募の意志の確認，及び必要書類の請求などを致します．

７）**応募締切：平成24年10月１日（月）必着**
８）書類提出先および問い合わせ先：
〒606-8502　京都市左京区北白川追分町
京都大学大学院理学研究科
地球惑星科学専攻　地質学鉱物学教室
教室主任　山路　敦
電話：075-753-4151　FAX：075-753-4189

山口大学大学院理工学研究科自然科学基盤系学域（地球科学分野）教員公募

１．公募人員　教授，准教授または講師１名（ポストに関しては，教育・研究業績に応じて審査・決定します）
２．所　　属　大学院理工学研究科地球科学分野（理学部地球圏システム科学科）
３．専門分野　地球科学，とくに岩石学分野
４．担当科目　共通教育科目，学部及び大学院専門科目
５．応募資格
(1) 博士の学位を有する方
(2) 岩石学分野スタッフと協力しての講義・実験・実習等を担当でき，フィールド教育（野外実習や野外巡検等）に熱意をもって取り組める方．
(3) 当学科ではJABEE（日本技術者教育認定機構）認定プログラムに基づき教育を実施しております．当該学科のスタッフと協調して，このプログラムに沿って高度技術者となりうる人材の養成に積極的に取り組める方．
６．着任時期　2013年４月１日
７．応募締切　**2012年10月５日（金）（必着）**
８．提出書類　(1) 履歴書（写真を貼付し，学位，連絡先（住所，電話番号，可能ならば電子メールアドレス，Webサイト）を明記

すること.）(2) 研究業績リスト（研究論文，著書等に分けて，査読の有無や印刷中，投稿中のものはその旨を明記すること）(3) 業績リストに記した主要研究論文の別刷又はコピー（5編以内）(4) これまでの研究経過と将来の研究計画（A4判で2枚以内）(5) 着任後の教育に対する抱負（A4判で1枚）(6) 競争的外部資金の獲得状況 (7) 応募者について照会可能な2名の方の氏名と連絡先（所属・職名・勤務先住所・電話／Fax番号・電子メールアドレスなど）

9．書類送付先
〒753-8512　山口県山口市吉田1677-1
山口大学大学院理工学研究科地球科学分野
専攻長　宮田　雄一郎

問合せ先
大和田正明　TEL 083-933-5751
E-mail：owada@sci.yamaguchi-u.ac.jp

その他　当分野のスタッフ及び研究内容につきましては，当分野のホームページをご覧下さい．（http://www.sci.yamaguchi-u.ac.jp/geo/index.html）

広島大学大学院理学研究科 地球惑星システム学専攻 准教授選公募

1．職種および人員：准教授1名
2．専門分野：本専攻の中期計画の目標「地球惑星進化素過程と地球環境の将来像の解明」に沿い，地球惑星システム学における地球惑星進化学，地球ダイナミクス，地球環境・資源学に関連した分野
3．応募資格等：
(1) 博士の学位を有すること．
(2) 本専攻の現研究グループと協調して意欲的に研究にあたり，専攻の発展に貢献しうること
(3) 学部および大学院の授業を担当し，学部生・大学院生の教育と研究指導に意欲的であること
4．**応募締切り：平成24年10月12日（金）必着**
5．着任予定時期：採用決定後なるべく早い時期
6．提出書類：
(1) 履歴書
(2) 研究業績リスト（必ず，①査読有り原著論文，②査読無し原著論文，③総説（review），④著書，⑤その他，に区分して記述すること）
(3) 主要な論文の別刷（またはコピー）10編以内
(4) これまでの研究概要と着任後の研究計画（A4用紙1～2枚程度）
(5) 地球惑星科学教育に対するこれまでの実績と着任後の抱負（A4用紙1～2枚程度）
(6) 研究費等外部資金獲得の実績（過去10年間程度）
(7) 応募についてご意見をいただける方（2名程度）とその連絡先
7．選考方法：書類選考の上，面接を行うことがあります．面接にあたり必要となる旅費等は応募者の負担となります．
8．書類送付先および問合せ先：
〒739-8526　東広島市鏡山1-3-1
広島大学大学院理学研究科地球惑星システム学専攻
准教授選考委員会委員長関根利守
Tel.：082-424-7474
Fax.：082-424-0735
E-mail：toshimori-sekine@hiroshima-u.ac.jp

各賞・研究助成

日本地質学会に寄せられた候補者の推薦依頼をご案内いたします．推薦ご希望の方は，執行理事会までお申し込み下さい．

平成25年度笹川科学研究助成

助成対象となる研究
A〔一般科学研究〕人文・社会科学および自然科学（医学を除く）に関する研究を対象とします．
B〔海洋・船舶科学研究〕「海洋学および海洋関連科学」ならびに「船舶および船舶関連科学」の研究で，その成果が海洋・船舶関係に直結する研究（人文・社会科学を含む）を対象とします．
C〔実践研究〕博物館や学校，NPOなどに所属している者が，その活動において直面している社会的諸問題を解決するために行う研究を対象とします．

募集対象者
A〔一般科学研究〕平成25年4月1日現在，大学院生あるいは所属機関等で非常勤または任期付き雇用研究者として研究活動に従事する者であって，35歳以下の者
B〔海洋・船舶科学研究〕平成25年4月1日現在，大学院生あるいは所属機関等で研究活動に従事する（常勤・非常勤は問わず）者であって，35歳以下の者
C〔実践研究〕教員，学芸員，図書館司書，スクールカウンセラー，指導員等の専門的立場にある者，あるいは問題解決に取り組んでいる当事者などで，特に常勤・非常勤は問いません．

研究計画と助成額
研究計画は，単年度（平成25年4月1日から平成26年2月10日まで）内に達成し成果をとりまとめられるものとします．
助成額は，学術研究部門100万円/件，実践研究部門50万円/件を限度とし，研究の実施に直接必要な経費を対象とします．

募集期間
学術研究部門：
平成24年10月1日～15日＜必着＞まで
実践研究部門：
平成24年11月1日～15日＜必着＞まで

申請方法等詳しくは，
http://www.jss.or.jp/sasagawa/index.html

お問い合わせ先
公益財団法人日本科学協会　笹川科学研究助成係
〒107-0052　東京都港区赤坂1-2-2
日本財団ビル5F
TEL 03-6229-5365　FAX 03-6229-5369
E-mail：josei@jss.or.jp
URL：http://www.jss.or.jp

紹　介

『物質科学を学ぶための量子力学，解析力学，統計力学，電磁気学の基礎事項』シリーズ講義録

川邊岩夫　著

表記図書が電子書籍（無料）として名古屋大学中央図書館リポジトリーへ登録された．

本書は，著者が『希土類元素の化学と地球化学』を執筆する為に，その基礎となる物理化学を学び整理したその結果としての講義録で，以下の4部に区分されている．

・物質科学を学ぶための解析力学の基礎事項
http://i.nul.nagoya-u.ac.jp/jspui/handle/2237/16106
・物質科学を学ぶための統計力学の基礎事項
http://i.nul.nagoya-u.ac.jp/jspui/handle/2237/16107
・物質科学を学ぶための電磁気学の基礎事項
http://i.nul.nagoya-u.ac.jp/jspui/handle/2237/16108
・量子力学の基礎事項
http://i.nul.nagoya-u.ac.jp/jspui/handle/2237/16109

それぞれの部は，16から28の節から構成されており，全体で2000ページにのぼる大著である．しかし，そこは電子書籍の利点で，興味がある，あるいは必要な部分を抜き出して読み，あるいはプリントすることができるとてもハンデイな書である．とはいえ，著者には「希土類元素の化学と地球化学を解明するため」として見えていた学ぶ目標が，評者には定まっていないことによるのか，本書はなかなか難解であった．本書の理解を速めるのは，常に読者自身が究めたい地球科学に回帰しながら読むことであろう．

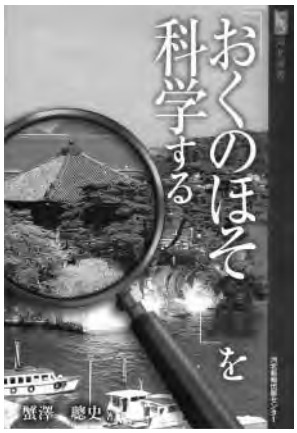
本書の中でも，第２分冊の§13化学反応とその平衡，などは地球科学でもなじみのある部分である．一つには分かり易い例題が載せられており，どのような地球科学に応用出来るかが理解し易いからである．ほかの章や節にも，このような地球科学の例題が載せられるならば，読者の理解は一層容易になると考えられる．しかし例題はなくとも，地球科学をこれから始めようと考える柔軟な思考を持つ学生が，広範な基礎事項を含む本書を通読することによって，従来の地球化学には無かった新しい視点が芽生える事も大いに期待される．

本書は，電子出版であるが故に，改訂が容易であろう．読まれた方が，感想や質問を著者に返すことにより，地球科学で広く読まれる，すぐれた基礎事項書となろう．

（**田中　剛**）

「おくのほそ道」を科学する

蟹澤聰史　著



（河北新報出版センター（河北選書）2012年６月15日，Ｂ６判，211ページ，定価800円＋税，ISBN978-4-87341-276-4）

本書は「文学を旅する地質学」，「石と人間の歴史」に次ぐこの著者の最新刊であり，今回は芭蕉の「奥の細道」に沿う地学紀行である．前回までと大きく違うのは，仙台在住の著者が2011年の東日本大震災で被災し，「人生観を根底から変えてしまう」（あとがき）体験をした後の著作という点である．実際，本書には大震災に関する記述が随所に見られ，無常観に根差す一種の「ゆとり」が加わったように思う．

私は数年前に嵐山光三郎氏の「芭蕉紀行」（2000年初刊）や「悪党芭蕉」（2006年初刊，いずれも現在は新潮文庫所収）を読んで，芭蕉という人物や「奥の細道」という紀行文の性格について先入観を植え付けられていたので，今回の本は非常に興味深く読むことができた．ただし，嵐山氏のこれらの作品は本書の文献リストには載っていない．

「奥の細道」は西暦1689（元禄２）年５月中旬から同年10月初旬まで，（現在の県名で）東京を発って埼玉，群馬，栃木，福島，宮城，山形，秋田，新潟，富山，石川，福井，滋賀をめぐり，岐阜県大垣に至る５ヶ月間の旅の（かなり再構成された）紀行文である．芭蕉は1644年生まれなので満45歳，平均寿命が30代だった当時としては老境に入ってからの旅であり，彼はこの５年後に逝去する．

本書はまず現在我々が過ごしている時間と芭蕉の当時の時間，そして地質学的な時間の大きな相違を取り上げる．５月16日（３/27，以下旧暦はこのように表記）の旅立ちの文には「明ぼのの空朧々（ろうろう）として，月は在明（ありあけ）にて」とあり，日の出前のおぼろ雲を通して東の空に細い月が見えたように書いてあるが，曾良の旅日記によると出発は３/20になっており，食い違いがある．しかし，３/20だとしても西には有明の月があったはずで，完全な創作でもないだろういう見解を述べている．また江戸時代の時刻は日の出・日の入を基準にした不定時法で，その時刻を現在の定時法で考えると，芭蕉たちがものすごい速さで歩いたことになる（ここから芭蕉忍者説が生まれる）という面白い話もある．「上野谷中（やなか）の花の梢（こずえ），又いつかはと心ぼそし」の「花」は，出発が新暦５月なので今の感覚では桜には遅すぎるが，今の桜（ソメイヨシノ）は江戸時代末期にできた品種で芭蕉の当時はまだなく，ヤマザクラだとすれば無理がなくて，しかも当時は太陽黒点が少なく地球全体の気温が低かった「マウンダー小氷期」に当たり開花が遅かっただろうから矛盾はない，と考察している．

この後，芭蕉は日光東照宮（あらたうと…），那須の殺生石（野をよこに…），白河の関（卯の花を…）を訪れて東北地方に入り，二本松の黒塚（鬼婆の話は恐ろしい），福島のしのぶもじずり石などの歌枕を訪ねる．那須では地震があったことが曾良の旅日記に書かれていて（４/18），これは1683年の日光地震の余震だろうとしている．仙台では現在の東北大学川内キャンパス（蟹澤氏の元職場，私の現職場，当時は城内）にあった茶室や隣の亀岡八幡宮にも詣でている．仙台北東方の多賀城には末の松山，壺碑（つぼのいしぶみ），沖の石（二条院讃岐の「我が袖は…」の歌が百人一首にある）など歌枕が多い．「末の松山なみこさじとは」という清原元輔の歌も百人一首にあるが，昨年の大津波は末の松山の直下に達したものの，この山は越えなかった．この歌は平安時代の貞観の津波も末の松山を越えなかったことに基づいているのかもしれないという．

松島を訪れることは，「奥の細道」の冒頭部分に「三里に灸すゆるより，松島の月，先ず心にかかりて…」とあるように，この旅の主目的であり，芭蕉は中国の洞庭・西湖にも恥じない日本一の好風としているが，後に訪れた秋田県の象潟（きさがた）では「象潟や雨に西施がねぶの花」という名句を得ているのに，松島ではあまりいい句が浮かばなかったようだ．嵐山氏は，ここは芭蕉が文章で読ませたかった部分だと解釈し，蟹澤氏は洞庭・西湖についての蘊蓄を傾けている．その後（現在の地名で）石巻，登米，平泉（五月雨の降のこしてや光堂），岩出山，鳴子温泉，尿前（しとま

え）の関（蚤虱馬の尿する枕もと）を通って山形県に入り，歌枕ではない山寺を訪れて「閑さや岩にしみ入蝉の声」の名句を得た（嵐山氏によると実は数回の推敲後の句）．斎藤茂吉と小宮豊隆の間に，これがアブラゼミかニイニイゼミかという論争があったが，芭蕉がここを訪れたのは７月13日（５/27）で，まだアブラゼミの時期ではなく，ニイニイゼミ（小宮）の勝ちになったという．

芭蕉はその後船で最上川を下り，「五月雨をあつめて早し最上川」の名句を得たが，蟹澤氏はここで日本と外国の川の河川勾配の違いを説明している．次に芭蕉は月山（がっさん），羽黒山，湯殿山の出羽三山へ登った（雲の峰幾つ崩れて月の山）．出羽三山も歌枕ではなく，また出羽三山の登山は一種の臨死体験として宗教的な意味があるが，蟹澤氏も嵐山氏も，芭蕉は文学的，宗教的興味ではなく，単に高い山への強い好奇心で登ったと考えていて，蟹澤氏はゲーテがベスビオス火山やエトナ火山に登ったことと比較している．その後芭蕉は新潟県に入り，鼠ヶ関で「荒海や佐渡によこたう天河」の句を得るが（８月18日），この頃は雨が続き芭蕉は疲れていて記録も少なく，天の川を見ての句ではなくて，佐渡に流され辛酸を味わった人々の心を想って詠んだというのが蟹澤氏の解釈である．嵐山氏は，想像だという点は同じだが，月山で月，象潟で花を詠んだので，新潟では恋という順序になる，という見立てで，これが「文月や六日も常の夜には似ず」（翌日は七夕）の句に並べて「荒海や…」の句を記し，次の市振で遊女の話の聞き書きを挿入する理由だという解釈である．なるほど，佐渡が天の川によこたわっていれば，波が荒くても織姫と彦星は金鉱山の辺りで出会える．芭蕉は宮澤賢治ではなく，幽玄な世界が一転ロマンチックに華やぐ．その後芭蕉たちは親不知（おやしらず）を越え，市振（いちぶり）に宿をとり，そこで新潟の遊女と同宿になるわけだが，嵐山氏によるとこの部分は完全な創作だという．

そして８月29日に金沢に着き，９月10日に山中温泉に泊まっている．近くの那谷寺（なたでら）を訪れ「石山の石より白し秋の風」の句を得た．那谷寺は医王山層の流紋岩質凝灰岩の岩肌に沿って作られており，この石の色を秋の気配と重ねた句である．蟹澤氏によると，芭蕉は松島や那谷寺など新生代の地層の美しさには感嘆しているが，中・古生代の地層にはそれほどの美は感じなかったようだという．芭蕉は山中温泉で曾良と別れ，永平寺などを訪れて，10月４日（８/21）頃に大垣でこの旅を終えた．蟹澤氏は，大垣の近くの美濃赤坂金生山で1874年に日本初のフズリナ化石をドイツ人が記載したことを指摘し，大垣は奥の細道の終点であるが，日本の古生物学にとっては発祥の地であると結んでいる．

本書は，蟹澤氏が東日本大震災の被災経験を経て，芭蕉の「不易流行」（変わらぬ真理（天地）と転変する社会（人間）を帰一する）哲学に深く共感し，読者が自然をよく知り，その一員であることを深く感じ取れるように，そして「あそび」の心を大切にして新たな発想を生む礎としてもらうために，地質学のみならず幅広い学問を織り込んで執筆したものであり，ご一読をお勧めする．そして，蟹澤氏が本年５月の日本地質学会総会で同会名誉会員に推挙されたことを申し添える．

芭蕉は1694（元禄７）年，満50歳で大阪にて亡くなったが，その７年後の1701（元禄14）年に江戸で赤穂浪士の討ち入りがあり，翌1702（元禄15）年に「奥の細道」が出版された．そして1703（元禄16）年に元禄関東地震（死者数千人），1707（宝永４）年に我が国の歴史上最大の被害地震の一つである駿河・南海トラフ沿いの宝永地震（M8.6；10月28日，死者２万人以上）と富士山の噴火（12月16日）があった．今後同様の経過にならないことを切に願って本書の紹介を終える．なお，本書は次のサイトから購入できる．

http://www.kahoku-ss.co.jp/okunohosomichi.html

（※表紙は松島の五大堂）

（石渡　明）

国立公園地質リーフレット1．箱根火山　好評発売中!!

Ｂ２版．5万分の１地質図と解説からなります．箱根火山の研究史から最新の研究成果までフルカラーで詳しく紹介されています．

紙は，水に強く、鉛筆等での書き込みも容易なレインガード紙を使用していますので野外での調査・巡検に最適です．広くご活用下さい！

学会では今後各地の国立公園をターゲットに,地質リーフレットを製作していく予定です．子供版「箱根火山たんけんマップ」ともども，皆様のご意見・ご要望をお待ちしております．

購入希望の場合は，氏名・送付先・電話番号・購入冊数を明記の上，メールもしくはFAXで学会事務局までお申し込み下さい．会社名等での請求書が必要な方はその旨明記して下さい．

e-mail：main@geosociety.jp　　FAX 03-5823-1156

※学会で販売するほか,神奈川県立生命の星地球博物館や箱根周辺の土産物ショップなどでも販売しています．

会員頒価　1,000円/部

（20部以上の場合は割引あり）

CALENDAR

2012.8～

地球科学分野に関する研究会，学会，国際会議，などの開催日，会合名，開催学会，開催場所をご案内致します．会員の皆様の情報をお待ちしています．
★印は，日本地質学会行事．

2012年

8月　August

○科学教育研究協議会第59回全国研究大会（鳥取）
「自然科学をすべての国民のものに」
日本地質学会後援
８月３日（金）～５日（日）
場所：鳥取県米子市コンベンションセンターほか
問い合わせ先：
科学教育研究協議会（委員長　佐久間）
TEL/FAX：042-302-3862
e-mail：ped01345@nifty.com

○34th International Geological Congress:IGC
８月５日（日）～10日（金）
場所：Brisban Australia
http://www.34igc.org

○第11回中生代陸域生態系国際シンポジウムおよび韓国の恐竜サイト巡検
シンポジウム：８月15日（水）～18日（土）
巡検（韓国南部の恐竜化石産出地）：８月19日（日）～22日（水）
場所：韓国・光州
http://www.2012mte.org/

○第13回目「地震火山こどもサマースクール」（in 糸魚川ジオパーク）
日本地質学会・日本地震学会・日本火山学会共催
８月18日（土）～19日（日）
テーマ「東と西に引き裂かれた大地のナゾ」.
参加対象：小学5年～高校生（40名）
http://www.kodomoss.jp/ss/itoigawa

○日本第四紀学会2012年大会
日本地質学会共催
８月20日（月）・21日（火）
場所：立正大学熊谷キャンパス・アカデミックキューブ（埼玉県熊谷市）
http://quaternary.jp/meeting/index.html

9月　September

○ 2012年度日本地球化学会年会
日本地質学会共催
９月11日（火）～13日（木）
場所：九州大学箱崎キャンパス文系地区
http://www.geochem.jp/index.html

★日本地質学会第119年学術大会（大阪大会）
９月15日（土）～17日（月・休）
場所：大阪府立大学ほか

10月　October

★津波堆積物ワークショップ＆巡検
日本地質学会・日本堆積学会　共催
10月６日：ワークショップ
場所：津市三重県総合文化センター
10月７～８日：巡検（鳥羽-尾鷲-南紀白浜を予定）
申込締切：８月31日（金）
詳しくは，学会HPをご参照ください

★関東支部：銚子巡検
10月27日（土）～28日（日）
申込締切：10月20日（土）
詳しくは，学会HPをご参照ください

★2012年地質調査研修
10月29日（月）～11月２日（金）
場所：千葉県君津市およびその周辺（房総半島中部地域）
募集締切：９月21日（金）
詳しくは，学会HPまで

11月　November

○東海地震防災セミナー2012
11月８日（木）13：30～16：00
場所：静岡商工会議所静岡事務所５階ホール
連絡先：土　隆一（土研究事務所）
Fax：054-238-3241/Tel.：054-238-3240

○3rd Asia-Pacific Conference on Luminescence and ESR dating
日本地質学会協賛
11月18日（日）～22日（木）
場所：岡山理科大学50周年記念館
http://www.rins.ous.ac.jp/eps/theme/symposium.html

○27th Himalaya-Karakoram-Tibet Workshop
11月28日（水）～30日（金）
プレ・ポスト巡検（１～３日の３コースを予定）
場所：ネパール，カトマンズ
問い合わせ先：組織委員会
hkt27kath@gmail.com
http://www.ngs.org.np

○第28回ゼオライト研究発表会
日本地質学会協賛
11月29日（木）～30日（金）
場所：タワーホール船堀（東京都江戸川区船堀）
http://www.jaz-online.org/

12月　December

○地質学史懇話会
12月23日（日）13:30～17:00
場所：北とぴあ
鈴木寿志：「要説地質年代」を訳して　他
問い合わせ：
矢島道子<pxi02070@nifty.com>

2013年

8月　August

○第６回地殻応力国際シンポジウム
日本地質学会　後援
日程：2013年８月20日（火）～22日（木）
会場：仙台国際センター（宮城県仙台市）
講演申込期限：2012年11月30日（金）
http://www2.kankyo.tohoku.ac.jp/rs2013/

福島第一原発周辺の放射線量の測定方法と放射能地質汚染の研究

日本地質学会環境地質部会長：楡井　久
調査団長：上砂正一
調査団：愛甲義昭＊・上砂正一＊・香川　淳＊・木村和也＊・楠田　隆＊・佐藤恭一＊・楡井　久＊布施太郎＊・古野邦雄＊・増田俊壽＊・笠原　豊・田村喜之
岡野英樹（＊現地調査員）

1. はじめに

「原子炉建屋から」今回の福島第一原子力発電所の事故に伴って大気中に放出された放射性物質は，自然の営力によって拡散し降下・沈積しているので，気象条件（雨，風など）・地形（山地，丘陵，斜面の方向や傾斜，表流水の集積しやすいところなど）・植生（広葉樹，常緑樹，草地など）・地質条件（土粒子の粒度分布，岩種，多孔質の差など）・土地利用（森林，耕作地，宅地など）により分布（堆積）状況が異なるはずである．実測される放射線量は，表層の植生や微地形，地質条件によっても影響を受けていることが考えられるが，ほとんどの場合画一的な調査を行っている．これは土壌汚染対策法と同じで，自然の法則を無視した方法である．また，地上高５cm，50 cm，１mで測定する方法では必ずしも堆積の場での測定では無く，高くなればなるほど（空気による吸収があるが，遠方からの放射線の放射線量（率）に対する寄与が相対的に大きくなるため）情報がぼやけてくる．今回のように広域に降下・沈積している放射性物質による地質汚染の場合，最も適切な測定方法と測点設定などの調査手法を立案することが課題である．

測定機器

調査員　：　総勢42名

携帯型放射線量測定装置：①RT-30（GEORADIS社　携帯型放射線量・成分測定装置ガンマ線スペクトロメータ）１台，②Radi（堀場製作所製PA-1000）３台，③エアカウンター（エステー（株））１台，④エアカウンターS（エステー（株））１台，⑤LK3600（中国製，GM型計数管）１台　合計７台を使用した．地層の放射能強度測定は堀場製「放射能簡易測定キット（PA-K）」を用いた．

調査方法

(1) 福島第一原子力発電所から放出された放射性物質による放射線量分布図を作成するために，車載機による広域的な空間放射線量（率）を測定した．
(2) 計画的避難地域に指定されている福島県南相馬郡飯舘村二枚橋の農用地・宅地を借り受け空間放射線量（率）・表層汚染調査等の現地調査を実施した．
(3) 調査期間：２月20日～３月４日

2．広域的な空間放射線量（率）の測定

2011年３月11日に発生した東京電力福島第一原子力発電所事故から，調査時点でほぼ１年になる．関東，東北（福島のみ）の国道・県道をくまなく測定した結果，この１年間で二つの巨大な放射能汚染地域があることが判明した．福島原発から放出された放射性物質は福島県だけでなく，栃木県，群馬県，茨城県，千葉県，東京都まで拡散し，汚染地域が連なる広域汚染地帯を形成している．放射性物質は２つの巨大プリュームとして検出され，一つは福島原発から北西に延び福島市から南下して栃木・群馬へと広がるフクトグン－プリューム（FukuToGun Plume），もう一つは福島原発から南下して茨城－千葉－東京へと広がるチバラキト－プリューム（ChIbarakiTo Plume）である（Fig.1，2，楡井2011）．

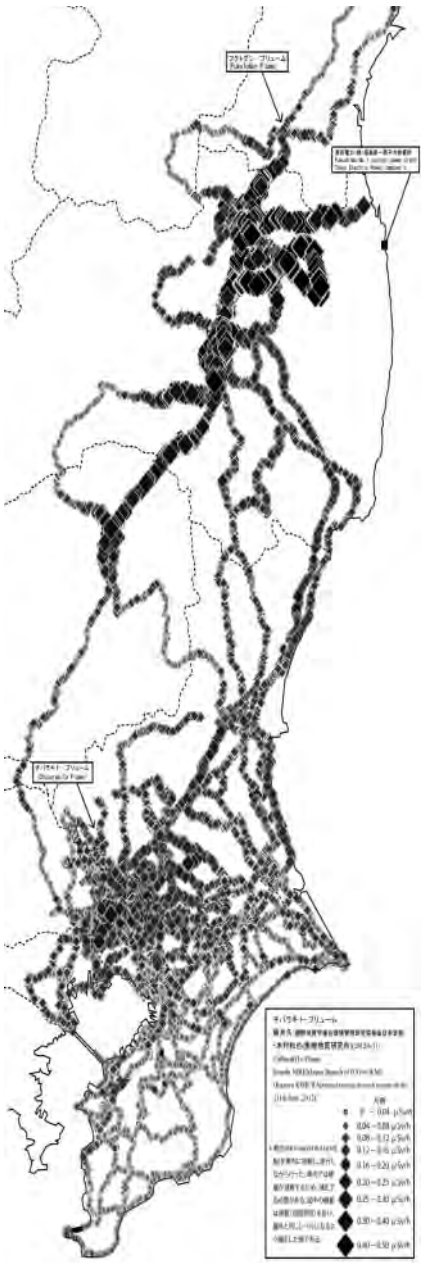


Fig. 1　フクトグン－プリューム（FukuToGun Plume）．

放射線測定は，GEORADIS社製RT-30とGPSからなる測定システムChIbarakiNo. 1を車内（地表面上ほぼ80 cm）に搭載し，一般道，高速道路を福島から関東地方にかけて車で走行しながら行った．しかし，車内での測定であり，車体自体による放射線の吸収による放射線量の減衰があるため，測定値を補正して屋外に対応する線量に換算した（Fig. 3）．

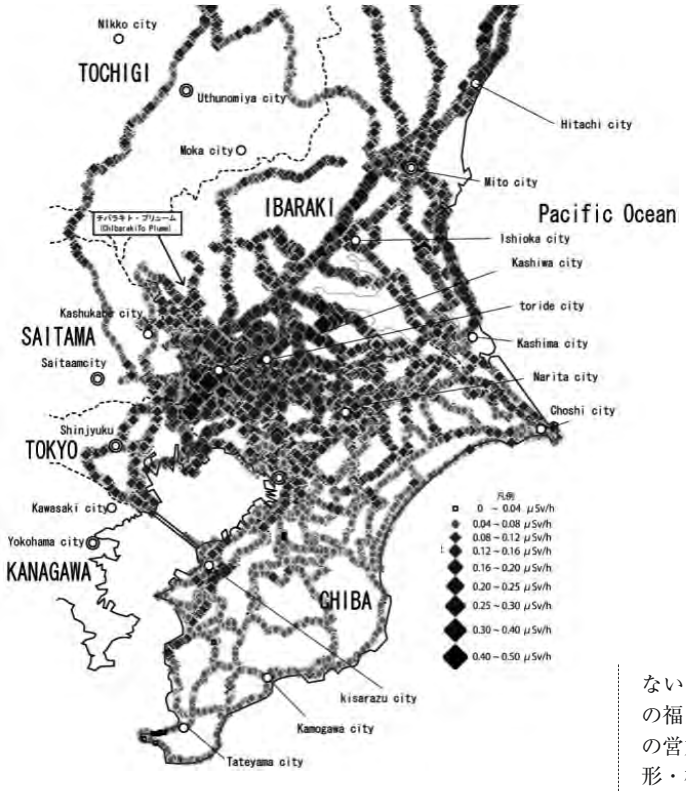


Fig. 2　チバラキトープリューム（ChIbarakiTo Plume）.測定はRT-30（GEORADIS社製）を車内に搭載し，走行しながら行った．車内では線量が減衰するため，補正をする必要がある．図中の線量は係数（別図参照）を掛け，屋外と同じレベルになるよう補正した値である．

測地点	車内線量	車外線量
鹿島灘	120 nSv/h	185 nSv/h
大洗	100 nSv/h	158 nSv/h
内原	90 nSv/h	134 nSv/h
水戸	82 nSv/h	118 nSv/h
下妻	60 nSv/h	86 nSv/h
富津	51 nSv/h	64 nSv/h
南房総	37 nSv/h	47 nSv/h

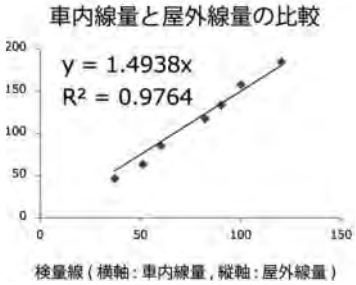


Fig. 3　屋外に対応する線量換算.

3．農用地・宅地の空間放射線量（率）調査・表層汚染調査等の現地調査

福島県の現地測定箇所の選定については，放射性物質の分布状況から判断して，高濃度で広範囲に広がっているフクトグンプリュームで，このような特異な分布形態になった原因を解明する目的として，阿武隈山地の中央分水界の東側斜面を選んだ（Fig. 4）.

調査地での測定はChIbarakiNo. 1で調査地周辺の核種分析とRadi等で調査地内の地表および1 m高さの空間放射線量（率）の測定と地表面下の放射線量測定を行った．地表面下の測定に当たっては周辺の影響を受けないように簡易的に測定する方法を確立する目的でタングステンシートや鉛板で簡単なコリメータを自作して測定した（Fig. 5）．タングステンシートは1面遮蔽であるが，鉛は3面遮蔽にして測定した結果，3面遮蔽の方が効果は大であった．遮蔽効果を比較できるように測定器は堀場製のPA-1000（Radi）を2台用いた．現在，さらに改良を加えた補助装置を制作・検証中である．

(1) 地質汚染調査に基づいた放射線量単元調査

原発事故により広範囲に汚染された地域では，計算上の放射線量率の値は測定する高さで変化しないと考えられるので，50 cm～1 mの高さで測定されている（環境省，2011）．ただし，計算値は，理想化された条件下で計算されているものであり，現場での測定値を考える場合は注意が必要である．実際に，地表面で測定した値と高さ50 cmや1 mでの計算上の値でも違いがある（東京都健康安全研究センター，2011）．理論計算する場合の条件は，無限遠の平坦面を考え，かつ放射性物質が平坦面上に均一に分布している場合で，さらに放射線を遮蔽する障害物（建物などの構造物や樹木，あるいは地面の凸凹など）がないといった非現実的なものである（田崎晴明，2011）．今回の福島第一原発の事故で大気中に放出された放射性物質は自然の営力によって広範な地域に拡散しているので，気象条件・地形・植生・地質条件・土地利用により堆積状況が異なり，測定地点間でさえも分布状況が違う可能性がある．したがって，平坦でもなく，不均一に分布していると考えられる放射性物質による放射線量（率）の高さ1 mでの測定では，理想的な条件下で考えられる様な無限遠からの放射線の寄与は期待できないが，測定位置を中心にして最大で半径100 m以下の領域の地表面および地表面下（数cm）にある放射性物質から飛んでくるγ線を測定していると期待できる．

そのため数mから20～30 mの放射性物質の濃度不均一をそのまま反映しているとは考えられない．また，5 cm，50 cm，1 mで測定する方法では必ずしも堆積の場での測定では無く，高くなればなるほど（空気による吸収があるけれども，一般的に遠方からの放射線の影響の効果が相対的に大きくなるので）放射線強度の濃淡のコントラストが不明瞭になると考えるべきである．

本報告の調査対象地とした放射性物質で高濃度に汚染されている地域での測定結果では，地表面と1 m高さで測定した値は大きく異なっている（Fig. 6 ※，Fig. 7 ※福島県計画的避難区域で測定．※この図はかなり大きく限られた紙面では掲載できないのでH.P.の記事に掲載してありますので参照してください〈http://www.geosociety.jp/hazard/content0078.html〉また，Fig. 1～Fig. 8も大きく見ることができます.）．地表面での測定値は1 m高の測定値よりも平均1.15倍（高濃度の範囲は1.38倍）で，より詳細に放射性物質の存在を明確にしていると考えられる．これは，地表面の測定では表層地質，植生，微地形（地表面の微小な形態，たとえば畑の畝や土壌の塊など）に直接影響された結果であると考えられる．

現時点で測定される放射線量は地表に降り積もった放射性物質によって支配されているので，地表面での測定が原則重要となる．自然の営力によって堆積した物質は自然界にコントロールされるので画一的な調査手法ではとうてい汚染マップは描けないし，最も重要な汚染のプロセスが全くブラックボックス化してしまう．

放射能汚染は放射性物質（自然及び人工放射性元素）が環境中にばら撒かれることである．通常，放射能汚染は，放射性核種（放射性同位体）を採掘したり，濃縮作業をしたり，生産したり，使用したりしている間に漏洩や事故によって生じる．し

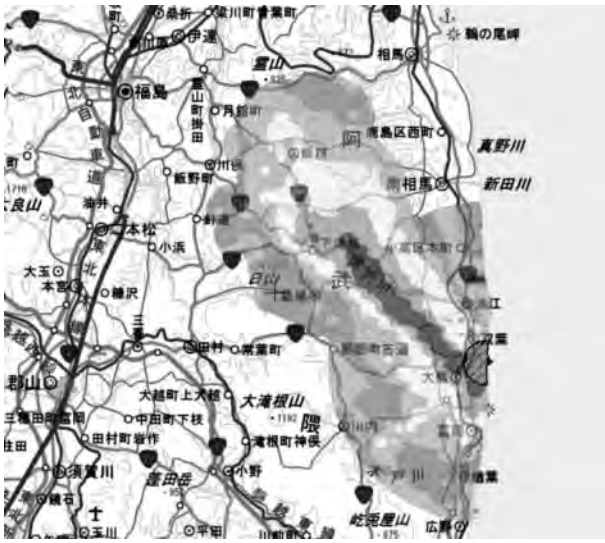


Fig. 4　福島第一原発からの空間放射線量（率）.

かし，3.11大震災に伴う福島第一原発の過酷事故では，チェルノブイリ原発事故以来と言われるほど大量に放出された放射性物質が広範な地域に降り注ぎ重大な放射能汚染を引き起こしたことである．事故によって放出された放射性物質の量は，ソースターム（source term）と呼ばれ，その正確な分布範囲と状況を確認することが課題である．

大量の放射性物質の放出，広範囲に拡散・沈積して約1年が経過し，放射性物質の分布状況は水平方向にも垂直方向にも変化していると考えられる．このようなことから，放射線量（率）測定といえども地質汚染単元調査法で，どの核種がどの範囲でどの程度の濃度（量）がどの深度まで存在しているのかを明らかにすべきである．例え層相が同じであっても，深度方向調査は可能な最小単位（1 cm程度）で行うことが望ましい．調査方法は地質汚染と同じ考え方であるので，平面探査では，地形・表層地質（シルト層，粘土層，砂層，礫層など）・植生条件によって測定地点や間隔を決定する．メッシュ調査では概況を確認してから微地形などに考慮しながら絞り込み調査を行うべきである．

今回，畑地での深度方向調査では植生（根）や凍結の影響で－1 cm，－2 cmは測定できず－1.5cmで測定した．地表面から－3 cm以下は放射線量がかなり低下することが確認された．－3 cm以下は地表面からの影響を受け1 μSv/hを下回らなかった．正確な値を取得するには，鉛等で遮蔽しながら測定するか，ブロックサンプリングあるいは貫入試料を採取して可搬型のガンマ線ベクレル測定器，ゲルマニウム半導体検出器を用いて測定する方法がある．

(2) 放射能簡易測定キットPA-Kによる測定

調査団が行った測定は，地表面および地表面高+1.0 mの放射線量，地表面下－5 cm（一部では－15 cm）までの各深度の放射線量で，地表面下の試料は放射能簡易測定キットPA-K（以下PA-Kと言う.）による測定である．

植生の影響で－1 cm，－2 cmは測定できず－1.5cmで測定した．地表面から－3 cm以下は放射線量がかなり低下する．－3 cm以下は地表面からの影響を受け1 μSv/hを下回らなかった．

垂直方向に掘削しながら放射線を測定した場所で，掘削した地層をPA-Kで現地測定し，測定後ビニール袋で持ち帰り，自然乾燥した後，鉛板を貼った流しのところでPA-Kで再測定した．結果をFig. 8に示す．

ペアの図は右が現地測定，左が試験室の鉛板上で測定．いずれも，測定値こそ異なるが，数値的には同じ傾向を示しておりほぼ

Fig. 5　垂直方向の放射線量（率）測定（左はタングステンシート，右は鉛）．タングステンシートは50 mm×50 mm，t=1.2 mmのもの8枚使用.

3～4 cm程度まで放射性物質が浸透している範囲と想定される．現在被災地において掘削処理が行われているが，簡単な測定器を用いて管理すればより効果的な対策が可能と考えられる．

放射能対策に係る調査は，地質汚染と同様にきちんと汚染状態を調査して行うべきである．

4．考察

一般的に放射線量（率）の測定では，放射性セシウムが地表だけに降り積もった状況を考えた議論であり，今回の報告に示したようにセシウムが土壌中にも沈積している場合には一考の余地があります．このような場合，放射線量（率）の測定値には遠くからの放射線の寄与は弱まり，近くからの放射線の寄与が相対的に大きくなると考えられています．この傾向は土壌中に深く染み込むほど近傍の放射線の寄与が大きくなるということである．これは土壌によるγ線の吸収効果のためである．したがって，放射性物質が表面だけでなく地表面下にまで沈積分布するようになると，測定される放射線量（率）は測定地点からの近い領域に存在する放射性物質分布を反映するようになる．一方，地表面上での測定では地表面の微形態（畑地の畝や土塊など）にも大きく影響されるため，測定地点を中心にして半径20 ㎝（最大でも30 ㎝程度）程度の半球（空気中には放射性物質は浮遊していないと考えると，測定面（地表面）下の半球である）内にある地表および地中の放射性物質からのγ線（使用した線量計がβ線を遮蔽あるいはカットしてしまうタイプならば）を測定していることになる．したがって，数十㎝程度の濃度不均一をそのまま反映することになると考えられる．

雪面上での測定値について

雪上での測定値を考える場合，雪は基本的にH_2O（水）と同じであるから，その「減衰長：㎝」は水と同じと見なしてよい．減衰長は平均自由行程とも呼ばれる．γ線が減衰長だけ進むと，γ線の強度は約2.72分の1に弱められる．要するに，減衰長は遮蔽効果の目安になる量である．水の減衰長は大体12 ㎝であるが，実際に積もっている雪の密度は氷そのものではなく，多分0.5 g/cm^{3}以下であろう．したがって，積雪中の減衰長は25～30 ㎝程度と考えられる．なお，土壌の減衰長は約7 ㎝である．測定地点で積もっている雪に放射性物質が混ざっていなければ土の表面にある放射性物質の上に，積雪45 cmであれば，積雪量の1／4程度の約10 cmの土を被せたのと同じ遮蔽効果を示すことになる．もし，雪に放射性物質が混ざっていれば測定時に雪中の放射性物質からのγ線も測定してしまうので，測定値から積雪下にある土壌中の放射能強度（ベクレル値）を計算するのはかなり困難である．最低限前もって現地で雪中の放射能強度を測定しておく必要がある．

PA-Kによる深さ方向の測定値について

垂直方向に掘削しながら放射線を測定した場所で，掘削した地層（土壌を含む）をPA-Kで測定し，測定後ビニール袋で持ち帰り，自然乾燥した後PA-Kで再測定した．この場合，地層の放射能を測定する条件がかなり異なっている．調査や対策の現場では試料を風乾させて測定するのは非常に困難で有り，汚染対策をしながらの測定では結果を出す間にかなりの時間を要

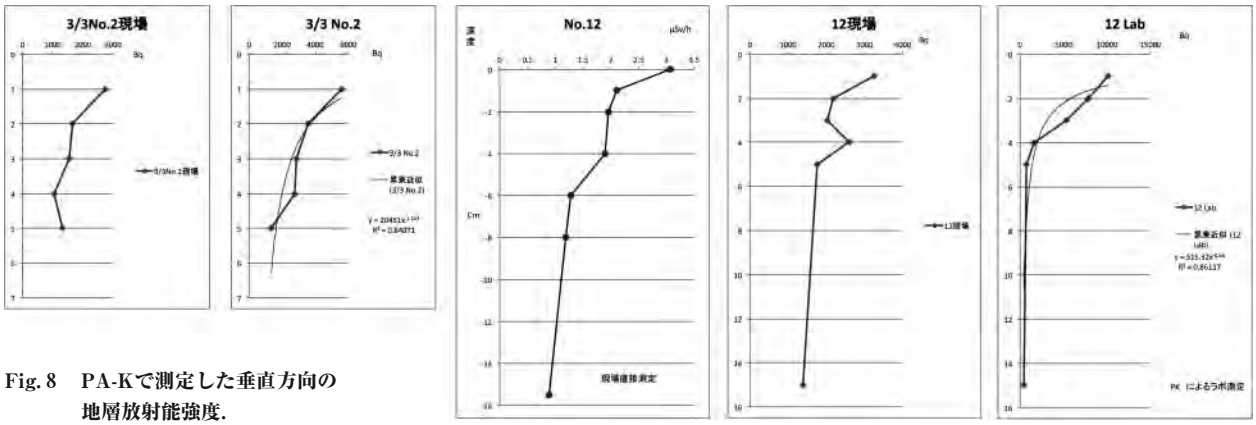


Fig. 8　PA-Kで測定した垂直方向の地層放射能強度.

することになり現実的ではない．したがって，湿潤状態での測定を行い，試料を持ち帰って風乾状態での測定を比較検討することにした．

その他の問題点として，

①　現地でのPA-Kでの測定時に簡易キット自体を周辺（汚染地域であるので試料以外の現地での放射性物質からの放射線（自然放射線^{40}Kも含めて））を遮断して測定しているかである．今回の測定は，周辺より放射線量の少ない雪で覆われたビニールハウス内で実施したが，測定にあたっては環境中の放射線の影響を受けていた，現在はPA-Kが周辺の放射線の影響をあまり受けないように遮蔽装置を用いて測定するように改良している．成果については今後の機会に報告したい．

②　地層の放射能測定は含水状態によって変化すると考えられる．持ち帰った試料は，実験室でⅰ．乾燥前の湿った状態・含水状態で測定し，ⅱ．同試料を遠心沈殿による水の分離を行い，ⅲ．105℃で乾燥し含水測定を実施した．ⅱ，ⅲについては，分離した水と乾燥試料をPA-Kで測定した．さらに，現地測定とラボで測定した地質サンプルについては放射能強度をゲルマニウム検出器による測定を依頼中である．

この一連の作業も時間を要し，短時間で測定可能な方法を見いだすには，今後の検討課題である．

③　試料の形状と線量計との位置関係について，試料を容器に均等に隙間なく均一に入れないと試料形状の変化が放射能強度分布の変化の原因になることが想定される．現地測定では汚染を防ぐためにマリネリ容器に食品用ラッピングフィルムを敷いて試料を詰めた．試料には草根，礫，木片などが混入しており理想的状態に詰め込まれていない．この対策としてはミキサーなどを利用して試料作成を行うなどの方法が考えられる．この点についても今後の課題となる．

④　放射性物質に汚染された地域では，土壌，水，農作物，食品，製品，廃棄物にいたるまで物質から発する放射能を検出・測定が求められている．医療地質研究所（MGRI）の協力のもと，わずかな放射能レベルでも短時間で高い分解能と精度（Cs-137検出下限値（正味計数値：３σ以上）５Bq/kg以下（10分測定時），３Bq/kg以下　（15分測定時）測定容器：600 mLマリネリ容器）でベクレル現地測定（GEORADIS社製据置型・ガンマ線スペクトロメータRT-50を使用）し，①の遮蔽装置での測定成果を検証する計画である．

５．まとめ

放射性物質による汚染の場での地層単元と階層性を確認すること，それには，以下の事項を詳細に調査することが重要である（楡井，2011）．

①発生源からの発生状況
②地層の透水性・透気性・吸着性などを明らかにする
③表流水の集水域の単元と階層性
④大気流動の単元と階層性
⑤地下水の流動系の単元の階層性

やはり，放射能汚染と言っても現在のような状況になったプロセスをまず解明しておかないと広範囲に精度よく調査しても完璧な除去は困難である．

福島第一原子力発電所での過酷な事故は，自然災害の中での事故といえども根本的にはヒューマンエラー（人的ミス）による広範な放射能汚染事故である．

複数の要因が重なった汚染機構解明は地道な空間放射線量(率)測定が目的達成の最短距離である．調査の最重要課題は安価なハンディタイプで誰でも使える計測器を被災地に数多く配布し，ヒューマンパワーで数多く測定していくことで対策の緊急性・方向性がより鮮明になり，風評被害（スティグマ）の克服や食の安全を守っていくことにもつながっていくと考えられる．

福島県内の放射線量測定は現在も続けられており，災害復旧事業費で得られた結果を基に新たな測定法の開発につなげ，さらに放射能の現地測定技術なども開発中である．今後は，放射線測定・調査研究委員会に引き継ぎ，原発事故で被害を被っている地域に地質学会としてさらなる貢献をしたい所存である．

今回得られた成果は，日本地質学会119年大会で発表する．

謝辞

現場測定で特に，RT-30による福島，関東一帯の道路測定および現地交渉については医療地質研究所（MGRI）の協力を得た．

本報告をまとめるにあたり，NPO日本地質汚染審査機構で仮報告を行い，聴取者から適切な助言をいただきより良い方向に修正できた．さらに，放射線測定・調査研究委員会委員長相川信之博士（大阪市立大学名誉教授）からは粗稿に対して有益なご指摘をいただき，さらに報告内容が改善されたここに記して感謝いたします．

参考文献

楡井　久, 2011, 地質汚染調査からみた放射能汚染調査と放射性廃棄物処理について．平成23年「放射性廃棄物管理専門研究会」, 報告書, 京都大学原子炉実験所, 87-98.

環境省, 2011, 環境省告示第百十号, 環境大臣が定める放射線の量の測定方法, 環境大臣細野豪志．2011年12月28日．

東京都健康安全研究センター, 2011, 空間放射線量の測定の高さによる違いについて, http://monitoring.tokyo-eiken.go.jp/monitoring/sokutei/sokutei.html.

田崎晴明, 2011, ベクレルからシーベルトへ．学習院大学理学部物理学教室田崎研究室webサイト．http://www.gakushuin.ac.jp/~881791/housha/docs/BqToSv.pdf（公開：2011年６月１日，最終更新日2011年７月２日）

放射性セシウムに汚染された水田土壌のカヤツリグサ科マツバイによるファイトレメディエーション

愛媛大学　榊原正幸・佐野　栄

1．はじめに

2011年３月11日，東北地方太平洋沖地震に起因して，東京電力の福島第一原子力発電所において未曾有の世界における最大規模の原子力事故が発生した．そして，様々な要因が重なり，国際原子力事象評価尺度のレベル７（深刻な事故）に相当する多量の放射性物質が外部に漏れ出した．同レベルの原子力事故は，1986年４月26日に旧ソビエト連邦で起きたチェルノブイリ原子力発電所事故以来２例目である．

８月29日に文部科学省によって公表された福島第１原発から半径100キロ圏内の原発事故で放出された放射性Csによる土壌汚染の分布図によると，国際原子力機関（IAEA）が緊急事態の対応として一時的な住居の移転などを求める放射性物質の濃度の1000万 Bq/m^{2}を超える極めて高い数値を示した区域は，警戒区域内にある福島県大熊町（2946万 Bq/m^2）のほか，原発から北西方向の双葉町や浪江町の一部の地点で，チェルノブイリ原発事故の際に一時的な住居の移転が求められた55万5000 Bq/m^{2}を超える区域は，南相馬市，富岡町，大熊町，双葉町，浪江町，飯舘村の６市町村34地点であった．　また，農林水産省も同日，福島，宮城，栃木，群馬，茨城，千葉県の農地における137Csおよび134Csの濃度分布図を作成した．これによると，コメの作付けが制限された地域以外では，伊達市霊山町下小国，いわき市川前町下樋売，大玉村大山および相馬市東玉野など福島県内の4市村の合わせて９ヶ所の畑で，制限の目安とされる5,000 Bq/kgを超える放射性Csを検出したことが明らかになった．一方，コメの作付けが制限されている地域では，水田を中心に浪江町南津島，飯舘村長泥および大熊町野上などで，20,000 Bq/kgを超える放射性Csが検出された．

さて，著者らは，カヤツリグサ科ハリイ属のマツバイ（Eleocharis acicularis）が多種類の重金属に対して耐性を有し，多種類の重金属を同時に吸収・蓄積できる超集積植物であることを報告した（榊原ほか，2006, 2008, 2010, 2011a；Ha et al, 2008, 2009a, b, 2011；Sakakibara et al, 2009, 2011b；藏本ほか，2011）．また，マツバイは，北海道から沖縄まで全国各地の湖沼，ため池，水路や水田などに群生する抽水性かつ繁殖力旺盛な多年草であるという点も，理想的なファイトレメディエーション植物としての性質を有していると言える．本研究事業では，福島第一原子力発電所事故によって発生した水田の放射性Cs汚染をカヤツリグサ科ハリイ属のマツバイ（Eleocharis acicularis）を用いて効率良く除染するフィールド実験を行った．なお，この研究事業成果は，すでに２つの学会で発表している（榊原・久保田，2012a, b）．

2．実験方法

本研究の実験は，福島県郡山市の福島県農業総合センターの協力のもと，同センター内の水田において実施した．それは，(1) 放射性Csに汚染された水田土壌に自生するマツバイの放射能濃度の測定，および (2) 放射性Csに汚染された水田土壌におけるマツバイの栽培実験およびその放射能濃度測定，である．以下にその方法を示す．

(1) 自生マツバイの放射能濃度測定

福島県農業総合センターの水田内に自生するマツバイは，稲の株の隙間にわずかに自生しているものが発見された（Fig. 1 a）．それらの体高は最高で７cm程度で，小さいものが多い（Fig. 1 b）．放射能濃度測定用のマツバイ試料の採取は，2011年8月11日に行った．

(2) マツバイの栽培実験およびその放射能濃度測定

実験開始時に，水田にはすでに稲が栽培されていたため，マツバイの栽培実験は日当たりの良い水田の縁で行った．栽培実験では，マツバイを①コンテナ栽培法および②直植え栽培法の２つの栽培方法で８月11日に水田へ移植し，24日間栽培実験を行った．実験終了後のマツバイの採取は９月４日に実施し，それらの134Csおよび137Csの放射能濃度を測定した．各栽培方法は以下の通りである．

①コンテナ栽培法：市販のプラスティックコンテナ（縦36cm×横50×高さ11cm）にマツバイを約１kgずつ移植する．本実験では計５つのプラスティックコンテナを用意した．この栽培実験では，愛媛県松山市南高井の用水路に自生しているマツバイを採取・輸送し，使用した（Fig. 2 a）．実験では，このマツバイを根を下にして，プラスティックコンテナに並べ（Fig. 2 aおよびc），放射性Csに汚染された水田土壌に設置した（Fig. 2 d）．栽培実験開始時の設置場所の水深は２～５cm程度であった．

②直植え栽培法：この方法では，放射性Csに汚染された水田土壌にマツバイを直接移植した．使用したマツバイは（1）の実験と同じである．栽培時に，マツバイの根が地表下数cmになるように移植した．また，マツバイの葉20～30本程度（20 g程度）が一株になるように，10 cm程度の間隔で植えた（Fig. 3 aおよびb）．

Fig. 1　E. acicularis growing naturally in the paddy field of the Fukushima Agricultural Technology Center.

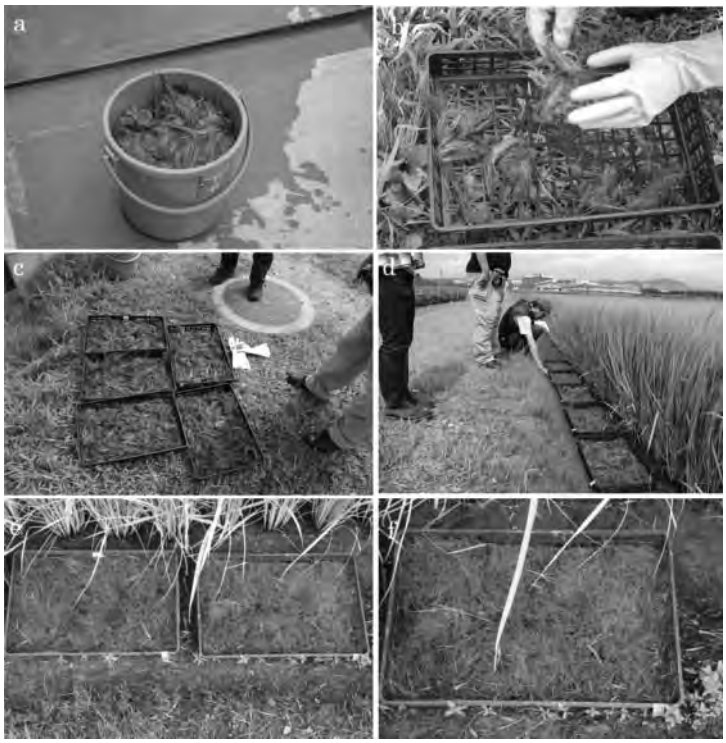


Fig. 2　Photographs of E. acicularis by the container cultivation method in the paddy field in the Fukushima Agricultural Technology Center (FATC). a: E. acicularis before the cultivation experiments, growing naturally in the Masuyama Plain, b, c, and d: translanting the E. acicularis into the plastic container and moving to the paddy field in the Fukushima Agricultural Technology Center, e and f: the E. acicularis after transplanting over 24 days.

3．分析方法および栽培地点の水・堆積物の重金属濃度

(1) 分析方法

上記栽培実験（1）および（2）のマツバイは，9月4日に分析用試料を採取した．採取したマツバイは十分に水で洗浄し，それを分析試料とした．マツバイの放射性Csの放射能濃度測定は，財団法人　九州環境管理協会においてゲルマニウム半導体検出器を用いたγ線測定によって行われた．

134Cs（半減期：2.06年）は，壊変に際して複数のγ線を段階的に放出するため，その測定時に，試料の形状によってはサム効果（複数のガンマ線が重なって検出される効果）が生じる．このサム効果の補正を実施しない場合，134Csの放射能濃度は一般的に真値より低めの値を示す．したがって，以下に示したデータでは，旧科学技術庁マニュアルに準拠し，検出器の効率校正および試料解析時におけるサム・コインシデンス効果補正が取り入れられている．

(2) 栽培地点における水田土壌の放射性Csの放射能濃度

今回，栽培実験を行った福島県農業総合センターの水田土壌の放射性Csの放射能濃度は，同センターによって3,800 Bq/kgであることが明らかにされている．

4．実験結果

(1) マツバイの生育状況

実験期間中のマツバイの生育状態は極めて良好であった．移植したマツバイは，コンテナ栽培法および直植え栽培法ともに，24日後にはバイオマスを増大させていた（Fig. 2 eおよびf，Fig. 3 cおよびd）．9月後半から水田の水が落とされ，マツバイが枯れだしたため，実験を終了した．ただし，湛水した状態のまま継続すれば，福島県の気温から考えて，11月末頃までマツバイの栽培が可能であると判断される．

マツバイ中の放射性Csの放射能濃度

上記実験におけるマツバイの放射性Csの放射能濃度を測定した結果をTable 1に示す．まず，センター内の放射性Csに汚染された水田土壌に自生するマツバイの放射能濃度は，134Csが3,080 Bq/kg，137Csが3,090 Bq/kg，総放射性Csが6,170 Bq/kgと高濃度であった．栽培実験で使用した愛媛県松山市のマツバイの初生値は検出限界値以下で，24日間の栽培実験後の放射性Csの放射能濃度は，①のコンテナ栽培法の場合，134Csが494 Bq/kg，137Csが552 Bq/kg，総放射性Csが1,046 Bq/kgで，②の直植え栽培法の場合，134Csが521 Bq/kg，137Csが635 Bq/kg，総放射性Csが1,156 Bq/kgであった．

放射性Csによって汚染された水田におけるマツバイの栽培方法

本研究の結果，放射性Csに汚染された水田におけるマツバイによるファイトレメディエーションは，「コンテナ栽培法」が最もリスクが低く，実践的かつ効率的であると考えられる．それは以下のような理由によっている；

①コンテナ栽培法は，直植え栽培法と比較して，短時間に，均質にかつ多量のマツバイを水田に移植可能である，
②実施者が直接汚染土壌に接触せずに実施可能である，
③除染終了時のマツバイの撤去が効率的にかつ短時間で実施できる，
④マツバイ撤去時にそれを洗浄して泥を除去する必要がない．

マツバイによる放射性Cs汚染された水田のファイトレメディエーションの実用性

今回の実験結果は，マツバイによる放射性Cs汚染された水田のファイトレメディエーションが実用化にまで展開することが可能になったことを示している．特に，福島県で実施したマツバイの栽培実験における「コンテナ栽培法」と「直植え栽培法」は，実験終了時の総放射性Csの放射能濃度はほぼ同じ値となり（Table 1），有意な差が認められなかった．したがって，実際

Table 1　Radioactivity concentration of E. acicularis in the experimetns.

Sample name	Sampling date	radioactivity concentration (Bq/kg)		detection limit (Bq/kg)	
		Cs-134	Cs-137	Cs-134	Cs-137
E. acicularis growing naturally in the paddy field of FATC	2011/8/11	3080	3090	96	84
E. acicularis growing naturally in the Matsuyam City	2011/8/6	N.D.	N.D.	13	17
E. acicularis by the container cultivation method after transplanting over 24 days	2011/9/4	494	552	29	18
E. acicularis by the direct cultivation method after transplanting over 24 days	2011/9/4	521	635	43	32

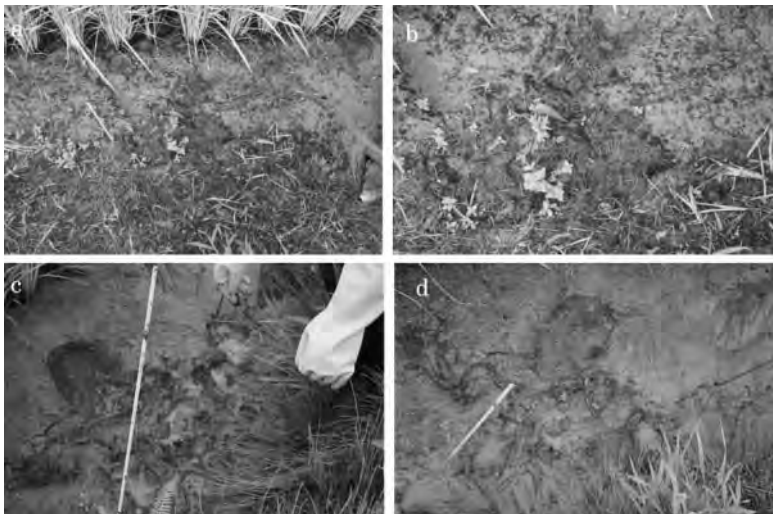


Fig. 3　E. acicularis by the direct cultivation method in the paddy field of the Fukushima Agricultural Technology Center.a and b: translanting the E. acicularis to the paddy field in the Fukushima Agricultural Technology Center, c and d: the E. acicularis after transplanting over 24 days.

の除染作業では，実施者の外部被曝リスクを低減するために，「コンテナ栽培法」の方がより現実的であると言える．

来年度，著者らの研究グループは，福島県の協力を得てどれくらいの期間でどれくらい放射性Csを低減できるかを実証するフィールド試験を実施する予定である．

謝辞：フィールド実験の際には，福島県農業総合センター・生産環境部の佐藤睦人氏および住鉱資源開発株式会社の水落幸弘氏にご協力いただいた．また，白河農業高校の根本氏には実験期間中のマツバイの写真撮影にご協力いただいた．以上の方々に，記して謝意を表する．

文献

Ha, N. T. H., Sakakibara, M., Takehana, D., Sano, S., and Sera, K., 2008, Accumulation of heavy metals by Eleocharis acicularis in an abandoned mining site of Hokkaido, Japan. *Proceeding of The 14th Symposium on Soil and Groundwater Contamination and Remediation*, 550-553.

Ha, N. T. H., Sakakibara, M., Sano, S., Hori, R. S., and Sera, K., 2009a, The potential of Eleocharis acicularis for phytoremediation: case study at an abandoned mine site. *CLEAN - Soil, Air, Water*, **37**, 203-208.

Ha, N. T. H, Sakakibara, M., and Sano, S., 2009b, Phytoremediation of Sb, As, Cu and Zn from Contaminated Water by the Aquatic Macrophyte Eleocharis acicularis. *CLEAN - Soil, Air, Water*, **37**, 720-725.

Ha, N. T. H., Sakakibara, M., and Sano, S., 2011, Accumulation of Indium and other heavy metals by Eleocharis acicularis: An option for phytoremediation and phytomining. *Bioresource Technology*, **102**, 2228-2234.

藏本　翔・榊原正幸・佐野　栄・世良耕一郎（Kuramoto, S., Sakakibara, M., Sano, S. and Sera, K.），2011，カヤツリグサ科マツバイによる重金属汚染水のファイトレメディエーションにおけるクリンカアッシュの有効性．第18回地下水・土壌汚染とその防止対策に関する研究集会講演集（*Proceeding of The 18th Symposium on Soil and Groundwater Contamination and Remediation*），445-448.

榊原正幸・原田亜紀・佐野　栄・堀　利栄・井上雅裕（Sakakibara, M., Harada, A., Sano, S., Hori, R. and Inoue, M.），2006，マツバイを用いたファイトレメディエーションによる重金属に汚染された水環境の浄化．第12回地下水・土壌汚染とその防止対策に関する研究集会講演集（*Proceeding of The 12th Symposium on Soil and Groundwater Contamination and Remediation*），545-548.

榊原正幸・大森優子・佐野　栄・世良耕一郎・濱田　崇・堀利栄（Sakakibara, M., Ohmori, Y., Sano, S., Sera, K., Hamada, T. and Hori, R.），2008，マツバイによる廃止鉱山残土堆積場の重金属汚染された水・底質環境の浄化．第14回地下水・土壌汚染とその防止対策に関する研究集会講演集（*Proceeding of The 14th Symposium on Soil and Groundwater Contamination and Remediation*），130-133.

Sakakibara, M., Harada, A., Sano, S., and Hori, R. S., 2009, Heavy metal tolerance and accumulation in Eleocharis acicularis, a heavy metal hyperaccumulating aquatic plant species. *Geo-pollution Science, Medical Geology and Urban Geology*, **5**, 1-8.

榊原正幸・ 菅原久誠・Ha, N. T. H.・彦田真友子（Sakakibara, M., Sugawara, H., Ha, N. T. H. and Hikoda, M.），2010，マツバイ中の植物珪酸体における重金属集積．第20回環境地質学シンポジウム論文集（*The Proceedings of the Twenty Symposium on GEO-Environments and GEO-Technics*），251-254.

榊原正幸・藏本　翔・岡崎健治・伊東佳彦・大日向昭彦・竹花大介（Sakakibara, M., Kuramoto, S., Okazaki, K., Ito, Y., Obinata, A. and Takehana, D.），2011a，セレンに富む残土排水のカヤツリグサ科マツバイによるファイトレメディエーション．第18回地下水・土壌汚染とその防止対策に関する研究集会講演集（*Proceeding of The 18th Symposium on Soil and Groundwater Contamination and Remediation*），310-312.

Sakakibara, M., Ohmori, Y., Ha, N.T.H., Sano, S., and Sera, K., 2011b, Phytoremediation of heavy metal-contaminated water and sediment by Eleocharis acicularis. *CLEAN - Soil, Air, Water*, **39**, 735-741.

榊原正幸・久保田有紀（Sakakibara, M. and Kubota, Y.），2012a，放射性セシウムに汚染された水田土壌のマツバイによるファイトレメディエーション．第21回環境地質学シンポジウム論文集（*The Proceedings of the Twenty-First Symposium on GEO-Environments and GEO-Technics*），11-16.

榊原正幸・久保田有紀（Sakakibara, M. and Kubota, Y.），2012b，福島県における放射性Cs汚染土壌のカヤツリグサ科マツバイによるファイトレメディエーション．第18回地下水・土壌汚染とその防止対策に関する研究集会講演集（*Proceeding of The 18th Symposium on Soil and Groundwater Contamination and Remediation*），154-156.

Islands Arcは，年４回発行されます．最新号のVol. 21 Issue 2が2012年６月に発行されました．日本語要旨をニュース誌と学会ホームページ（http://www.geosociety.jp）にも掲載しています．全文はオンライン（http://www. blackwell-synergy.com）で無料閲覧できますので，是非ご覧下さい．

（Island Arc編集委員会）

2011年度Island Arc編集委員会報告

日本地質学会Island Arc編集委員会

本年，日本地質学会の公式英文誌であるIsland Arc（IAR）は発行から21年目を迎えました．ここでは出版社であるWiley-Blackwell（W-B）社から送られてきた出版報告をもとに，IARの現状を地質学会の会員の皆様に御紹介したいと思います．

第20巻に37編の論文を掲載

2011年発行の第20巻には37編（Pictorialの2編およびPrefaceの１編を含む）の論文が掲載され，総ページ数は555ページでした．残念ながら，このページ数は2011年の契約ページ数（825ページ）に大きく及ばない数字です． IARの論文数と総ページ数を振り返ってみると，2006年は44編（548ページ），2007年は47編（606ページ），2008年は37編（594ページ）でしたが，W-B社と2009年以降のページ数増の契約を行ったため，2009年は40編（672ページ），2010年は52編（734ページ）と増加傾向にありました．2011年の極端な減少の原因は，2010年の投稿数の減少（58件）にあります（2009年は86件）．この投稿数不足は2011年（49件）も続き，2012年も掲載論文数と総ページ数の低迷から脱することは難しそうです．投稿数の減少の要因は，１）従来，IARでは特集を組むことにより投稿原稿を維持してきたのですが，特集の提案が減ったこと，２）競合誌に比べるとインパクトファクター（IF）が低迷しているため，原稿が競合誌を始めとする他誌に流れた可能性，３）東日本大震災により研究活動が停滞したこと等が考えられます．

IARでは，近年，１巻あたり２～３つの特集号が組まれてきましたが，第20巻に掲載された特集は「白亜紀におけるアジア古気候：多様性，原因および生物と環境の反応（IGCP Project 507）」のその２（Prefaceを含め，論文６編）のみでした．

第20巻掲載論文の第一著者の所属は，日本が16編で最も多く，続いて中国（６），イラン（４），韓国（３），インド（２），エチオピア（１），タイ（１），ドイツ（１），フィリピン（１），ベトナム（１），ロシア（１）となっています．2010年は従来とは大きく異なり，52編中36編が第一著者の所属を日本とするものでしたが，2011年は例年と同様，掲載論文の半数以上が第一著者の所属を海外とするものとなりました．海外からの原稿ではアジア圏が多いものの，特定の国に偏っており，今後，台湾・インドネシア・マレーシアなどの国々からの投稿を促す必要があると思われます．

2011年IFは1.012

本年６月にトムソンロイター社より2011年IFが発表されました．IARのIFは2006年の0.762以降，2007年の0.837，2008年の1.038，2009年の1.182と，わずかではありますが上昇傾向にありましたが，2010年は1.027に下降し，2011年は1.012と横ばいでした．しかし，IARのGeosciences（Multidisciplinary）分野での位置は，2009年の82位（153誌中），2010年の105位（165誌中），2011年の113位（170誌中）と低下傾向にあります．IFは必ずしも雑誌や掲載論文の質を表すものではありません．また，論文が内容ではなく，掲載雑誌のIFの高低で判断されるという弊害があることも指摘されています．しかし，最近は，論文の投稿先を選ぶ際に，IFを考慮に入れる方が多くなっており，これは特に若手研究者に著しい傾向です．よって，IFの上昇は，IARの発展のために欠かせない要件だと言えます．2011年IFの対象論文（2009年および2010年にIARに掲載された論文）をみてみると，相当数の論文が未引用となっており，これがIARのIF低迷の原因となっています．「日本の研究者は，日本人の研究を引用しないことで，書いた論文のステータスがあがると思っているようにみえる」という話をした海外の研究者がいるそうですが，IARには質の高い論文が多く掲載されていますので，論文作成の際には，積極的なIAR掲載論文の引用をお願いいたします．

Island Arc賞

2011年の「Island Arc賞」受賞論文は，Saffer, D. M., Underwood, M. B. and Mckiernan, A. W.（2008）Evaluation of factors controlling smectite transformation and fluid production in subduction zones: Application to the Nankai Trough. Island Arc, 17, 208-230に決定されました．授賞式は日本地質学会年会（水戸大会）において行われ，宮下会長から賞状と賞金が贈呈されました（本人は欠席）．2012年の受賞論文は， Barber, A. J. and Crow, M. J. （2009） Structure of Sumatra and its implications for the tectonic assembly of Southeast Asia and the destruction of Paleotethys. Island Arc, 18, 3-20です．

最多ダウンロード賞

2012年最多ダウンロード賞は，2006年～2010年に出版された論文のうち，2011年に最もダウンロードされた論文に与えられます．ただし，同一論文に複数回授賞しないという制約があります．以上の規則に基づいた2012年最多ダウンロード賞は，Wu, F.-Y., Yang, J.-H., Lo, C.-H., Wilde, S. A., Sun, D.-Y. and Jahn, B.-M.（2007）The Heilongjiang Group: a Jurassic accretionary complex in the Jiamusi Massif at the western Pacific margin of northeastern China. Island Arc, 16, 156-172となりました．

今後のIARに関して

現在，IARは冊子体と電子ジャーナルの双方を出版しております．しかしながら，冊子体の発行部数は極めて少なく，W-B社としては2013年より完全電子ジャーナル化に踏み切りたいとの連絡がありました．編集委員会および執行理事会で，本提案に関して慎重に審議した結果，出版の電子化という趨勢と完全電子ジャーナル化のメリット（カラー図版の無料化等）に鑑み，W-B社の提案を受諾することになりました．

国内における学術雑誌の刊行に関しては，大きな状況の変化が生じつつあります．昨年の秋に，文部科学省および日本学術

振興会が，学術刊行物に対する科学研究費補助金の配分の方針を大きく変更しました．文科省および学術振興会としては，日本の学会誌のレベルが満足する水準にないと認識しており，世界に通用するレベルの国際誌が育つように科研費を配分する予定です（５年間の移行期間あり）．そのため，既存の学会誌に対する科研費の配分は大きくカットされ，日本地球惑星科学連合のような“連合”規模の発行する学会誌に予算が重点配分されると言われています．このような流れの中で，地球科学分野でも，日本地球惑星科学連合から電子ジャーナルの出版が予定されており，学会誌の再編とよい論文原稿の争奪戦が生じると予想されます．このような競争的な状況の中で，IARを優れた学術雑誌にするためには，何よりも会員の皆様方からの積極的な投稿が肝要です．特に，学会をリードする理事の方々が，任期中（２年間）に論文を１編投稿していただければ，原稿不足はほぼ解消しますので，理事の方々には，是非，質の高い原稿をIARに投稿していただきますよう，お願いいたします．

2008年～2011年の４年間にわたり編集委員長を務めた井龍康文と前川寛和に代わって，2012年より伊藤　慎会員と海野　進会員が編集委員長を務めることになりました．編集事務局長は原　英俊会員が担当します．旧編集陣に対する御鞭撻に心より感謝するとともに，新編集陣に対する御支援をよろしくお願いいたします．

支部コーナー

☆関東支部

お知らせ

銚子巡検のお知らせ

関東支部では関東地質調査業協会（共催）と日本第四紀学会（後援）のもと，2012年度事業として10月27日と28日の２日間にわたり「銚子巡検」を開催いたします．巡検では，銚子周辺にみられる薄衣型礫岩（ペルム紀？）やジュラ紀付加体，白亜紀以降の前弧海盆堆積物や前期中新世の古銅輝石安山岩溶岩，そして鮮新統～更新統の犬吠層群までを観察します．さらに，夜間講演会では，観察事項，昨今の知見，およびそれらに基づく日本列島形成史や関東平野の変動史の解説が案内者によりなされます．最終的に，参加者の皆様には変動帯としての日本列島の鳥瞰的理解を深めていただきたいと考えております．会員の方はもとより，広く参加者を募集します．CPDは16単位取得可能です（銀行振込後の参加者交代は可能）．詳細は，参加者の皆様へ直接メールにてご連絡いたします．

主催：日本地質学会関東支部
共催：関東地質調査業協会
後援：日本第四紀学会

開催日時：2012年10月27日（土）～28日（日），１泊２日
主なルート：１日目　8:30JR錦糸町駅南口発→11:00～16:30銚子周辺→17:00宿
２日目　8:00宿→8:30～15:30屏風ヶ浦周辺→18:00錦糸町駅解散
募集対象・募集人数：会員および一般，40名程度
参加費：17,000円（学生は10,000円）．宿泊代（二食＋２日目昼食）および往復貸し切りバス代を含む．初日の昼食は各自弁当持参．
講師：高橋雅紀氏（産総研），鈴木毅彦氏（首都大学東京）
申込：ジオ・スクーリングネット（https://www.geo-schooling.jp/）または担当幹事へお願いします．
申込締切：10月20日（土）17時
担当幹事：加藤　潔（駒澤大学）kiyoshi.katoh@gmail.com
細根清治（株式会社東建ジオテック）
s.hosone@tokengeotec.co.jp

学会オリジナルフィールドノート 好評発売中です！！

皆様からご好評いただいております，学会オリジナルフィールドノートが新しくなりました．

表紙がビニールコーティングになり，今までよりもさらに水や摩擦・衝撃にも強くなりました．野外調査に最適です．本体の紙は従来と同じく雨に濡れても丈夫なレインガード紙を使用しています．ぜひご活用ください．

サイズ：12×19cm（従来と同じです）．　カバー：ハードカバー，ビニールコーティング，金箔押し．
色：ラセットブラウン（小豆色）　会員頒価：500円
ご希望の方は学会事務局まで＜main@geosociety.jp＞

出 版 物 在 庫 案 内

ご希望の方は代金を添えて本会事務局宛お申込みください．なお，2冊以上のお申込みにつきましては送料をお問い合わせください．

現金書留または郵便振替　00140－8－28067

40号以前の論集については，一部在庫がございます．院生・学生4割引，正会員2割引で販売しております．ご希望の方は学会事務局までお問い合わせ下さい．No. 40以降の論集：院生・学生のみ2割引

地 質 学 論 集

第 40 号　中央構造線のネオテクトニクス―その意義と問題点―．岡田篤正ほか編，250pp., 1992年12月刊，会員頒価3,200円，〒340円

第 42 号　西南日本の地殻形成と改変．小松正幸ほか編，357pp., 1993年4月刊，会員頒価3,100円，〒340円

第 43 号　浅部マグマ溜りとその周辺現象の地球科学．村岡洋文ほか編，177pp., 1994年4月刊，会員頒価2,000円，〒340円

第 44 号　島弧火山岩の時空変遷．周藤賢治ほか編，335pp., 1995年11月刊，会員頒価2,800円，〒340円

第 45 号　~~シーケンス層序学―新しい地層観を目指して．斎藤文紀ほか編，249pp., 1995年8月刊，会員頒価2,500円，〒340円~~（売り切れました）

第 46 号　火山活動のモデル化．佐藤博明ほか編，162pp., 1996年9月刊，会員頒価 1,900円，〒290円

第 47 号　日高地殻―マントル系のマグマ活動．荒井章司ほか編，323pp., 1997年4月刊，会員頒価3,000円，〒340円

第 48 号　Cretaceous Environmental Change in East and South Asia （IGCP350） Contributions from Japan―　岡田博有ほか編，188pp.，1997年6月刊，会員頒価 2,100円，〒340円

第 49 号　21世紀を担う地質学．新妻信明ほか編，232pp.，1998年3月刊，会員頒価 2,500円，〒340円

第 50 号　構造地質　特別号―21世紀の構造地質学にむけて―．狩野謙一ほか編，263pp.，1998年7月刊，会員頒価2,500円，〒340円

第 51 号　地震と地盤災害―1995年兵庫県南部地震の教訓―．岡田博有ほか編，162pp.，1998年3月刊，会員頒価3,000円，〒340円

第 52 号　オフィオライトと付加体テクトニクス．宮下純夫ほか編，316pp.，カラー 10pp.，1999年9月刊，会員頒価3,000円，〒340円

第 53 号　本州弧下部地殻と珪長質マグマの生成・活動システム．加々美寛雄ほか編，401pp.，1999年11月刊，会員頒価3,900円，〒450円．

第 54 号　タフォノミーと堆積過程―化石層からの情報解読―小笠原憲四郎ほか編，197pp.，1999年12月刊，会員頒価2,900円，〒340円．

第 55 号　~~ジュラ紀付加体の起源と形成過程．木村克己ほか編，221pp.，2000年1月刊，会員頒価2,800円，〒340円．~~（売り切れました）

第 56 号　古領家帯と黒瀬川帯の構成要素と改変過程．高木秀雄ほか編，253pp., 2000年3月刊，会員頒価2,900円，〒340円．

第 57 号　砕屑岩組成と堆積・造構環境．公文富士夫ほか編，240pp., 2000年9月刊，会員頒価2,800円，〒340円．

第 58 号　~~地震イベント堆積物―深海底から陸上までのコネクション―藤原　治ほか編，169pp., 2004年12月刊，会員頒価2,900円，〒340円．~~

第 59 号　沖積層研究の新展開　井内美郎ほか編，212pp.，2006年5月刊，会員頒価2,400円，〒340円．

リーフレットシリーズ

大地の動きを知ろう―地震・活断層・地震災害―　1995年4月発行　会員価格200円（非会員300円）

大地のいたみを感じよう―地質汚染Geo－Pollutions 1997年2月発行　会員価格 200円（非会員300円）

大地をめぐる水―水環境と地質環境―　2001年5月発行　会員価格300円（非会員400円）

日本列島と地質環境の長期安定性　2011年発行　会員価格500円（非会員600円）

国立公園地質リーフレットたんけんシリーズ（**20部以上購入の場合割引あり**）

1．箱根火山たんけんマップ―今、生きている火山　2007年5月発行　会員価格300円

2．屋久島地質たんけんマップ―洋上アルプスは不思議な地質がいっぱい―　2009年3月発行　会員価格300円

3．城ヶ島たんけんマップ―深海から生まれた城ヶ島―　2010年9月発行　会員価格300円

国立公園地質リーフレットシリーズ

1．箱根火山　2007年7月発行　会員価格1,000円（**20部以上購入の場合割引あり**）

下敷き：「干渉色図表」・「偏光顕微鏡による鉱物鑑定表」（英語版）1枚200円（非会員300円）

講演要旨集ほか

第117年学術大会講演要旨（2010年富山）　会員頒価4,000円，〒500円

第117年見学旅行案内書（2010年富山）　会員頒価2,800円，〒500円

第116年見学旅行案内書（2009年岡山）　会員頒価2,800円，〒500円

第115年見学旅行案内書（2008年秋田）　会員頒価2,500円，〒500円

第114年学術大会講演要旨（2007年札幌）　会員頒価4,000円，〒500円

※このほか，大会講演要旨は，2002年新潟，2003年静岡，2004年千葉，2006年高知．見学旅行案内書は，2003年静岡，2004年千葉，2005年京都に残部があります．

フィールドノート：学会オリジナル．12×19cm．ハードカバー．レインガード使用　会員頒価1冊500円．

日本地質学会会員の皆様へ　特別割引販売のお知らせ

日本地質学会構造地質部会編集

編集委員長:高木秀雄　特別顧問　竹下徹，小川勇二郎，村田明広，白尾元理

日本の地質構造 100 選

（B5 判　180 頁　オールカラー）

定価 3,990 円(税込)を会員特別割引価格 3,700 円(税・送料込)

[2012 年 10 月末日まで]

地質構造を中心に国内の重要な露頭を集めたカラーアトラス
断層，活断層，断層岩，褶曲，小構造，メランジュなどの６つのカテゴリーに区分けし
解説．フォトコンテスト入賞作も紹介．

日本地質学会会員の皆様に『日本の地質構造 100 選』を特別割引価格で販売をいたします．お申し込みは，下記用紙にて直接朝倉書店までお願いいたします．

日本地質学会構造地質部会

事務手続き代行：株式会社 朝倉書店
［問い合せ先］　〒162-8707 東京都新宿区新小川町 6-29
株式会社 朝倉書店　編集部：千葉　Tel.03-3260-1967
［お申し込み］　本ページをコピーのうえ，ファクシミリまたは郵送にて上記までお送り下さい．
［お支払方法］　書籍到着後，同封の振替用紙にてご送金下さい．

注意：会員特別割引は，一般書店・大学生協ではご利用できません．

会　員　特　価　申　込　み　書

Fax No.03-3268-1376　朝倉書店編集部　千葉 行

日本の地質構造 100 選　　会員特価 3,700 円（定価 3,990 円）　　冊

お名前：

ご送付先：〒　　－

ご所属：

tel.　　fax.

備考：公費等の場合は，請求先・必要書類をお知らせ下さい．

大阪府立大学創基 130 年記念事業

日本地質学会第 119 年学術大会　市民講演会

地震・津波・地盤災害
～知ること、伝えること～

日時：2012 年 9 月 16 日（日）　14：30 -17：00（開場 13：30）
会場：大阪府立大学なかもずキャンパス　U ホール白鷺
主催：一般社団法人日本地質学会・公立大学法人大阪府立大学

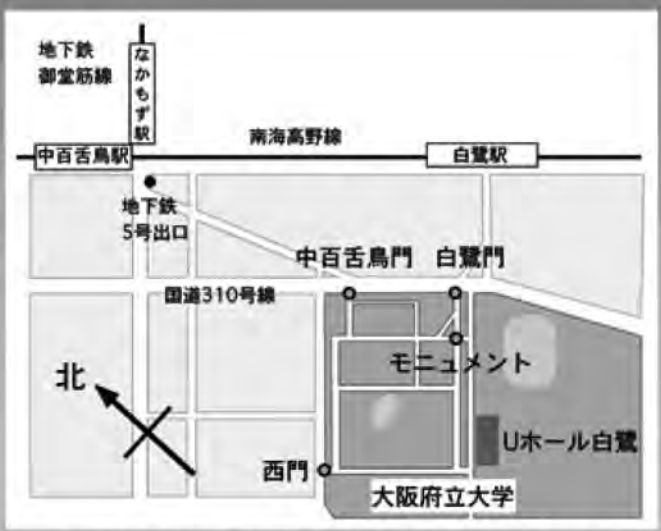
「将来の地震津波災害にどう備えるか
～過去の巨大地震大津波からの教訓～」
金田義行氏（海洋研究開発機構）
「内陸地震はどうして起こるのか？」
飯尾能久氏（京都大学）
「近畿の地盤特性と地震時の挙動」
三田村宗樹氏（大阪市立大学）

＊市民講演会の前後各 1 時間に会場エントランスホールにおいて
「市民向けポスター展示説明会」を行います。

大地震両川口津波記石碑（大阪市浪速区　大正橋東詰）
安政南海地震（1854 年）では、大阪市内の川に沿って津波が遡上し、甚大な被害を受けた。それを後世に伝えるために翌年建立された。

■参加費無料。どなたでもご参加いただけます。申込不要。
■お問い合わせ：
email：ishii@p.s.osakafu-u.ac.jp　電話：072-254-9729（石井和彦）
http://www.osakafu-u.ac.jp/event/2012/20120916.html

■会場へのアクセス
◎南海高野線「中百舌鳥」駅および地下鉄御堂筋線「なかもず」駅（5 番出口）より南東へ、約 1000 m。
◎南海高野線「白鷺」駅より南西へ、約 500 m。
◎南海本線堺駅、JR 阪和線三国ケ丘駅から南海バス（北野田駅前行 31、32 系統、堺駅から約 24 分、三国ケ丘駅から約 14 分）に乗車し、府立大学前下車。
※駐車場はありませんので、電車・バス等をご利用ください。



後援：大阪市教育委員会、堺市教育委員会、大阪府、大阪市、堺市、NHK 大阪放送局、毎日新聞社、読売新聞大阪本社、朝日新聞社、一般社団法人全国地質調査業協会連合会、関西地質調査業協会

関連行事
地質情報展 2012 おおさか「過去から学ぼう　大地のしくみ」
期間：9 月 15 日（土）～17 日（月）
会場：大阪市立自然史博物館・花と緑と自然の情報センター
詳しくは、http://www.gsj.jp/HomePageJP.html

「市民講演会」は、平成 24 年度科学研究費補助金研究成果公開促進費補助事業です。

Stallard Scientific Editing

your trusted partner in English-language excellence

science • technology • medicine • engineering • arts **research papers • theses • books • abstracts**

スタラード・サイエンティフィック英文校正のDr.アーロン・スタラードにお任せください．
貴方の地球科学の学術論文の英語をネイティブレベルの完璧な英語に英文校正します．

Dr.アーロン・スタラードの略歴：

- 1999年，ジェームスクック大学（オーストラリア）において博士号（地球科学）取得．
- 2000〜2001年，日本学術振興会外国人特別研究員として静岡大学理学部に滞在．
- 2002〜2005年，カンタベリー大学（ニュージーランド）FRST特別研究員．
- 国際誌10編の原著論文．
- 固体地球科学，地震学，物理探査（リモートセンシング），古生物学，生態学，気象学，森林学，気候変動学，海洋学，環境モデリング等，地球科学と環境科学の幅広い分野での英文校正の実績．

スタラード・サイエンティフィック英文校正について．

スタラード・サイエンティフィック英文校正は，世界各国の英語を外国語とする研究者の方々のためのオンライン英文校正サービス会社です．ニュージーランドのネルソンから，ニュージーランド在住のネイティブスピーカーによる英文校正サービスをご提供いたします．

スタラード・サイエンティフィック英文校正は2006年にDr. アーロン・スタラードとアナベル・ボーイズ夫妻により設立されました．夫妻は，地球科学（Earth Science）と医療撮影（Medical Imaging）の専門分野でそれぞれ活躍後，日本やヨーロッパの英文校正会社にてフリーランスの英文校正者としての経験を積んで独立し，スタラード・サイエンティフィック英文校正を設立いたしました．

スタラード・サイエンティフィック英文校正の利点をご検討下さい．

- **迅速な対応：**スタンダードサービス4〜6日（休日を除く）；エクスプレスサービス1〜2日（休日を除く）．
- **英文校正者のエキスパート：**専門分野に精通した校正経験豊富なネイティブ英文校正者．
- **満足感、高品質を保証：**お客様が私どものサービスに100％御満足いただけるまで料金のお支払いは不要です．私どもの無料*Ask-the-Editor Service* 及び*Draft-to-Journal Guarantee*保証をご覧下さい．
- **お客様の自国の通貨でお支払い：**日本円建てによるお見積り，お支払いをお取り扱いしております．
- **お支払い方法：**日本国内の銀行口座への振込による方法とオンライン上でクレジットカードによるお支払いの方法が選択できます．

www.stallardediting.com

Stallard Scientific Editing, 56 Brougham St, Nelson 7010, New Zealand

Tel: +64 3 5489108 Internet: www.stallardediting.com
Fax: +64 3 5489106 Email: aaron@stallardediting.com